取　扱　書

よくお読みになってご使用ください。
取扱書は車の中に保管しましょう。

PIXIS TRUCK

TOYOTA

このたびは、トヨタ車をお買い上げいただき、ありがとうございます。

本書は、ピクシストラックの正しい取り扱いかたや、お手入れの方法などについて説明しているほか、車を操作するうえで必ず守っていただきたいこと、また、万一のときの処置についても記載しています。
安全で快適なカーライフをお楽しみいただくために、ご使用の前に必ずお読みください。

必読！ドライバーのみなさまへ

特に重要な事柄です。必ず読んでから操作、あるいは作業に取りかかってください。これらを守らないと思わぬけがや事故につながったり、車を損傷するおそれがあります。

安全についての表示マーク・その他の表示マーク

本文中に記載されているマークの意味は下記の通りです。

⚠ 警告	**お守りいただかないと、お客様自身と周囲の人々が死亡、または重大な傷害につながるおそれがあることを説明しています。**
⚠ 注意	**お守りいただかないと、お車や装備品の故障や破損につながるおそれがあることを説明しています。**
知識	**機能や操作方法の説明以外で知っておいていただきたい、知っておくと便利なことを説明しています。**
オプション / グレード別装備	**オプション、またはグレードなどにより、装備の有無の異なる項目です。**

ご愛車のために

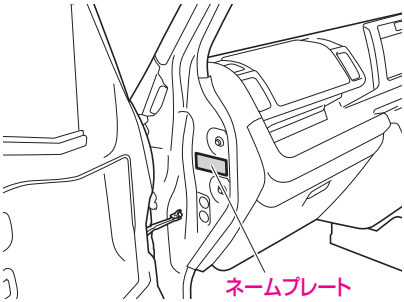
- 車種によって取り扱い方法が異なる場合は、車両型式やエンジン型式を確認したうえで操作を行ってください。 車両型式、エンジン型式は本書の「ご愛車に関するメモ」にあらかじめ記入しておくと便利です。
- 保証および点検・整備については、別冊の「メンテナンス ノート」に記載していますのでお読みください。
- お車をゆずられる際は、次のオーナーのために必ず本書を車に付けておいてください。
  - 車の仕様変更により、本書の内容やイラストがお車と一部異なる場合がございますがご了承ください。
  - 本書は別冊の「メンテナンス ノート」とともに、いつもお車に保管しておいてください。
  - ご不明な点は、ご購入先のトヨタ販売店（営業スタッフ）におたずねください。

ご愛車に関するメモ

記入される記号・番号は、車検証、ネームプレートをご覧ください。

ご愛車のメモ	
車名および型式	車名:
	型式:
車台番号	
エンジン型式	KF型エンジン
総排気量	658cc
車体色(番号)	
トランスミッション	・マニュアルトランスミッション ・オートマチックトランスミッション

ネームプレートは助手席側ドアを開けたところに貼り付けしてあります。



MEMO

目次

絵目次 …… 2
こんなときは …… 10

必読！ドライバーのみなさまへ

走行する前に …… 14
エンジンをかけるときは …… 18
走行しているときは …… 19
駐停車するときは …… 22
お子さまを乗せるときは …… 24
こんなときは …… 26
お車を長持ちさせるには …… 29
知っておいていただきたいこと …… 31

安全なドライブのために

正しい運転姿勢 …… 34
正しい運転姿勢 …… 34
シートベルト …… 35
正しいシートベルトの着用 …… 35
シートベルトの使いかた …… 35
お子さま専用シート …… 40
チャイルドシート …… 40
チャイルドシートの選びかた …… 42
チャイルドシートの固定のしかた …… 43
SRS エアバッグ …… 46
SRS エアバッグ …… 46
SRS エアバッグコンピューター …… 52

各部の開閉と各部の調整

車体各部の開閉 …… 54
キー …… 54
キーレスエントリー …… 56
ドア …… 57
パワーウインド …… 61
手動式ウインド …… 65
荷台関係 …… 66
給油のしかた …… 73
車体各部の調整 …… 76
シート …… 76
ルームミラー …… 77
ドアミラー …… 77

計器類とスイッチ

警告灯、表示灯 …… 80
警告灯 …… 80
表示灯 …… 88
メーターのはたらき …… 92
メーター …… 92
スイッチの使いかた …… 95
ライトスイッチ …… 95
ヘッドランプマニュアル
レベリングスイッチ …… 97
フォグランプスイッチ …… 98
ワイパー・ウォッシャー
スイッチ …… 98
ホーンスイッチ …… 99
方向指示スイッチ …… 100
非常点滅灯スイッチ …… 100

車を運転するにあたって

運転するときは …… 102
運転をする前に …… 102
運転のしかた …… 104
運転するときの注意事項 …… 107
運転装置の使いかた …… 110
エンジンスイッチ …… 110
駐車ブレーキ …… 112
シフトレバー
（オートマチック車）…… 113
シフトレバー
（マニュアル車）…… 117
エコ・楽モード切替機構 …… 118
パートタイム4WD …… 119
スーパーデフロック …… 122
ABS …… 123
ABS（EBD 機能付）…… 123

装備品の使いかた

空調 …… 126
エアコン／ヒーター …… 126
オーディオ …… 134
アンテナ …… 134
オーディオの取り扱い …… 134
AM/FM 付ラジオ …… 137
インテグレート CD・AM/FM 付
ステレオ・AUX 端子 …… 143
室内装備品 …… 156
室内照明 …… 156
アクセサリーソケット …… 157
移動式灰皿 …… 158
サンバイザー …… 158
アシストグリップ /
乗降グリップ …… 160
収納装備 …… 161
ドリンクホルダー …… 164
ショッピングフック …… 165

車のお手入れ

日常のお手入れ …… 168
ボデー、塗装面のお手入れ …… 168
室内のお手入れ …… 170
簡単な点検・部品の交換 …… 172
各部の点検 …… 172
消耗品の補給、交換 …… 177
タイヤの点検 …… 180
ワイパーの交換 …… 182
エアコンガス、フィルターの交換 …… 184
ヒューズの交換 …… 185
電球（バルブ）交換 …… 188
キーの電池交換 …… 198

積雪、寒冷時の取り扱い

積雪、寒冷時の取り扱い …… 202
冬に向かってのお手入れ …… 202
走行前点検と準備 …… 203
積雪、寒冷時の走行 …… 204
走行中の点検と注意 …… 205
走行後の取り扱い …… 206

いざというときに

工具類 …… 208
格納場所 …… 208
ジャッキの使いかた …… 210
いざというときの処置 …… 214
エンジンがかからないとき …… 214
スタック（立ち往生）したとき …… 214
故障したとき …… 215
けん引されるとき …… 217
パンクしたとき …… 220
タイヤの交換 …… 221
バッテリーあがりの処置 …… 225
オーバーヒートの処置 …… 227
キーを閉じ込めたとき …… 229
車両を緊急停止するには …… 229
事故が起きたとき …… 230

サービスデータ

サービスデータ …… 234

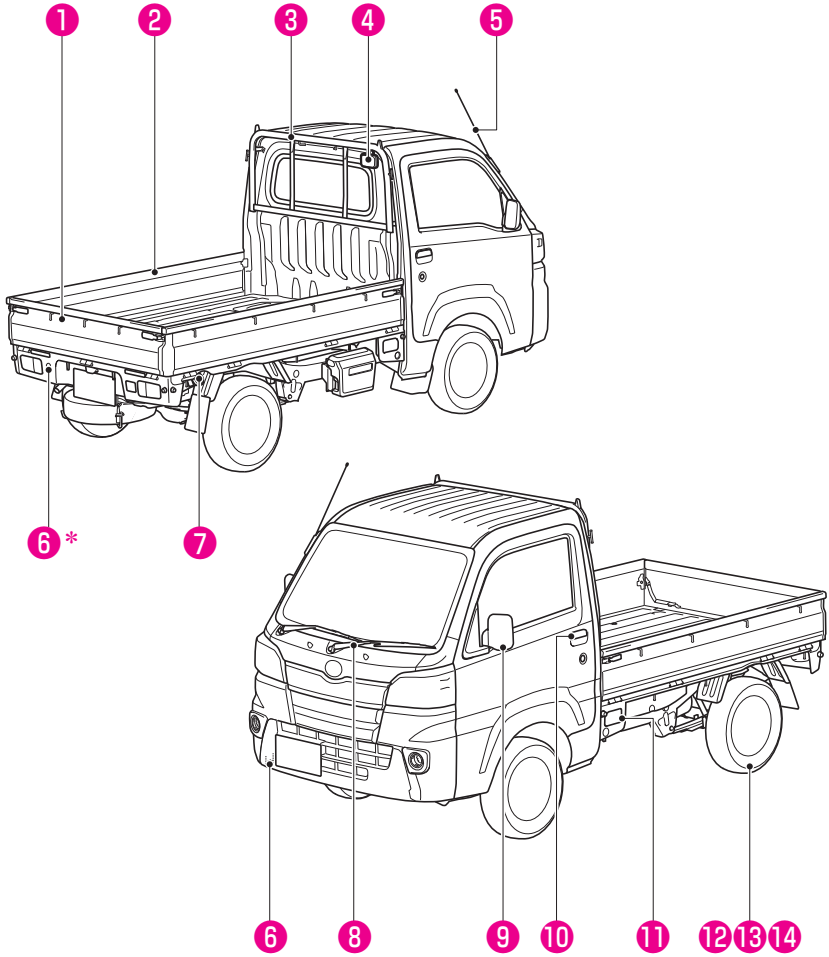
さくいん

さくいん …… 240

絵目次

外観

グレードの違い、注文装備も記載しています。

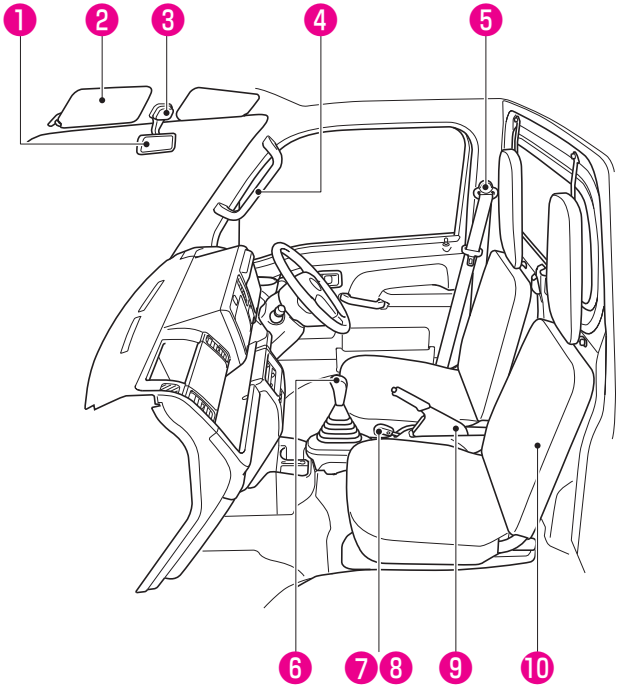


＊ リヤのけん引フックは、トヨタ販売店で購入できます。

❶ テールゲート …… 68
❷ サイドゲート …… 70
❸ ガードフレーム …… 70
❹ 荷台作業灯 …… 71
❺ アンテナ …… 134
❻ けん引フック …… 219
❼ フューエルキャップ …… 74
❽ ワイパー …… 98
❾ ドアミラー …… 77
❿ ドアの開閉 …… 57
⓫ 荷台ステップ …… 72
⓬ タイヤの交換 …… 221
⓭ タイヤのローテーション …… 181
⓮ タイヤチェーン …… 204

内装（1）

グレードの違い、注文装備も記載しています。



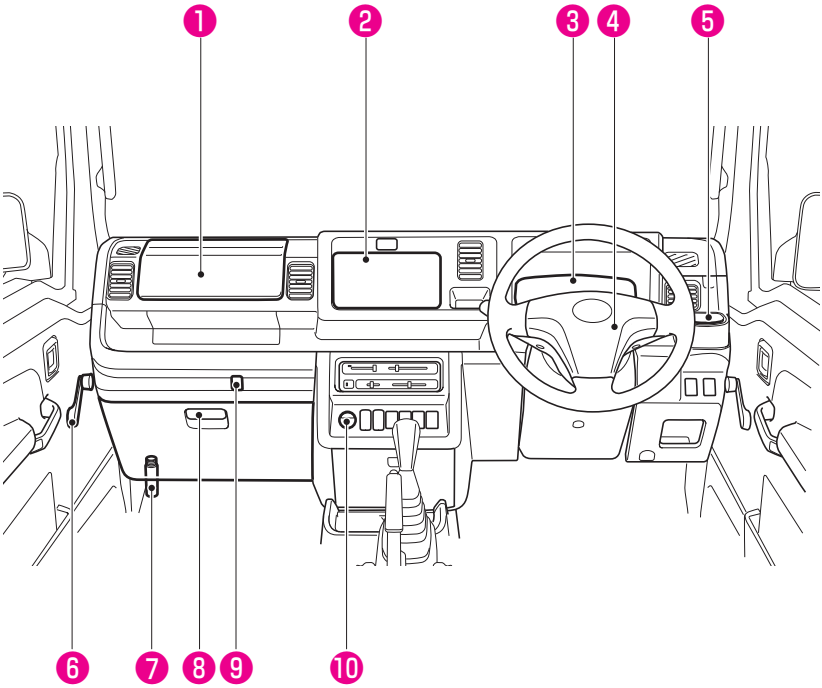
助手席エアバッグの有無にかかわらず、助手席にベビーシートを取り付けたり、チャイルドシートを後ろ向きに取り付けないでください。
衝突時などに生命にかかわる重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

（チャイルドシートの固定のしかた→ 43 ページ）

❶ ルームミラー…… 77
❷ サンバイザー…… 158
❸ ルームランプ…… 156
❹ 乗降グリップ …… 160
❺ シートベルト …… 35
❻ シフトレバー
オートマチック車 …… 113
マニュアル車…… 117
❼ エコ・楽モード切替レバー …… 118
❽ Hi-Lo モード切替レバー …… 121
❾ 駐車ブレーキ…… 112
❿ シート…… 76

内装（2）

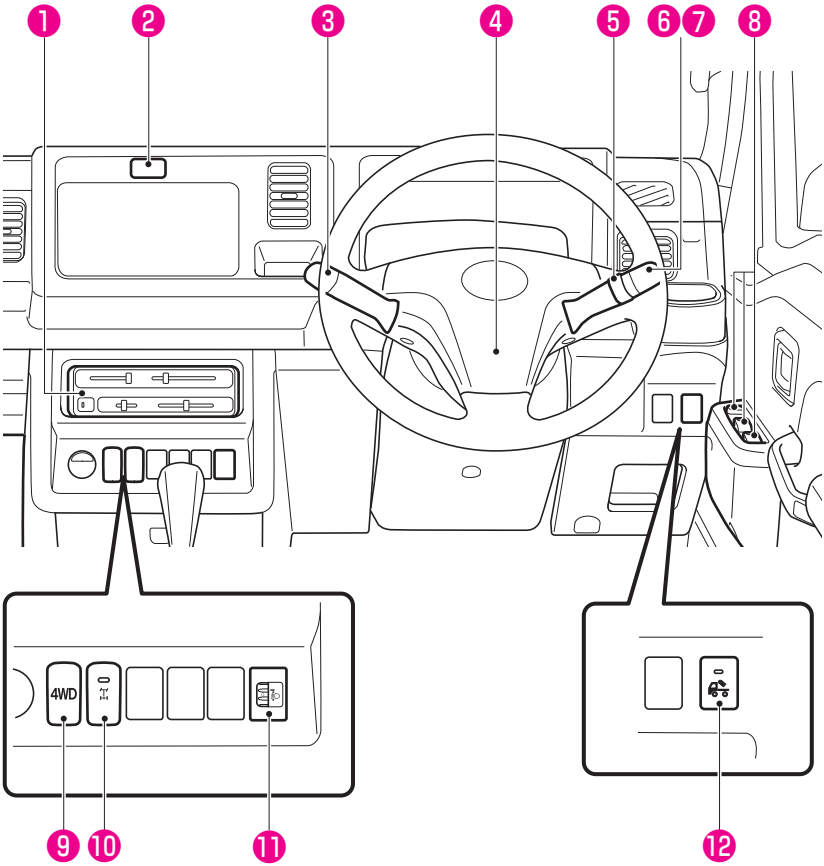
グレードの違い、注文装備も記載しています。



❶ 助手席 SRS エアバッグ …… 46
❷ オーディオ …… 134
❸ メーター …… 92
❹ 運転席 SRS エアバッグ …… 46
❺ ドリンクホルダー …… 164
❻ 手動式ウインド …… 65
❼ 発炎筒 …… 216
❽ グローブボックス …… 162
❾ ショッピングフック …… 165
❿ アクセサリーソケット …… 157

運転席まわり

グレードの違い、注文装備も記載しています。



❶ エアコン / ヒーター …… 126
❷ 非常点滅灯スイッチ …… 100
❸ ワイパー・ウォッシャースイッチ …… 98
❹ ホーンスイッチ …… 99
❺ フォグランプスイッチ …… 98
❻ ライトスイッチ …… 95
❼ 方向指示スイッチ …… 100
❽ パワーウインドスイッチ …… 61
❾ 4WD スイッチ …… 119
❿ デフロックスイッチ …… 122
⓫ ヘッドランプマニュアルレベリングスイッチ …… 97
⓬ 荷台作業灯スイッチ …… 71

お困りの際は、次のことを確認してください。

施錠／解錠／ドアの開閉ができない

キーレスエントリー装着車

● メインキーの電池の消耗、または電池が切れていませんか？

症状を確認して、該当すれば電池を交換してください。

→ 198 ページ（キーの電池交換）

● 電波状況により、機能が正常に働いていない可能性があります。

→ 56 ページ（作動範囲）

エンジンがかからない

● オートマチック車 ブレーキペダルをしっかり踏めていますか？

● オートマチック車 シフトレバーは P になっていますか？

● マニュアル車 クラッチペダルをしっかり踏めていますか？

「エンジンのかけかた」を参照して、もう一度操作してください。

→ 110 ページ（エンジンのかけ方）

● ハンドルがロックされていませんか？

ハンドルを軽く左右に回しながら、キーを回してください。

2WD⇄4WD に切り替わらない

4WD 車

● エンジンは暖まっていますか？

暖機不足の状態では、4WD に切り替わらないことがあります。

→ 119 ページ（パートタイム 4WD）

Hi-Lo モード切替機構装着車

● Hi-Lo モード切替レバーが H レンジになっていますか？

レバーが H レンジでないと 2WD に切り替わりません。

→ 121 ページ（Hi-Lo モード切替レバー）

Ⓗ レンジ ⇄ Ⓛ レンジに切り替わらない

Hi-Lo モード切替機構装着車　エコ・楽モード切替機構装着車

● クラッチペダルをしっかり踏めていますか？

停車してクラッチペダルをしっかりと踏みなおして操作してください。

→ 118 ページ（エコ・楽モード切替機構）
→ 121 ページ（Hi-Lo モード切替レバー）

警告灯が表示された

● 以下のページを参照してください。

→ 80 ページ（警告灯）

MEMO

安全のためにぜひ守りましょう

必読！
ドライバーのみなさまへ

ご使用の前に、特に守っていただきたいこと、
知っておいていただきたいことをまとめています。

警告に値する項目です

注意に値する項目です

走行する前に …… 14
エンジンをかけるときは …… 18
走行しているときは …… 19
駐停車するときは …… 22
お子さまを乗せるときは …… 24
こんなときは …… 26
お車を長持ちさせるには …… 29
知っておいていただきたいこと …… 31

走行する前に

お出かけの前に知っておいていただきたいこと、お守りいただきたいことをまとめています。

日常点検などをかかさず行ってください

安全で快適な運転をしていただくために、日常点検・定期点検整備を実施することが法律で義務付けられています。
点検・整備はメンテナンスノートにしたがって実施してください。
詳しくは別冊の「メンテナンスノート」をご覧ください。

各部を正しく調整してください

シート、ミラー類の位置を正しく調整してください。

（車体各部の調整→ 76 ページ）

シートベルトは乗員全員が必ず着用してください

「正しいシートベルトの着用」をよくお読みいただき、正しく着用してください。

（正しいシートベルトの着用→ 35 ページ）

危険物は持ち込まないでください

車内や荷室内には、ガソリン、灯油、シンナーなどの引火物の入った容器やスプレー缶類を持ち込まないでください。蒸発ガスに引火したり容器が破損すると非常に危険です。

ペダル操作が確実に行える履き物を着用してください

安全な運転をしていただくために、ペダル操作が確実に行える履き物を着用してください。ペダル操作が確実に行えないと、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

運転席足元に物を置かないでください

走行中に空缶などの動きやすい物を足元に置くと、ブレーキペダルの下に挟まり、ブレーキ操作ができなくなったり、アクセルペダルが戻らなくなるなどのおそれがあり危険です。

荷物を積み過ぎないでください

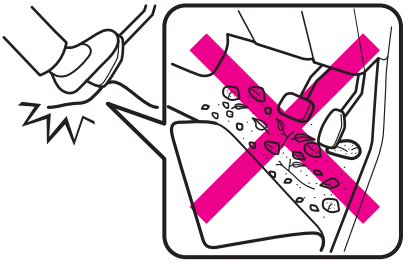
- 助手席に荷物を積み重ねないでください。視界をさまたげたり、ブレーキをかけたときや旋回しているときに荷物が飛び出して体にあたるなどして、思わぬけがや事故につながるおそれがあり危険です。
- 重い荷物を積み過ぎないでください。車両や走行に悪い影響をおよぼし、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

荷物の積みかたに注意してください

- 重い荷物はかたよりのないように均等に積んでください。荷物のかたよりがあるとカーブなどで横転するおそれがあり危険です。
- 荷物の荷くずれや落下のないように、ロープなどでしっかり固定してください。

運転席足元を定期的に清掃してください

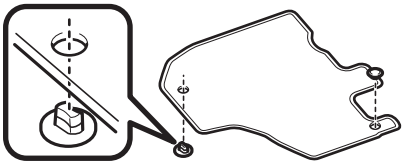
フロアマットや床面を定期的に清掃し、小石やゴミなどがたまらないようにしてください。また、乗車前に靴底に付いた小石などをよく落とし、なるべく車内に持ち込まないようにしてください。
足元にたまった小石やゴミなどがペダル操作のさまたげになったり、そのまま使用し続けると摩擦でフロアマットに穴が開き、ペダルが引っかかって思わぬ事故につながるおそれがあります。



フロアマットはこの車（年式）専用のトヨタ純正品を使用してください

● 運転席にフロアマットを敷くときは、下記のことをお守りください。お守りいただかないと、フロアマットがずれて運転中に各ペダルと干渉し、思わぬスピードが出たり車を停止しにくくなるなど、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

- この車（年式）専用のトヨタ純正品を使用してください。
- 運転席専用のフロアマットを使用してください。
- 付属の取付要領書に従って正しく装着してください。
- 他のフロアマット類と重ねて使用しないでください。
- ずれないようにフロアマット付属の専用クリップで必ず固定してください。固定フックの形状およびフロアマットの固定方法はイラストと異なる場合があります。
- フロアマットを前後逆さまにしたり、裏返したりして使用しないでください。



● フックの破損などにより、フロアマットが固定できなくなったときは、すみやかにフロアマットの使用を中止してください。

● 運転する前に、下記のことを確認してください。

- フロアマットがすべての固定フックで正しい位置にしっかりと固定されていることを定期的に確認し、特に洗車後は必ず確認を行ってください。
- エンジンを停止状態にして、シフトレバーがマニュアル車はニュートラル、オートマチック車は P レンジの位置で、各ペダルを奥まで踏み込み、フロアマットと干渉しないことを確認してください。

タイヤ空気圧の点検をしてください

「タイヤ空気圧の点検」をお読みいただき、定期的に点検を実施して指定空気圧に調整してください。

（タイヤ空気圧の点検→ 180 ページ）

安全な燃料給油のために

燃料給油する場合に知っておいていただきたい、お守りいただきたいこと、特にセルフガソリンスタンドなどでお客様自身で燃料給油する場合に注意していただきたいことがあります。
「給油のしかた」をよくお読みいただき、安全に給油を行ってください。

（給油のしかた→ 73 ページ）

SRS エアバッグについて

SRS エアバッグについて知っておいていただきたい、お守りいただきたいこと、ご注意いただきたいことがあります。
「SRS エアバッグ」をよくお読みください。

（SRS エアバッグ→ 46 ページ）

オートマチック車について

オートマチック車の特性や操作上で注意していただきたいことがあります。
「運転するときは」をよくお読みください。

（運転するときは→ 102 ページ）

エンジンをかけるときは

エンジンをかけるときに知っておいていただきたいこと、お守りいただきたいことをまとめています。

車両後方に可燃物がないことを確認してください

エンジン始動前に、車両後方や排気管の周りに可燃物（枯草・紙・木材など）がないか確認してください。可燃物があると排気管や排気ガスが高温になり、火災になるおそれがあり危険です。

排気ガスにご注意ください

排気ガスには無色・無臭で有害な一酸化炭素が含まれているため、吸い込むと一酸化炭素中毒になるおそれがあり危険です。
換気の悪い場所（車庫など、周囲が閉鎖された場所）でエンジンをかけたままにしないでください。換気が不十分になり、一酸化炭素中毒事故を起こす危険があります。
排気管はときどき点検してください。排気管の異常（腐食による穴や亀裂など）または排気音の異常などに気付いたときは、トヨタ販売店で点検を受けてください。そのまま走行すると排気ガスが車内に侵入するおそれがあり危険です。
車内に排気ガスが侵入してきたと感じたらすぐに換気をし、車内に新鮮な空気を入れてください。また、ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。

マニュアル車、オートマチック車で注意していただきたいこと

マニュアル車の場合

マニュアル車には、エンジン始動時の誤作動を防ぐためクラッチスタートシステムが装備されています。クラッチペダルをいっぱいまで踏み込まないとエンジンがかかりません。
駐車ブレーキをかけ、シフトレバーをニュートラルにし、クラッチペダルをいっぱいまで踏んでからエンジンを始動してください。

オートマチック車の場合

駐車ブレーキをかけた状態でシフトレバーを必ず P レンジにして、ブレーキペダルをしっかり踏みエンジンを始動してください。

走行しているときは

走行しているときに知っておいていただきたいこと、お守りいただきたいことをまとめています。

走行中はエンジンを止めないでください

走行中にエンジンを止めると、下記のような現象が起こるおそれがあります。

- ブレーキの倍力装置がはたらかなくなるため、ブレーキの効きが悪くなり、事故につながるおそれがあり危険です。
- 各警告灯が作動しなくなります。
- ハンドル操作が重くなります。
- “LOCK”の位置ではキーが抜けるおそれがあります。万一キーが抜けるとハンドルがロックし、ハンドル操作ができなくなり、事故につながるおそれがあり危険です。
- 触媒装置を損傷するおそれがあります。

万一、車が止まらなくなったときの非常時は、車両の緊急停止方法にしたがってください。

（車両を緊急停止するには→ 229 ページ）

下り坂ではエンジンブレーキを併用してください

長い下り坂や急な下り坂でブレーキペダルを踏み続けると、ブレーキが過熱して、ブレーキの効きが悪くなり危険です。
路面状態やスピードに応じてシフトダウンしてエンジンブレーキを併用しましょう。

マニュアル車

- 1 速ずつ落とす

オートマチック車

- シフトレバーを 2 レンジに入れる
  また、より強いエンジンブレーキが必要な場合は L レンジに入れる

その際には、急激なエンジンブレーキ（シフトレバー操作）を避けてください。タイヤをロックさせ、スリップなどの原因となり、事故につながるおそれがあり危険です。
また、ぬれた路面や、積雪路、凍結路などのスリップしやすい路面では、十分速度を落としてエンジンブレーキを使用してください。

エンジンブレーキ

エンジンブレーキとは、走行中アクセルペダルから足を離したときにかかるブレーキのことです。低速ギヤになるほどよく効きます。

雨、風の強い日には走行に注意してください

雨や風の強い日は、スピードを控え目にしましょう。特に橋や土手の上、トンネルの出口、山の切通しの部分など、横風の発生しやすい場所では、ハンドルをしっかり持ち、スピードを落として走行してください。

冠水した道路を走行しないでください

冠水した道路を走行すると、エンストするだけでなく、電装品のショート、エンジンの破損などの重大な車両故障につながるおそれがあります。
万一、水中に浸かってしまったときは、必ずトヨタ販売店で点検を受けてください。

洗車後や水たまりを走行したあとはブレーキの効きを確認してください

- ブレーキパッドがぬれていると、ブレーキの効きが悪くなったり、ぬれていない片方だけが効いてハンドルを取られ、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
- 効きが悪い場合は、周囲の安全に十分注意して効きが回復するまで、数回ブレーキペダルを軽く踏んでブレーキが正常に働くことを確認してください。

スタック（立ち往生）などしたときにはタイヤを高速で回転させないでください

タイヤのバースト（破裂）、トランスミッションなどの損傷による思わぬ事故につながるおそれがあります。

（スタック（立ち往生）したとき→ 214 ページ）

高速道路を走行するときに注意していただきたいこと

- 燃料、冷却水、エンジンオイルの量、タイヤの空気圧、摩耗状態などの点検は特に念入りに行ってください。
- 高速での急ブレーキは特に危険です。十分な車間距離を取って走行してください。
- 法定速度を守って走行してください。

草の生い茂った場所は走行しないでください

草などが駆動系や排気管にからまると駆動装置が損傷したり、火災になるおそれがあり危険です。

ブレーキペダルに足をのせたまま走行しないでください

ブレーキ部品が早く摩耗したり、ブレーキが過熱し効きが悪くなるおそれがあります。

クラッチペダルに足をのせたまま走行しないでください

マニュアル車

クラッチペダルに足をのせたまま走行したり、必要以上に長い時間、半クラッチ操作を行わないでください。クラッチが早く摩耗したり、過熱し思わぬ事故につながるおそれがあります。

ハンドルの中からの操作をしないでください

走行中にはハンドルの中に手を入れて、スイッチなどの操作をしないでください。ハンドル操作のさまたげになり、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

「急」の付く運転はしないでください

急激なハンドル操作、急発進、急加速、急ブレーキや急激なエンジンブレーキなど「急」の付く運転はさけてください。

後退するときは子供や障害物に気を付けてください

ルームミラー、ドアミラーなどでは確認しにくい死角があります。安全確認をしながらゆっくり後退してください。

窓から手や顔などを出さないでください

窓から身を乗り出したり、手や顔を絶対に出さないでください。思わぬけがをするおそれがあります。

駐停車するときは

駐停車するときに知っておいていただきたいこと、お守りいただきたいことをまとめています。

長時間駐車するときに注意していただきたいこと

エンジンを必ず止めて駐車してください。思わぬ事故につながるおそれがあります。

駐停車のときは駐車ブレーキをかけてください

駐停車するときは、必ず駐車ブレーキをかけ、シフトレバーをマニュアル車は 1 速（上り坂）または後退（下り坂）、オートマチック車は Ⓟ レンジに入れます。坂道で駐車するときは、さらに輪止めを置いて駐車すると安全です。

燃えやすい物のそばに車を止めないでください

排気管や排気ガスは高温になり、可燃物（枯草・紙・木材など）があると、火災になるおそれがあり危険です。車の後方に可燃物があるときは、車両後端を 30cm 以上離して止めてください。隙間が少ないと排気ガスによって変色や変形したり、火災になるおそれがあり危険です。また、可燃物（枯草・紙・木材など）の上で走行したり、車を止めたりしないでください。

車から離れるときに注意していただきたいこと

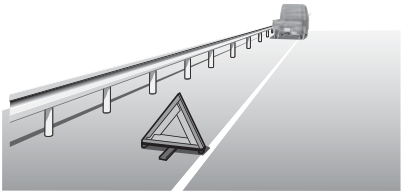
車から離れるときは、エンジンを止め、駐車ブレーキをかけ、必ずドアを施錠してください。
車が動き出したり、車両盗難、貴重品盗難のおそれがあります。
また、お子さまのみを車内に残して車を離れないでください。炎天下での車内の温度は、想像以上に高くなり危険です。

仮眠するときは必ずエンジンを止めてください

エンジンがかかった状態のままで仮眠すると、無意識にシフトレバーを動かしたり、アクセルペダルを踏み込んだりして、車の不意な発進やエンジン過熱による火災など、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
また、風通しの良くない所や、風向きによっては排気ガスが侵入し、一酸化炭素中毒事故を起こすおそれがあります。

高速道路で停車するときに注意していただきたいこと

高速道路で、故障などのためやむを得ず停車するときは道路の端によせ、必ず停止表示板（停止表示灯）を置いてください。
万一のために停止表示板（停止表示灯）は車に常備しましょう。高速道路では停止表示板（停止表示灯）の設置は法律で義務付けられています。



高温になっている場所には触れないでください

- 荷物の積み降ろし時などに、手や足がマフラーに触れないようにしてください。エンジンがかかっているときやエンジン停止直後のマフラーは高温になっているため、やけどをするおそれがあります。
- タイヤ交換時などに、ディスクホイールやブレーキ回りに触れないようにしてください。走行後のディスクホイールやブレーキ回りは高温になっているため、やけどをするおそれがあります。

車が雪でおおわれたときに注意していただきたいこと

雪が積もった場所や降雪時に駐車するときは、エンジンをかけたままにしないでください。エンジンをかけた状態で車の周りに雪が積もると、排気ガスが車内に侵入し、重大な健康障害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

お子さまを乗せるときは

車を離れるときはお子さまも一緒に離れてください

お子さまのいたずらによる車の発進、火災など思わぬ事故が起こるおそれがあり危険です。また、炎天下での車内の温度は想像以上に高くなり、危険です。
必ずお子さまと一緒に車を離れてください。

ドアやウインドなどの開閉、シートの調整は大人が注意しながら操作してください

- ドアやウインドの開閉、シートの調整など、特にお子さまの手や足を挟まないよう注意しましょう。また、お子さまが作動部に触れないように注意しましょう。
- ドアやウインドの開閉、シートの調整などは大人が操作してください。
- パワーウインドは、お子さまが自分で操作できないようにパワーウインド OFF スイッチを“OFF”にしてください。

（パワーウインド OFF スイッチ→ 63 ページ）

シートベルトでお子さまを遊ばせないでください

お子さまをシートベルトで遊ばせないでください。万一シートベルトが首に巻き付いた場合、窒息などの重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。
誤ってそのような状態になってしまい、シートベルトのバックルも外せない場合は、はさみなどでシートベルトを切断してください。

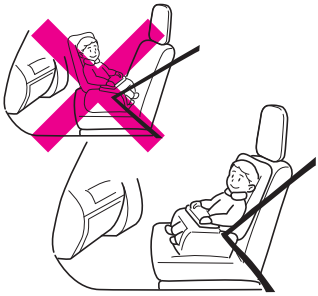
お子さまにもシートベルトを着用させてください

- お子さまをひざの上に抱いて走行しないでください。衝突したときなど十分に支えることができず、お子さまが重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
- シートベルトが首やあごに当たる場合や腰骨にかからないような小さなお子さまには、チャイルドシート、ジュニアシートを使用してください。
  通常のシートベルトでは衝突のとき首などに強い圧迫を受け、けがをするおそれがあり危険です。
- チャイルドシート、ジュニアシートは、お子さまの年齢や体格に合わせて選んでください。

（チャイルドシート→ 40 ページ）

チャイルドシートは正しく取り付けてください

助手席にベビーシートを取り付けたり、チャイルドシートを後ろ向きに取り付けないでください。衝突時などに重大な傷害を受けるおそれがあります。
助手席にチャイルドシートを取り付けるときは、必ず前向きに取り付けてください。
なお、取り付け可否については、必ずチャイルドシートの適用条件をご確認ください。



お子さまが窓から手や顔を出さないように注意しましょう

走行中に限らず、お子さまが窓から手や顔を出さないように注意しましょう。思わぬけがをするおそれがあります。
絶対に身を乗り出したり、シートの上に立たせたりしないでください。転落などして重大な傷害をうけるおそれがあります。

こんなときは

警告灯が点灯、点滅したとき

警告灯類が異常を知らせたとき、そのまま走行すると危険な場合があります。安全な場所に停車し、正しい処置を行ってください。

（警告灯→ 80 ページ）

オーバーヒートしたとき

水温警告灯が赤色に点滅・点灯して、警告ブザーが鳴ったときは、オーバーヒートが考えられます。そのときエンジンルームから蒸気が出ている場合は、絶対にエンジンルームを開けないでください。また、あわててラジエーターキャップを外さないでください。熱湯が吹き出し、やけどをするおそれがあります。

（オーバーヒートの処置→ 227 ページ）

エンストしたとき

落ち着いて操作してください。
ブレーキの倍力装置やパワーステアリング装置が作動しなくなり、ブレーキの効きが悪くなったり、ハンドルが重くなったりします。この場合、通常より強い力でハンドルやブレーキを操作してください。

パンクしたとき

走行中にパンクやバースト（破裂）をしたときは、ハンドルをしっかり持って徐々にブレーキをかけてスピードを落としてください。急ブレーキをかけるとハンドルを強く取られ危険です。

（タイヤの交換→ 221 ページ）

床下に強い衝撃を感じたとき

車体の床下に強い衝撃を感じたときは、すぐに安全な場所に車を停車し、下回りを点検してください。
ブレーキ液や燃料の漏れ、損傷などが見つかった場合はそのまま運転すると思わぬ事故につながるおそれがあります。トヨタ販売店で点検を受けてください。

いつもと違うとき

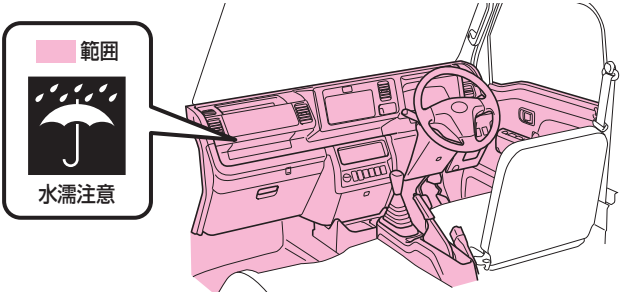
地面に油や液の漏れたあとが残っているときや、異臭、異音、振動などに気付いたときは、車に異常のおそれがあります。このようなときは、トヨタ販売店で点検を受けてください。

車両の火災につながるおそれがあるため、下記の点に注意をしてください

- 灰皿を使用したあとは、マッチ、タバコの火を確実に消し、必ず閉めてください。火災になるおそれがあり危険です。
- 車内（特にインストルメントパネルの上など）に、ライターなどの発火物や炭酸飲料を置かないでください。車内が高温になり火災や爆発につながるおそれがあり危険です。
- ライターを車内（グローブボックス内など）に放置したままにしないでください。荷物を押し込んだときや、シートを動かしたときに、ライターの操作部が誤作動し、火災になるおそれがあり危険です。
- ウインドガラスには吸盤を付けたり、インストルメントパネルに芳香剤の容器などを置いたりしないでください。吸盤や容器がレンズのはたらきをして、火災になるおそれがあり危険です。
- シルバー色などの金属蒸着フィルムを曲面ガラスに貼った場合は、ドアやウインドガラスを開けたまま放置しないでください。ドアやウインドガラスを開けたまま放置すると、直射日光が曲面ガラスの内側に反射し、レンズのはたらきをして、火災になるおそれがあり危険です。
- エンジン始動前にエンジンルームに可燃物の置き忘れがないことを確認してください。特に長期間使用しなかったときは、エンジンルームに小動物や鳥類が持ち込んだ小枝などの可燃物がないことを確認してください。車両の火災につながるおそれがあり危険です。
- また、走行中にエンジンルームからこげた臭いがするときは、ただちに安全な場所に停車し、トヨタ販売店にご連絡ください。

車内に水などをかけないでください

- インストルメントパネルやドア、フロア下などにあるスイッチや電気部品、配線類の故障の原因となったり、車両火災につながるおそれがあり危険です。
  万一、水、飲み物などがかかった場合は、可能な限り水分を取り除き、すみやかにトヨタ販売店にご相談ください。



こんな点にも注意をしてください

- 炎天下での駐車は高温になりますので、メガネなどを車内に放置したり、小物入れなどに入れたままにしないでください。炎天下では車内が高温になるため、レンズやフレーム、耐熱性の低い物は、変形・ひび割れを起こすことがあります。
- インストルメントパネルの上に物を置いたまま走行しないでください。運転者の視界をさまたげたり、発進時や走行時に動いて思わぬ事故につながるおそれがあります。
- 運転者はハンズフリー以外の携帯電話などを走行中に使用しないでください。電話をかけるときや電話がかかってきたときに、注意が電話機に向いてしまい、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
  ハンズフリー以外の携帯電話を運転者が使用するときは、安全な場所に停車してから使用してください。
- 運転者は走行中、テレビを見たり、カーナビゲーションを操作しないでください。思わぬ事故につながるおそれがあります。
- タイヤは 4 輪とも指定サイズで、同一サイズ、同一メーカー、同一銘柄および同一トレッドパターン（溝模様）の物を装着してください。

段差などに注意をしてください

下記のような場合には、バンパーや床下などを損傷するおそれがありますので、十分に注意してください。

- 路肩など段差のある場所への乗り降り
- 凹凸やわだちのある道路の走行
- くぼみ（穴）のある場所の通過

お車を長持ちさせるには

点検整備を行いましょう

車は日頃の管理が大切です。安全、快適にご使用いただくため、必ず実施してください。

- 日常点検
- 新車時点検
- 定期点検
- 定期交換部品の交換整備

これらの点検整備は法令で定められているものと、トヨタが推奨するものに基づいています。
詳しくは別冊の「メンテナンスノート」をご覧ください。

海岸地帯、凍結防止剤を散布した道路を走行したあとは

海岸地帯や凍結防止剤を散布した道路などを走行したあとは、早めに洗車をしてください。特に車体の下回り、足回りは念入りに洗車してください。洗車をせずに放置すると腐食の原因となります。
腐食が進行すると、ブレーキや燃料、オイル、エアコンなどの配管類からの液漏れ、ガス漏れにつながるおそれがありますので、早めの洗車とともに定期的な点検整備を実施してください。

エンジン冷却水温が低い間は、エンジンに負担のかかる運転をさけてください

- エンジン冷却水温が低い間は、急激な空ぶかし・急加速・高速走行をさけた運転でエンジンを暖機させてください。暖機不足の状態で、急激な空ぶかし・急加速・高速走行をすると、エンジンに悪い影響をあたえたり、触媒装置の損傷の原因になるおそれがあります。
- 暖機は水温表示灯が消灯すれば十分です。

無鉛ガソリンのみ使用してください

必ず、無鉛レギュラーガソリン、または無鉛プレミアムガソリンを使用してください。
給油時に、指定されている燃料であることを確認してください。
指定以外の燃料（粗悪なガソリン、アルコール系燃料、軽油、灯油など）を使用すると、エンジンの始動性が悪くなったり、ノッキングや出力の低下などが発生する場合があります。また、そのまま使用していると、エンジンや燃料系部品を損傷するおそれがあります。

車の改造や自己流の調整はしないでください

- 車の性能や機能に適さない部品を装着したり、自己流のエンジン調整や配線などを行わないでください。正常な性能を発揮できなかったり、故障や火災など思わぬ事故につながるおそれがあります。
- 国土交通省に届け出をした部品以外の物を装着すると、違法改造になることがあります。
- ガラス面に、着色フィルムやステッカーなどを貼り付けないでください。運転のさまたげになり危険です。特にフロントガラスおよびフロントドア左右のガラスへの貼り付けは法令で禁止されています。
- タイヤを交換するときは、指定以外の物を装着しないでください。また、ホイール、ホイール取り付けナットを交換するときは、この車専用以外の物を装着しないでください。性能や機能に支障をきたし、安全な走行ができなくなります。交換するときは、トヨタ販売店にご相談ください。
- 無線機やトヨタ純正部品以外の電装品などを取り付けると、取り扱い方法が適切でない場合、電子機器部品に悪影響をおよぼしたり、故障や火災など思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。トヨタ販売店にご相談ください。
- バッテリー端子にトヨタ純正部品以外の電装品やアース線を直接つなげないでください。バッテリーあがりや火災など思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
- お客様自身でのハンドルの取り外しはしないでください。ハンドルには SRS エアバッグが内蔵されているため、不適切に扱うと誤作動につながり、重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

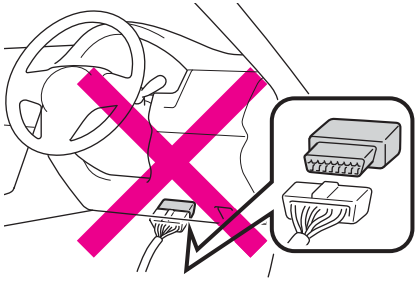
純正部品を使いましょう

部品を交換する場合は「トヨタ純正部品」のご使用をおすすめします。

知っておいていただきたいこと

故障診断コネクターなどへの電装品取り付けについて

故障診断コネクターなどに、点検整備用の故障診断装置以外の電装品を取り付けないでください。電子機器に悪影響をおよぼしたり、バッテリーがあがったりするなど、思わぬトラブルを招くおそれがあります。



車両データの記録について

このお車には、車両を制御するためのコンピューターが複数装備されており、車両の制御や操作に関するデータなどを記録しています。

参考

- グレードやオプション装備により記録されるデータ項目は異なります。
- コンピューターは会話などの音声や映像は記録しません。

データの取り扱いについて

トヨタおよびトヨタが委託した第三者は、コンピューターに記録されたデータを車両の故障診断・研究開発・品質の向上を目的に取得・利用することがあります。
なお、次の場合を除き、トヨタおよびトヨタが委託した第三者は、取得したデータを第三者へ開示または提供することはありません。

- お車の使用者の同意（リース車は借主の同意）がある場合
- 警察・裁判所・政府機関などの法的強制力のある要請に基づく場合
- 統計的な処理を行う目的で、使用者や車両が特定されないように加工したデータを研究機関などに提供する場合

磁石式の運転者標識の取り付けについて

磁石式の初心者標識や高齢者標識などを樹脂部分（車両前面部）に取り付けることはできません。

保証および点検について

保証および点検整備については、別冊「メンテナンスノート」に記載していますので、併せてお読みください。
日常点検整備や定期点検整備は、お客様の責任において実施してください。（法律で義務付けられています）

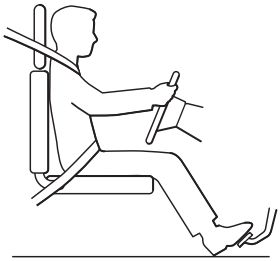
安全なドライブのために

正しい運転姿勢
正しい運転姿勢 …… 34
シートベルト
正しいシートベルトの着用 … 35
シートベルトの使いかた …… 35
お子さま専用シート
チャイルドシート …… 40
チャイルドシートの
選びかた …… 42
チャイルドシートの
固定のしかた …… 43
SRS エアバッグ
SRS エアバッグ …… 46
SRS エアバッグ
コンピューター …… 52

正しい運転姿勢

正しい運転姿勢

安全な運転操作を行うため、正しい運転姿勢が取れるように、下記のことに注意して走行前にシートやミラーなどを調整してください。



- ペダル類が十分に踏み込めること
- 背もたれから背中を離すことなく、ハンドル操作ができること
- シートベルトが正しく着用できること

（車体各部の調整→76 ページ）

⚠ 警告

- 走行中は運転席シートの調整を絶対にしないでください。シートが突然動き、運転を誤り思わぬ事故につながるおそれがあります。
- 背もたれと背中の間にクッションなどを入れないでください。正しい姿勢が取れないばかりか、衝突したときシートベルトなどの拘束保護装置の効果が十分に発揮されず重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

（シートベルト→35 ページ）

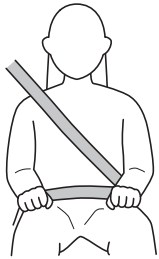
シートベルト

正しいシートベルトの着用

運転者は車を運転する前に、下記のことに注意してシートベルトを着用し、必ず同乗者にも着用させてください。シートベルトは正しく着用しないと効果が半減したり、危険な場合があります。

シートベルトの使用方法を十分に理解し、正しい取り扱いかたを身に付けてください。

▼ 正しい着用のしかた



- シートを調整し、上体を起こし深く腰かけて座ること
- シートベルトにねじれがないこと
- シートベルトが肩に十分かかっていること、また必ず腰骨のできるだけ低い位置に密着させること

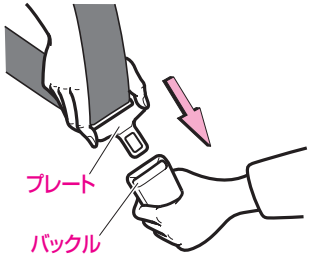
⚠ 警告

- シートベルトの着用は腹部をさけ、必ず腰骨の位置にしてください。衝突したときなどに腹部に強い圧迫を受け、シートベルトによりけがをするおそれがあります。
- シートベルトの肩にかかる部分を脇の下に通して着用しないでください。シートベルトが肩に十分かかっていないと衝突したときなどに体が前方に投げ出されるおそれがあります。

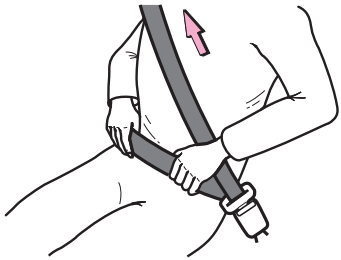
シートベルトの使いかた

長さ調整の必要はありません。通常は体の動きに合わせて伸縮しますが、緊急時にはロックし、体を固定します。

▼ 着けるとき

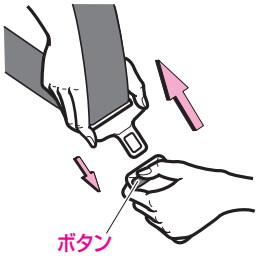


1 プレートをつかんでゆっくり引き出し、ベルトがねじれていないことを確認したのち、バックルの中にプレートを「カチッ」と音がするまで差し込む



2 腰部ベルトは必ず腰骨のできるだけ低い位置にかかるようにし、肩部ベルトを引いて腰部に密着させる

▼ 外すとき



● バックルのボタンを押します。ベルトは自動的に収納されますので、ねじれや引っかかりなどがないかを確認しながら、プレートに手を添えてゆっくり戻します。

⚠ 注意

プレートを差し込むときは

● プレートでバックルを無理にこじらないでください。

知識

ベルトがロックし引き出せないときは

● ベルトをゆるめてからゆっくり引き出してください。それでも引き出せない場合は、一度ベルトを強く引いてからベルトをゆるめ、もう一度ゆっくり引き出してください。

シートベルト未装着警告について

● 運転席シートベルトは、シートベルトを着用していない状態（警告灯が点滅状態）で、約20km/h 以上で走行すると、ブザーが約 2 分間鳴ります。

（シートベルト未装着警告灯（運転席）→ 84 ページ）

プリテンショナー & フォースリミッター機構

プリテンショナー機構

前方からの強い衝撃を受けると、シートベルトを瞬時に引き込み、上体をシートにしっかりと固定してシートベルトや SRS エアバッグの効果をいっそう高めます。

フォースリミッター機構

前方からの強い衝撃を受けた場合、シートベルトにある一定以上の荷重がかかったときに、それ以上荷重がかからないようにする機構で、乗員の胸部への衝撃を緩和します。

⚠ 警告

- プリテンショナー & フォースリミッター機構付シートベルトは絶対に取り外したり、分解、改造をしないでください。
- 下記のような場合は必ずトヨタ販売店にご相談ください。お客様自身で行うと、プリテンショナー機構が思いがけなく作動するおそれがあるほか、正常に作動しなくなったり、誤って巻き取り、重大な傷害におよぶか、最悶の場合死亡につながるおそれがあります。
  - 車両前部を修理するとき
  - 廃車にするとき
- プリテンショナー & フォースリミッター機構付シートベルトは一度作動すると再使用できません。最寄りのトヨタ販売店で交換してください。

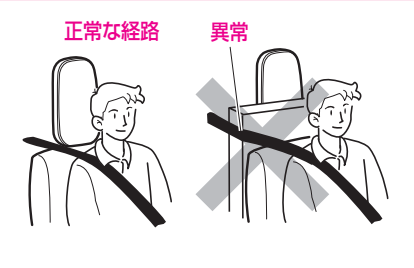
知識

- プリテンショナー機構はシートベルトを着用していなくても前方からの強い衝撃を受けると作動します。

シートベルトの取扱いとお手入れ

⚠ 警告

- シートベルトの経路をさまたげる荷物の積みかたはしないでください。衝突したときなどに効果が十分発揮されません。



- お子さまをひざの上に抱いて走行しないでください。
  ひざの上でお子さまを抱いていると、衝突時などにお子さまを支えることができず、お子さまへの重大な傷害につながるおそれがあります。
- シートベルトは、それを着用するのに十分な大人の体格を持った人用に設計されています。
- シートベルトが首やあごに当たったり、腰骨にかからないような体の小さなお子さまの場合は、チャイルドシートやジュニアシート（別売）を使用してください。

（チャイルドシート→ 40 ページ）
（チャイルドシートの固定のしかた→ 43 ページ）

- シートベルトは 1 人用です。2 人以上で 1 本のシートベルトを使用しないでください。衝突時にシートベルトが正常に動かず、けがをするおそれがあります。

⚠ 警告

- 妊娠中の方もシートベルトを着用してください。ただし、万一のとき腹部などに強い圧迫を受けるおそれがありますので、シートベルトの着用については、医師に相談のうえ、注意事項を確認してください。
  - 腰部ベルトは、必ず腰骨のできるだけ低い位置、お腹の膨らみの下に密着させます。
  - 肩部ベルトは、お腹の膨らみをさけ必ず胸部に着用します。

- ハンドルやメーターに必要以上に近付いて運転しないでください。衝突したときなどシートベルトの効果が発揮されません。
- シートベルト使用時、洗濯ばさみやクリップなどでたるみをつけないでください。衝突時など効果を発揮しなくなります。
- シートベルトが汚れた場合は中性洗剤を使用してください。ベンジンなどの有機溶剤を使用すると、シートベルトの性能が落ち、十分な効果を発揮できません。同様にシートベルトの脱色や染色もやめてください。
- シートベルトを着用した状態で万一事故にあった場合は、トヨタ販売店でシートベルト一式を交換してください。シートベルト自体が損傷している場合があり、性能を十分発揮できないおそれがあります。
- 常にシートベルトにほつれや、擦り切れなどの異常がないかを点検してください。異常がある状態で使用をすると衝突時に正常にはたらかず、性能を十分発揮できないおそれがありますので、トヨタ販売店で交換してください。
- バックルや巻き取り装置の内部に異物などを入れないようにしてください。また、シートベルトの改造や取り付け、取り外しをしないでください。衝突時に十分な効果を発揮できないおそれがあります。

お子さま専用シート

チャイルドシート

シートベルトを正しく着用できない小さなお子さまを乗せるときは、チャイルドシートをご使用ください。

この車には、助手席 SRS エアバッグの有無にかかわらず、ベビーシート、および後ろ向きでチャイルドシートを取り付けることはできません。

チャイルドシートは、シートベルトで固定します。

（チャイルドシートの固定のしかた→ 43 ページ）

チャイルドシートの固定方法、および取り扱い方法は、各チャイルドシートに付属の取扱説明書をお読みください。

知識

- 満 6 歳未満のお子さまは、チャイルドシートの着用が法律で義務付けられています。
- 車の仕様やお子さまの年齢、体格に合わせて適切なチャイルドシートを選んでください。
- 体が十分大きく、チャイルドシートが不必要なお子さまは、シートベルトを着用させてください。

チャイルドシートについて

- ここでは、ベビーシート、チャイルドシート、ジュニアシートの総称として、「チャイルドシート」と呼んでいます。

（チャイルドシートの種類→ 41 ページ）

チャイルドシートの質量グループについて

ECE R44* の基準に適合するチャイルドシートは、お子さまの体重により、5 種類の質量グループに分類されます。

質量グループ	お子さまの体重
グループ0	10kgまで
グループ0+	13kgまで
グループⅠ	9～18kg
グループⅡ	15～25kg
グループⅢ	22～36kg

チャイルドシートの種類

ベビーシート

質量グループ 0、0+に相当します。

チャイルドシート

質量グループ 0+、Ⅰに相当します。

ジュニアシート

質量グループⅡ、Ⅲに相当します。

* チャイルドシートに関する国際的な安全基準です。

チャイルドシートの選びかた

次の適合性一覧表から、どのチャイルドシートが使用できるかを選択してください。

知識

- お子さまに適切なチャイルドシートについては、チャイルドシート製造業者、または販売業者にご相談ください。

シートベルトで取り付けるチャイルドシート適合性一覧表

質量グループ	座席位置 フロント シート 助手席
0（10kgまで）	×
0+（13kgまで）	×
Ⅰ（9～18kg）	UF
Ⅱ（15～25kg）	UF
Ⅲ（22～36kg）	UF

●記号の説明

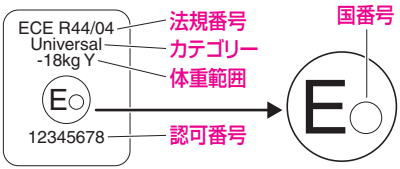
UF：この質量グループでの使用を許可された汎用（ユニバーサル）カテゴリーの前向きチャイルドシートが取り付け可能です。

×　：チャイルドシートを取り付けることはできません。

表に記載されていないチャイルドシートを使用する場合は、チャイルドシート製造業者または販売業者にご相談ください。
チャイルド シートの装着に際しては、チャイルドシートの取扱説明書もご確認ください。

知識

- チャイルドシートを購入される際は、質量グループに一致したものを選択してください。
- ECE R44 に適合している「U」と「UF」のチャイルドシートには、下記の認可ラベルが表示されています。
  - カテゴリーの「UNIVERSAL」は、汎用（ユニバーサル）チャイルドシートの認可であることを表します。



チャイルドシートの固定のしかた

⚠ 警告

- 急ブレーキや事故の際、効果的にお子さまを保護するために、必ずお子さまの年齢や体の大きさに合ったシートベルト、またはチャイルドシートを使用してください。
  また、お子さまをひざの上で抱いて走行しないでください。衝突したときなどに、十分に支えることができず、お子さまが重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
- チャイルドシートによっては、取り付けができない、または取り付けが困難な場合があります。必ずチャイルドシートに付属の取扱説明書をお読みの上、確実に取り付けて使用方法をお守りください。使用方法を誤ったり、確実に固定されていないと、急ブレーキや衝突時などに重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
- ジュニアシートを使用しているときは、肩部ベルトが常にお子さまの肩の中心にくるようにしてください。ベルトを首から離すとともに肩から落ちないようにしてください。お守りいただかないと、事故や急ブレーキの際に重大な傷害や死亡につながるおそれがあり危険です。
- お子さまをシートベルトで遊ばせないでください。万一シートベルトが首に巻き付いた場合、窒息などの重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
  誤ってそのような状態になってしまい、シートベルトのバックルも外せない場合は、はさみなどでシートベルトを切断してください。
- シートベルトとバックルが固定されていて、ベルトがねじれていないか確認してください。
- チャイルドシートを取り付けたときは、チャイルドシートを軽くゆすり、確実に固定されているか確認してください。
- お子さまを乗せていないときでもチャイルドシートはしっかりとシートに取り付けるか、車両から外して保管してください。
  シートから取り外した状態で室内に放置すると、ブレーキをかけたときなどに乗員や物などに当たるなどして思わぬ事故につながるおそれがあります。

⚠ 警告

- 助手席にベビーシートを取り付けたり、チャイルドシートを後ろ向きに取り付けないでください。衝突時などに生命にかかわる重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- 助手席にチャイルドシートを取り付けるときは、必ず前向きに取り付けてください。
なお、取り付け可否については、必ずチャイルドシートの適用条件をご確認ください。

⚠ 注意

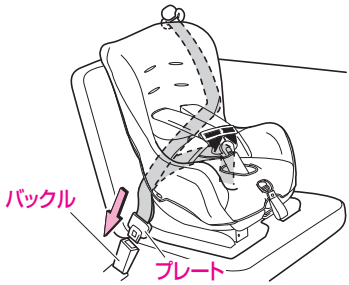
- 標準装備のシートベルトは大人用です。肩ベルトに首がかかるような小さなお子さまにはシートベルトの着用はさけ、チャイルドシートの使用をおすすめします。取り付けはチャイルドシートに付属の取扱説明書をよく読んで、確実に取り付けてください。
- シートベルトに損傷をあたえないよう、取り付けにあたっては十分注意してください。

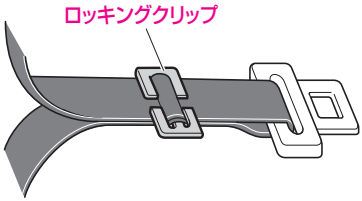
チャイルドシートを使用しないときは

- チャイルドシートを長時間使用しない場合は、車両から外して保管してください。シートに取り付けたままにしておくと、シートが変色したり、型くずれするおそれがあります。

シートベルトによる固定

助手席にベビーシートを取り付けることはできません。チャイルドシートを取り付けるときは、必ず前向きにチャイルドシートを取り付けてください。





▼ 取り付けかた

1. チャイルドシートを助手席に置きます。
2. シートベルトのプレートをつかんでゆっくり引き出し、ベルトがねじれていないことを確認してから、チャイルドシートの中に通します。
3. バックルの中にプレートを「カチッ」と音がするまで差し込みます。
4. チャイルドシートにシートベルトの固定装置が付いていない場合は、ロッキングクリップを使用して固定します。
5. チャイルドシートを軽くゆすり、確実に固定されていることを確認してください。

⚠ 警告

- チャイルドシートを固定したあと、シートベルトでチャイルドシートがロックされていることを必ず確認してください。急ブレーキをかけたときや衝突したときに飛ばされるなどして、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

⚠ 注意

- プレートを差し込むとき、プレートでバックルを無理にこじらないでください。

知識

- ロッキングクリップの取り付けは、チャイルドシートに付属の取扱説明書をよく読んで、確実に取り付けてください。
  また、ロッキングクリップの購入については、トヨタ販売店にご相談ください。

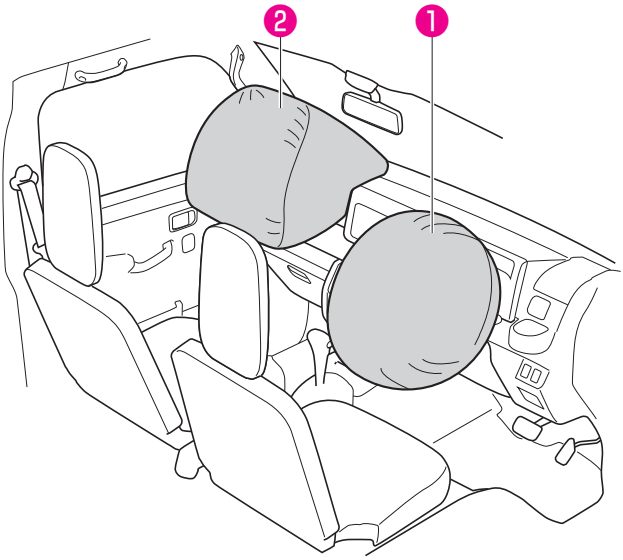
【固定のしかたは代表例です。また、イラストは説明のための物であり、実際のチャイルドシートの形状とは異なります。】

SRS エアバッグ

SRS エアバッグ

SRS エアバッグは、車両前方からの強い衝撃により、センサーが一定以上の衝撃（重大な危害がおよぶような強い衝撃）を感知すると瞬時に膨らみます。

【SRS：Supplemental Restraint System（サプリメンタル レストレイント システム）の略で、乗員保護補助拘束装置の意味です】



❶運転席 SRS エアバッグ

シートベルトで体を拘束するはたらきと併せて、運転者の頭や胸などへの衝撃をやわらげる装置です。

❷助手席 SRS エアバッグ

オプション／グレード別装備

シートベルトで体を拘束するはたらきと併せて、助手席同乗者の頭や胸などへの衝撃をやわらげる装置です。

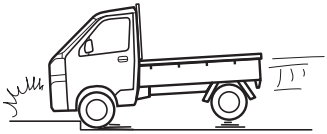
作動する場合

SRS エアバッグは車両前方からフロントバンパーに強い衝撃を受けたとき作動します。（同時にシートベルトのプリテンショナー機構も作動します）

また、下記のように走行中に路面などから車両下部に強い衝撃を受けたときは、まれにSRS エアバッグが作動することがあります。

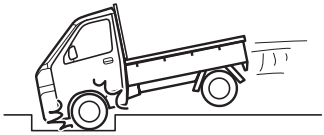
● 高速で縁石などに衝突したとき

縁石など

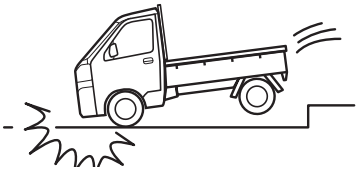


● 深い穴や溝に落ち込んだとき

深い穴や溝



● ジャンプして地面に衝突したとき



作動しない場合

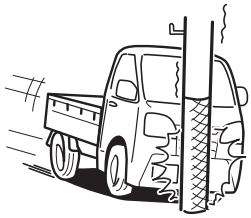
下記のときは、SRS エアバッグが作動しません。

● エンジンスイッチが“LOCK”、“ACC”のときに衝突したとき

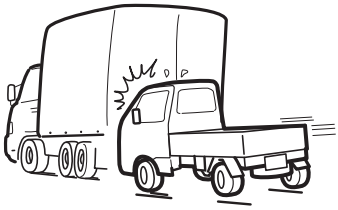
下記のように前方からの衝撃が弱い場合や、衝撃が車体により十分吸収された場合など、車両の損傷が大きくても作動しないことがあります。

● コンクリートの壁に約 20km/h 以下の速度で正面衝突したとき

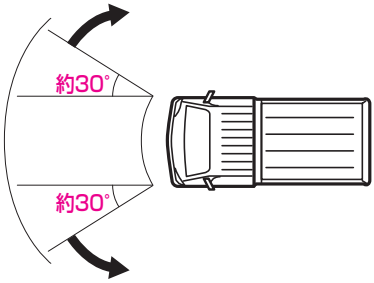
● 電柱などポール状の物に正面衝突したとき



● 大型トラックの後部荷台下にもぐり込んだとき



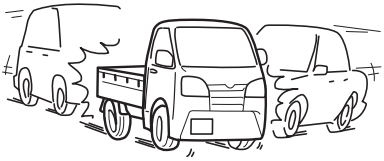
● 前方約 30°以上の角度でコンクリートの壁やガードレールなどに衝突したとき



● SRS エアバッグ警告灯点灯時

下記のようなときも作動しないことがあり効果を発揮しません。

● 側面や後方から衝撃を受けたとき

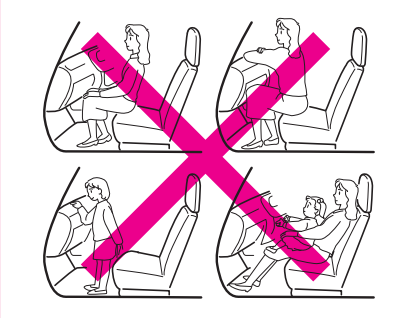


● 車両が横転、転覆したとき

SRS エアバッグの取り扱い

⚠ 警告

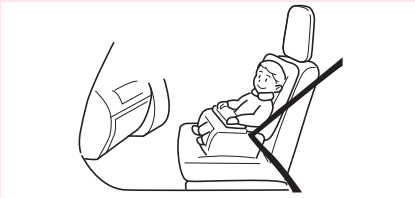
- シートベルトは必ず着用してください。SRS エアバッグはシートベルトを補助するための装置でシートベルトの代わりではありません。
- シートベルトを正しく着用してください。シートベルトを着用していないと、急ブレーキなどで放り出されると同時に SRS エアバッグが膨らんだ場合、強い衝撃を受け危険です。
（正しいシートベルトの着用→ 35 ページ）
- シートを正しい位置に調整してください。シートを正しい位置に調整しないと、SRS エアバッグの効果を発揮させることができず、衝突したときなどに生命にかかわる重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。
- 正しい姿勢でシートに座ってください。正しい姿勢で座らないと SRS エアバッグの効果を発揮させることができません。また、運転席 SRS エアバッグはハンドルに近付きすぎると、SRS エアバッグが膨らんだときに強い衝撃を受け、生命にかかわる重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。
- ハンドル、インストルメントパネルは、絶対に取り外したり、分解しないでください。また、強い衝撃もあたえないでください。いざというときに作動しないおそれがあります。
- SRS エアバッグは、絶対に改造や分解をしないでください。
- SRS エアバッグが膨らんだあとに、その構成部品に触れないでください。非常に熱くなっているのでやけどをするおそれがあります。
- 助手席 SRS エアバッグについては必ず下記の注意事項をお守りください。
  - シートの前端に座ったり、インストルメントパネルにもたれかかったりしないでください。また、お子さまをインストルメントパネルの前に立たせたり、ひざの上に抱いたりしないでください。助手席 SRS エアバッグは瞬時に車室内に大きく膨らみますので、SRS エアバッグが膨らんだときの強い衝撃で生命にかかわる重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。



⚠ 警告

● 助手席にベビーシートを取り付けたり、チャイルドシートを後ろ向きに取り付けないでください。
衝突時などに生命にかかわる重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

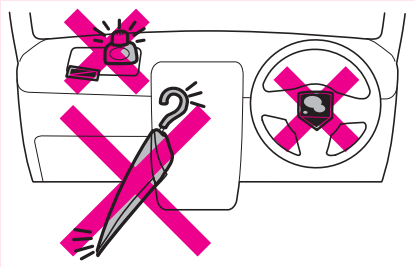
● 助手席にチャイルドシートを取り付けるときは、必ず前向きに取り付けてください。
なお、取り付け可否については、必ずチャイルドシートの適用条件をご確認ください。
（チャイルドシート→ 40 ページ）



● シートベルトが首やあごに当たる場合や腰骨にかからないような小さなお子さまには、チャイルドシート、ジュニアシートを使用してください。
通常のシートベルトでは衝突のとき首などに強い圧迫を受け、けがをするおそれがあり危険です。
チャイルドシート、ジュニアシートは、お子さまの年齢や体格に合わせて選んでください。

⚠ 警告

- SRS エアバッグの展開部にステッカーを貼ったり、カバーを付けないでください。いざというときにパッド部が開かず SRS エアバッグが作動しないおそれがあります。
- インストルメントパネルの上に飲み物や物を置かないでください。SRS エアバッグが膨らむときの衝撃でけがをするおそれがあります。



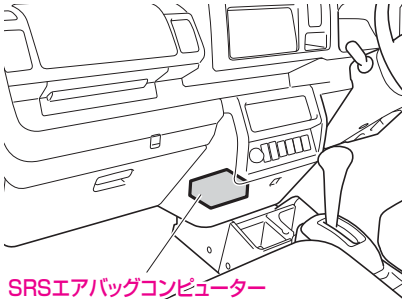
- ステアリングパッド、インストルメントパネルの上など SRS エアバッグ展開部は、強くたたくなど過度の力を加えないでください。
  SRS エアバッグが正常に作動しなくなるなどして、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
- SRS エアバッグの効力を十分に発揮させるため、下記の事項を必ず守ってください。
  - サスペンションを改造しないでください。車高が変わったり、サスペンションの硬さが変わると SRS エアバッグの誤作動につながるおそれがあります。
  - 車両前部にグリルガードなどを装着する場合は、最寄りのトヨタ販売店にご相談ください。
- 無線機の電波などは、SRS エアバッグを作動させるコンピューターに悪影響をあたえるおそれがありますので、無線機などを取り付けるときは、トヨタ販売店にご相談ください。
- SRS エアバッグは非常に速い速度で膨らむため、SRS エアバッグとの接触によりすり傷、やけど、打撲などを受けることがあります。
- SRS エアバッグが作動すると作動音とともに白い煙のようなガスが発生しますが、火災ではありません。このガスを吸うと、喘息などの呼吸器系を患った経緯のある方は、呼吸が苦しくなることがあります。
  この場合は、乗員が車外に出ても安全であることを確認して、車外に出てください。なお、車外に出ることができない場合は、窓やドアを開けて新鮮な空気を入れてください。
  また、SRS エアバッグ作動時の残留物（カスなど）が目や皮膚に付着したときは、できるだけ早く水で洗い流してください。皮膚の弱い方は、まれに皮膚を刺激する場合があります。

⚠ 警告

- 衝突時などに助手席 SRS エアバッグが膨らむことによって、車両のフロントウインドガラスが破損することがあります。
- SRS エアバッグは一度作動すると再使用できません。必ずトヨタ販売店で交換してください。
- 下記のような場合は必ずトヨタ販売店にご相談ください。
  お客様自身で行うと、SRS エアバッグが思いがけなく作動し、故障や思わぬ事故につながるおそれがあります。
  - ハンドルを取り外すとき
  - 車両前部を修理するとき
- 車や SRS エアバッグを廃棄するときは必ずトヨタ販売店にご相談ください。SRS エアバッグが思いがけず作動し、けがをするおそれがあります。
- SRS エアバッグが収納されているパッド部に傷が付いていたり、ひび割れがあるときは、そのまま使用せずトヨタ販売店で交換してください。衝突したときなどに SRS エアバッグが正常に作動せず、けがをするおそれがあります。

SRS エアバッグコンピューター

SRS エアバッグを制御する装置です。



⚠ 警告

- SRS エアバッグコンピューターは、絶対に取り外したり、分解しないでください。
  SRS エアバッグが誤って展開したり、いざというときに作動しないおそれがあります。
- SRS エアバッグコンピューターには、水、飲み物などをかけないでください。
- SRS エアバッグコンピューターおよびその近くを強くたたいたり、蹴ったりしないでください。
- SRS エアバッグが一度作動すると再使用できません。トヨタ販売店で交換してください。

各部の開閉と各部の調整

車体各部の開閉

キー …… 54
キーレスエントリー …… 56
ドア …… 57
パワーウインド …… 61
手動式ウインド …… 65
荷台関係 …… 66
給油のしかた …… 73

車体各部の調整

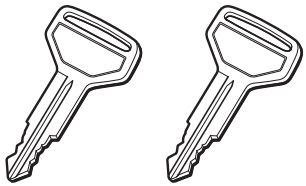
シート …… 76
ルームミラー …… 77
ドアミラー …… 77

車体各部の開閉

キー

キーはエンジンの始動や停止のほかに、ドアの施錠・解錠など車を操作するためになくてはならない物です。大切に管理してください。

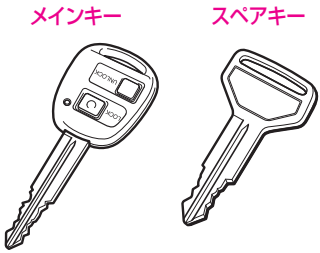
キーレスエントリー装着車以外



▼ お客様にお渡しするキー

● お車には、キーが 2 枚付いています。

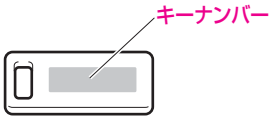
キーレスエントリー装着車



▼ お客様にお渡しするキー

● お車には、メインキー 1 枚とスペアキー 1 枚が付いています。

キーナンバープレート



キーナンバーは、キーではなくプレートに打刻しています。

● プレートは、お客様以外にキーナンバーがわからないように、車両以外の場所に大切に保管してください。

キーの取扱い

知識

スペアキーについて

● 大切に保管しておいてください。

キーのご購入について

● キーレスエントリー装着車のメインキーは 4 枚まで設定することができます。ご購入方法、ご使用方法についてはトヨタ販売店にご相談ください。

万一キーを紛失したときは

● キーナンバーをトヨタ販売店にご連絡いただければ、純正キーを作ることができます。

キーレスエントリー装着車

注意

故障を防ぐために

● メインキーには精密な電子部品が組み込まれています。故障の原因となりますので下記のことをお守りください。
- 直射日光や高温下に放置しない
- 落とすなどして、強い衝撃や圧力を加えない
- 水にぬらしたり、ゴミ、ほこりなどが入らないようにする

知識

航空機に乗るときは

● 航空機にメインキーを持ち込む場合は、航空機内で“LOCK”、“UNLOCK”のボタンを押さないでください。また、かばんなどに保管する場合でも、簡単にボタンが押されないように保管してください。ボタンが押されると電波が発信され、航空機の運行に支障をおよぼすおそれがあります。

電池の消耗について

● メインキーの電池寿命は、1 日 10 回乗降時で約 2 年です。

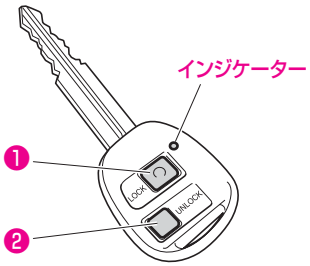
● ボタンを押しても作動しない場合や、著しく作動可能距離が短くなった場合、またはインジケーターが点滅しなくなった場合は、電池の消耗が考えられます。早めに電池を交換してください。

（キーの電池交換→ 198 ページ）

キーレスエントリー

オプション／グレード別装備

メインキーのスイッチを押すことで、ドアの施錠・解錠ができます。



▼ リモコン操作

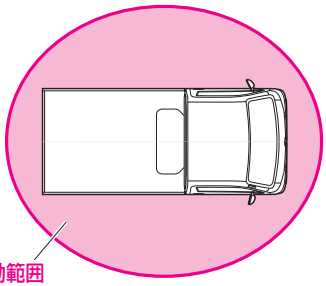
● スイッチを押すと、以下の操作ができます。

❶：ドアの施錠

❷：ドアの解錠

（リモコン操作→ 58 ページ）

作動範囲



知識

● 周囲の状況により、作動範囲が変化することがあります。

キーレスエントリーが正常に作動しないおそれのある状況

● 近くに下記のような強い電波を発生する設備があるとき

- TV 塔
- 発電所
- 放送局

ドア

▼ 操作を行う前に

⚠ 警告

- ドアの開閉は確実に行ってください。ドアが確実に閉まっていないと、走行中にドアが開き、思わぬ事故につながったり、運転者や同乗者、または荷物が車から投げ出されるおそれがあります。
- 走行中は絶対にドアを開けないでください。車外に放り出されたりして、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
- ドアを開けるときは、周囲の安全を十分確認してください。いきなり開けると後続車にぶつかるおそれがあり危険です。風が強いときは特に注意してドアを開けてください。
- 車から離れるときは、必ずエンジンを止め施錠してください。無人で車が動き出したり、車両盗難のおそれがあります。
- お子さまに各ドアの開閉をさせたり、いたずらをさせないでください。思わぬ事故の原因となり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
- ドアを閉めるとき指などを挟まないように注意してください。

知識

車を離れるときは

- ドアハンドルを引き、確実にドアが施錠されていることを確認してください。
- 貴重品などを車の中に置いたままにしないでください。

車外からの施錠・解錠

キー操作

▼ 操作方法

キーを確実に差し込み、

施錠：車両前方に回す

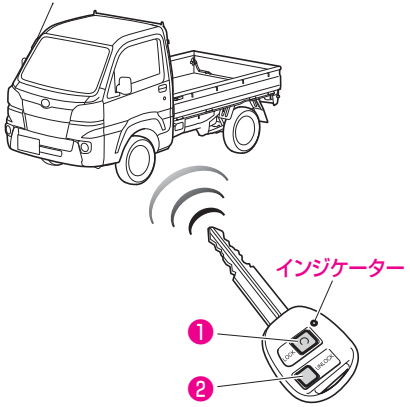
解錠：車両後方に回す

知識

- キーは挿入口に確実に差し込んでください。

リモコン操作

キーレスエントリー装着車



▼ 操作方法

1 スイッチ（❶）を押すと、すべてのドアが施錠される

2 スイッチ（❷）を押すと、すべてのドアが解錠される

知識

ドアの施錠・解錠ができない状況

- キーがエンジンスイッチのキー挿入口に差し込まれているとき
- いずれかのドアが開いているとき

ドアのタイマーロック機能について

- ドアが解錠されたあとにドアの開閉を行わなかった場合は、約 30 秒後に自動ですべてのドアが施錠されます。

車内からの施錠・解錠

▼ 操作方法

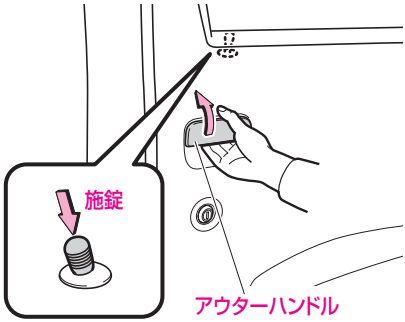
施錠：プッシュボタンを押し込む

解錠：プッシュボタンを引き上げる

車外からキーを使用しない施錠

知識

● キーを使用せずにドアを施錠するときは、キーを手に持っていることを確認してからドアを閉めてください。キーを閉じ込むおそれがあります。



▼ 操作方法

1 プッシュボタンを押し込む

2 アウターハンドルを引いたままドアを閉めると、施錠される

ドアの施錠・解錠の合図（アンサーバック）

キーレスエントリー装着車

キーレスエントリーによるドアの施錠・解錠を行うと、非常点滅灯の点滅でお知らせします。

施錠：1 回

解錠：2 回

知識

● ドアの施錠・解錠と連動して、室内照明（スイッチが“DOOR”のとき）は点灯・消灯します。
（ドア連動機能→ 156 ページ）

● 室内照明の点灯時間を変更することができます。詳しくはトヨタ販売店にご相談ください。

パワードアロック

キーレスエントリー装着車

運転席ドアを施錠・解錠すると、連動して助手席ドアが施錠・解錠します。

キー閉じ込み防止機能

キーレスエントリー装着車

キーを車内に残したまま、施錠することを防ぐ機能です。キーがエンジンスイッチに差し込まれているときに作動します。

▼ キー閉じ込み防止機能が作動するとき

以下の操作をするとキー閉じ込み防止機能が作動して、すべてのドアが解錠されます。

- 車内の運転席ドアのプッシュボタンを施錠方向に押し下げ、運転席アウターハンドルを引いたままドアを閉めたとき
- 運転席と助手席のドアが施錠されている状態で、助手席側ドアのプッシュボタンを車内から解錠し、ドアを開けて閉めたとき

知識

- 必ずキーを携帯していることを確認してから施錠してください。

パワーウインド

オプション／グレード別装備

⚠ 警告

けがや事故を防ぐために

- パワーウインドは大変強い力で開閉しますので、開閉するときは、ほかの人の手・腕・頭・首などを挟んだり巻き込んだりしないよう注意してください。重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあり危険です。
- お子さまにパワーウインドの操作をさせないでください。開閉するとき、手・腕・頭・首などを挟んだり巻き込んだりして、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあり危険です。お子さまを乗せているときは、パワーウインド OFF スイッチを“OFF”にしてください。

⚠ 注意

故障を防ぐために

- 以下のことをお守りください。お守りいただかないと、故障の原因となります。
  - 運転席スイッチとほかのスイッチを同時に逆方向へ動かさない
  - ドアガラスを完全に開閉した状態でスイッチを押し続けない
  - ガラスが凍りついて固着したような状態でスイッチの“開”または“閉”を連続操作しない

バッテリーあがりを防ぐために

- パワーウインドの開閉はなるべくエンジン回転中に行ってください。

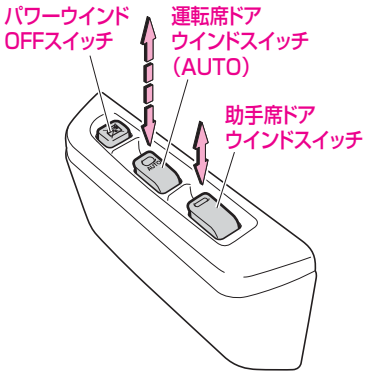
知識

パワーウインドモーターの過熱保護機能について

- パワーウインドモーターには、過熱保護機能を内蔵しています。パワーウインドモーターの負荷が大きい状態が続いたときなどは、過熱保護機能が作動し一時的にパワーウインドが停止することがあります。数十秒経過すると、通常どおり使用できるようになります。

運転席側ドアスイッチ

エンジンスイッチが“ON”のとき、スイッチでドアガラスを開閉できます。



▼ 閉じかた

● スイッチを軽く引き上げる

▼ 開きかた

● スイッチを軽く押し下げる

運転席ドアガラス（AUTO）操作

▼ 自動全閉

● スイッチを「カチッ」と音がするまで引き上げる

▼ 自動全開

● スイッチを「カチッ」と音がするまで押し下げる

▼ 途中で止めるときは

● スイッチを軽く逆方向に操作する

運転席ドアガラス挟み込み防止機能

運転席ドアガラスを（AUTO）操作で閉めるときに、窓枠とドアガラスの間に異物の挟み込みを感知すると、ドアガラスの上昇を停止し、自動的に下降します。

⚠ 警告

● 特に小さな物を挟み込んだとき、挟み込み防止機能が作動しないことがあります。

知識

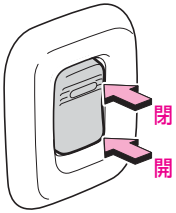
● 環境や走行条件により、異物を挟み込んだときと同じ衝撃がドアガラスに加わると、挟み込み防止機能が作動することがあります。

エンジンスイッチ“LOCK”後作動機能

エンジンスイッチを“LOCK”または“ACC”にしたあとでも、約 40 秒間は運転席ドアガラスを開閉できます。

助手席側ドアスイッチ

エンジンスイッチが“ON”のとき、スイッチで助手席側ドアガラスを開閉できます。



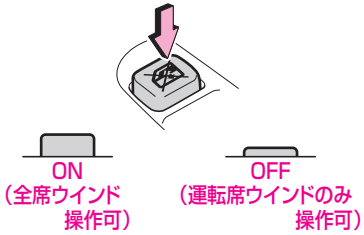
▼ 閉じかた

● スイッチの上側を押す

▼ 開きかた

● スイッチの下側を押す

パワーウインド OFF スイッチ



スイッチを押し込むと“OFF”になり、助手席側ドアガラスの開閉ができなくなります。

スイッチをもう一度押すと解除されます。

パワーウインドの取扱い

運転席ドアガラスが全閉しないとき

挟み込み防止機能が異常に作動してしまい、運転席ドアガラスを全閉できないときは、運転席ウインドスイッチで、下記の操作を行ってください。

1 車を停止し、エンジンスイッチを“ON”にする

2 運転席ウインドスイッチを「カチッ」と音がするまで上に引き（自動全閉位置）、引き続けたままドアガラスを全閉にする

3 全閉後スイッチから手を離さず、さらに約 6 秒間スイッチを上に引き続ける

● 操作中、スイッチから手を離したときは、もう一度はじめからやり直してください。

● 上記の操作を行っても運転席ドアガラスが全閉しない場合は、トヨタ販売店で点検を受けてください。

パワーウインドの初期設定

バッテリー交換やヒューズ交換などで、バッテリーとの接続が断たれたときは、パワーウインドの初期設定をしてください。初期設定しないと、下記の機能は作動しません。

● 運転席ドアガラスの

- 自動開閉機能
- 挟み込み防止機能
- エンジンスイッチ“LOCK”後作動機能

1 エンジンスイッチを“ON”にする

2 運転席ウインドスイッチを下に押し続け、全開にする

3 スイッチを「カチッ」と音がするまで上に引き（自動全閉位置）、引き続けたままドアガラスを全閉にする

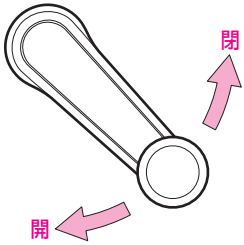
4 全閉後スイッチから手を離さず、さらに約2秒間スイッチを上に引き続ける

● 操作中、スイッチから手を離したときは、もう一度はじめからやり直してください。

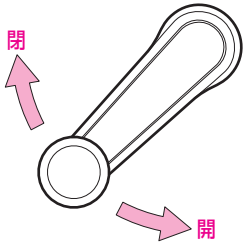
手動式ウインド

オプション／グレード別装備

ハンドルを回してドアガラスの開閉を行うことができます。



〈助手席側〉



〈運転席側〉

⚠ 警告

けがや事故を防ぐために

- お子さまに手動式ウインドの操作をさせないでください。開閉するとき、手・腕・頭・首などを挟んだり巻き込んだりして、重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

荷台関係

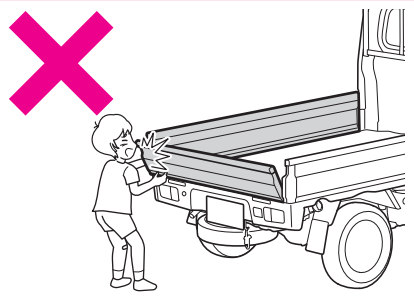
⚠警告

走行するときは

- 走行前にテールゲート、およびサイドゲートを軽くゆすり、ゲートが確実にロックされていることを確認してください。走行中に突然ゲートが開き、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
- 走行中はテールゲート、およびサイドゲートを閉じてください。開けたまま走行すると、ゲートが車外のものに当たったり、荷物が道路に落下したりするなど、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
- 荷台に人を乗せて走行しないでください。急ブレーキをかけたときや衝突したときなどに重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

お子さまを乗せているときは

- お子さまにはテールゲート、およびサイドゲートの開閉をさせないでください。お子さまが操作すると、手・頭・首などを挟んだりして、生命にかかわる重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

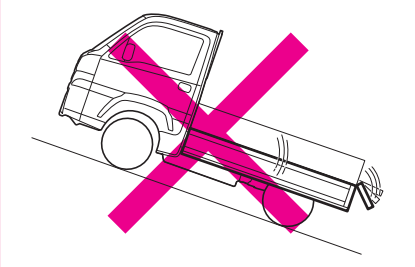


テールゲート、およびサイドゲートを開閉するときは

- テールゲート、およびサイドゲートの開閉や荷物の積み降ろしをするときは、次のことをお守りください。ゲートで手などを挟むなど、思わぬけがをするおそれがあり危険です。
  - ゲート周辺の安全を十分確認してください。
  - 周りに人がいるときは、動かすことを知らせる「声かけ」をしてください。
  - ゲートのふちやその周辺に手をかけずに開閉してください。
  - ゲートを閉めるときは自分や周りの人の指などを挟まないよう、十分に注意してください。
- 強風時の開閉には注意してください。風にあおられて、テールゲート、およびサイドゲートが勢いよく開いたり閉じたりするおそれがあります。

⚠ 警告

- 傾斜地での開閉には注意してください。平坦な場所よりもテールゲート、およびサイドゲートが開閉しにくかったり、急にゲートが閉じたり開いたりするおそれがあります。ゲートを開けたときは必ず全開で静止していることを確認してください。

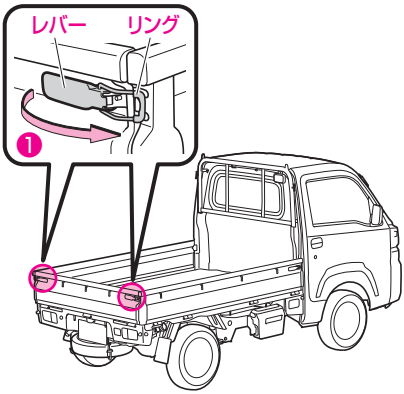


- エンジンをかけたまま荷物の積み降ろしをするときは、排気管の後方に立たないでください。排気熱でやけどをするおそれがあります。
- テールゲートを開けて駐停車するときは、車両後方に停止表示板（停止表示灯）を置いてください。テールゲートを開いていると非常点滅灯などが見えなくなるため、思わぬ事故につながるおそれがあります。

⚠ 注意

- テールゲート、およびサイドゲートを開くときは、必ず手をそえて行ってください。手放しで行うと、ゲートを損傷するおそれがあります。
- テールゲート、およびサイドゲートを開けた状態で、ゲートの上に荷物を積んだり、ゲートを押さないでください。ヒンジやゲートが損傷するおそれがあります。

テールゲート



▼ 開けるとき

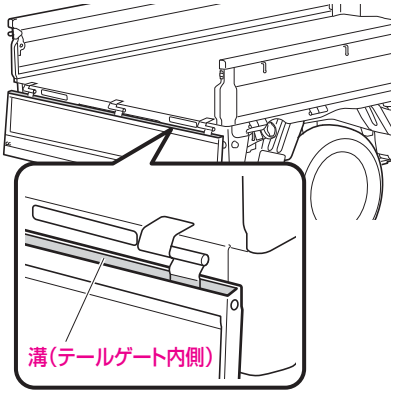
1 左右のロックレバーを起こす（❶）

2 リングをツメから外してゲートを開ける

▼ 閉めるとき

逆の手順で行ってください。

あゆみ板掛け溝



テールゲートを全開にすると、テールゲート内側にあゆみ板（別売）のツメを引っかける溝があります。

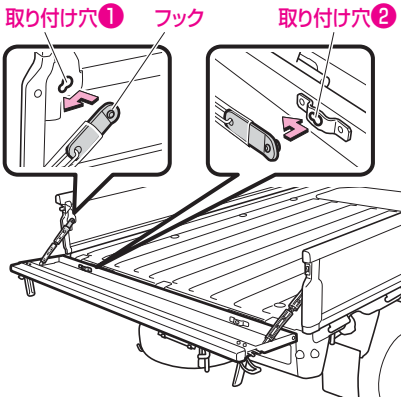
⚠ 注意

- あゆみ板は必ずテールゲートの溝にかけてください。テールゲートと荷台の間にかけると、テールゲートが損傷したり、リフレクタやリヤコンビランプが破損するおそれがあります。

格納式テールゲートチェーン

オプション／グレード別装備

テールゲートの両端にあるチェーンを使うと、テールゲートを半分まで開けて固定できます。



▼ 使用するとき

- サイドゲート側の取り付け穴（❶）にチェーン端部のフックを固定する

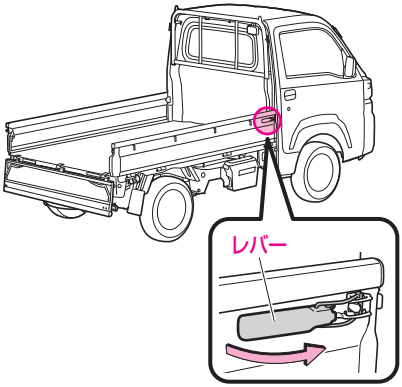
▼ 使用しないとき

- テールゲート側の取り付け穴（❷）にチェーン端部のフックを固定する

⚠ 警告

- テールゲートを閉めるときは、チェーンがかみ込んでいないことを確認し、ロックレバーで確実にロックしてください。ロックが不十分だと、走行中にゲートが開くなど思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
  また、かみ込んだまま閉めるとテールゲートやチェーンを損傷するおそれがあります。
- テールゲートチェーンを使用するときに、テールゲートの上に乗ったり重いものを載せたりしないでください。けがをしたり、チェーンやフックが破損したりするおそれがあります。

サイドゲート



▼ 開けるとき

1 テールゲートのロックを外す

2 サイドゲートのロックレバーを起こしてゲートを開ける

▼ 閉めるとき

逆の手順で行ってください。

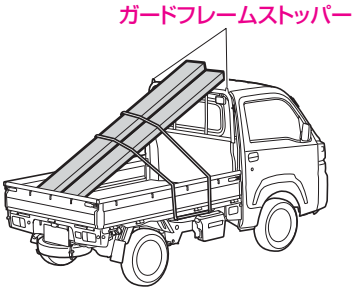
⚠ 注意

● サイドゲートを閉めるときは、ロックレバーを起こしながら閉めてください。
起こさずに閉めると、ロックレバーが破損するおそれがあります。

ガードフレーム

ガードフレーム上に積荷をのせるときは、必ずガードフレームストッパー間にのせ、ロープ等でしっかりと固定します。

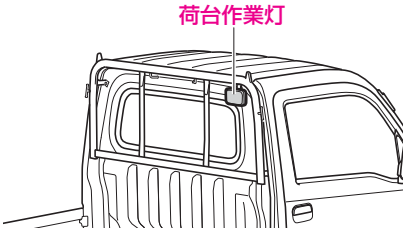
● 長尺物は下図の状態で固定してください。



荷台作業灯

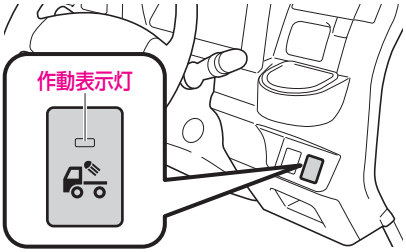
オプション／グレード別装備

夜間に荷台を照らすときに使用します。



荷台作業灯スイッチ

エンジンスイッチが“ON”のとき使用できます。



▼ 点灯のしかた

● 駐車ブレーキをかけたあと、スイッチを押す（作動表示灯が点灯します。）

▼ 消灯のしかた

● もう一度スイッチを押す（作動表示灯が消灯します。）

⚠ 注意

バッテリーあがりを防ぐために

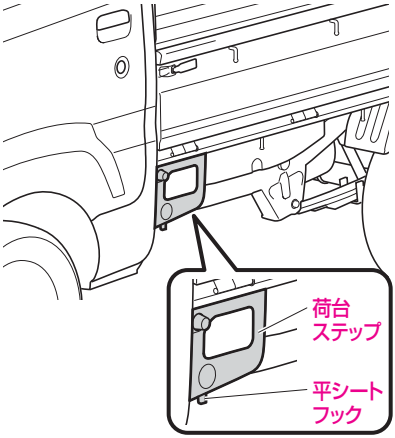
● エンジンを止めた状態で長時間使用しないでください。

📖 知識

使用しないときは必ずスイッチを切ってください

● スイッチを入れたまま信号などで停車し、駐車ブレーキをかけると、作業灯が点灯して後続車両の迷惑になります。

荷台ステップ



荷台へ乗降する際、サイドゲートを乗りこすための足置き場として使用ください。

平シートフック

荷台シートや幌を固定するために使用します。

⚠ 注意

- ロープをかけて使用しないでください。フックが変形したり、ロープがゆるみ、荷物が走行中に落下するおそれがあります。

給油のしかた

▼ 給油をする前に

⚠ 警告

● 燃料は引火しやすいため、下記のことを守らないと火災につながり、やけどなど重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

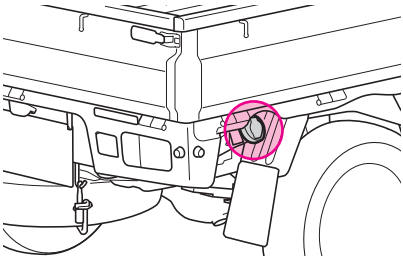
- エンジンは必ず止めてください。
- 車のドア、窓は閉めてください。
- タバコを吸うなど、火気を近付けないでください。
- フューエルキャップを開ける前に、必ず車体または給油機などの金属部分に触れて、身体の静電気除去を行ってください。身体に静電気を帯びていると、放電による火花が引火するなどして、やけどのおそれがあります。
- フューエルキャップを開けるなどの給油操作は、必ず静電気除去を行った方お一人で行ってください。
- 給油中に再び車内のシートに触れたり、座ったり、また人や物に触れると再帯電する場合があります。このようなときは再び給油機などの金属部分に触れて静電気除去を行ってください。
- フューエルキャップを開ける際は、必ずキャップのツマミ部分を持ち、ゆっくりと開けてください。気温が高いときなどは燃料タンク内の圧力が高くなり、給油口から燃料が吹き返すおそれがあります。
- フューエルキャップを少しゆるめた時に「シュー」という音がする場合は、それ以上開けずに、その音が止まるのを確認してからゆっくりと開けてください。
- 給油口にほかの人を近付けないでください。
- 給油するときは、給油口にノズルを確実に挿入してください。また、オートストップ作動後の継ぎ足し給油は行わないでください。給油口から燃料が吹きこぼれるおそれがあります。
- 給油機によっては、早期にオートストップが作動して正常に給油できない場合があります。ガソリンスタンドの係員を呼んで指示に従ってください。
- 給油終了後、フューエルキャップを閉めるときは「カチッ、カチッ」という音がするまで右に回し、確実に閉まっていることを確認し、施錠してください。
- トヨタ純正フューエルキャップ（指定）以外は使用しないでください。燃料漏れなどを起こすおそれがあり危険です。
- その他ガソリンスタンド内に掲示されている注意事項を守ってください。

● 燃料には、人体に有害な発ガン性物質を含んでいる物もありますので、燃料の気化ガスを吸わないようにご注意ください。

⚠ 注意

- 指定燃料は無鉛レギュラーガソリン、または無鉛プレミアムガソリンです。
  - 給油時に、指定されている燃料であることを確認してください。
  - 指定以外の燃料（粗悪なガソリン、アルコール系燃料、軽油、灯油など）を使用すると、エンジンの始動性が悪くなったり、ノッキングや出力の低下などが発生する場合があります。また、そのまま利用していると、エンジンや燃料系部品を損傷するおそれがあります。
- 給油中に燃料がこぼれた場合はただちに給油を止め、こぼれた燃料を布きれなどでふき取ってください。
- こぼれた燃料が車の塗装面に付着した場合は水洗いをおすすめします。付着したままで放置すると、塗装面が劣化するおそれがあります。

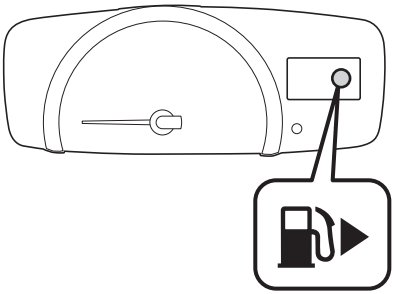
フューエルキャップの位置



車体右側後部にあります。

知識

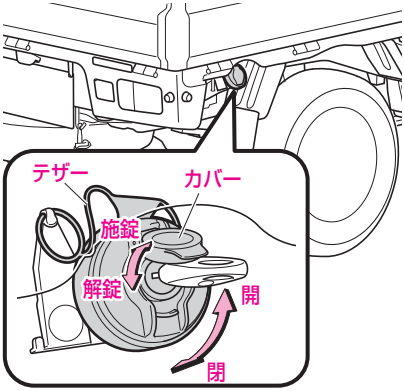
- メーター内にフューエルキャップの車両取り付け方向を示しています。



フューエルキャップの開閉

⚠ 注意

●フューエルキャップを回すときは、テザーが一緒に回らないように注意してください。フューエルキャップ周辺に泥や氷が付着していると、テザーとフューエルキャップが一緒に回り、テザーが破損するおそれがありますので、泥や氷などは取り除いてください。



▼ 開けかた

1 カバーを開ける

2 キーを差し込み、左に約 90°回す

3 キーを抜き取る

4 キャップを左に回す

▼ 閉めかた

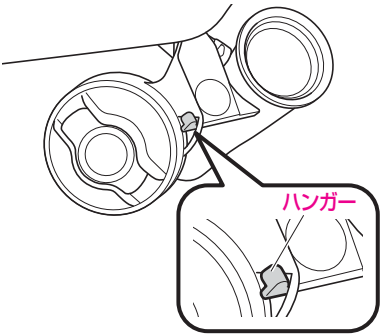
1 キャップを「カチッ、カチッ」という音がするまで、右に回す

2 カバーを開ける

3 キーを差し込み、右に約 90°回す

4 キーを抜き取る

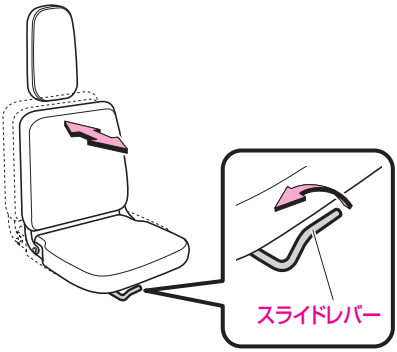
▼ 給油するときは



外したフューエルキャップをハンガーにかけることができます。

車体各部の調整

シート



▼ スライド操作

運転席

レバーを引き上げながら、前後にシートをスライドします。

⚠ 警告

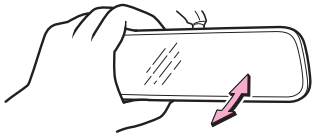
- シートの調整は必ず走行前に行い、調整後はシートを前後に軽くゆすり、確実に固定されたことを確認してください。シートが固定されていないとシートが動き、思わぬ事故の原因となって、生命にかかわる重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

シートを調整するときは

- 次のことを守ってください。
  守らないと、けがをしたり、シートが破損したりするおそれがあります。
  - 手足を挟んだり、体にあたらないように十分注意する
  - シートの下や動いている部分に手足を近付けない
  - 同乗者や物に当てない

ルームミラー

角度調整のしかた



ルームミラー全体を持って、角度を調整する

⚠ 警告

- 走行中は、ルームミラーの調整をしないでください。運転を誤り思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

ドアミラー

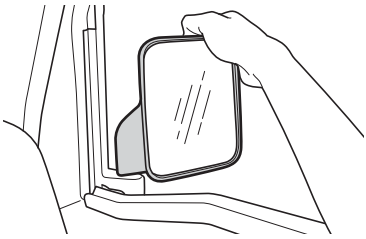
ミラーの格納、角度調整を手で行います。

⚠ 警告

- 調整は必ず走行前に行ってください。走行中にミラーの調整を行うと、運転を誤り思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
- ミラーを倒したまま走行しないでください。ミラーによる後方確認ができず事故につながるおそれがあり危険です。
- ミラーの操作を行う際は、ドアとミラーの間に手を挟まないように注意してください。
- 汚れた手で調整しないでください。鏡面に油や汚れが付くと夜間など後方からのライトが乱反射し、視認が困難になるなどして大変危険です。

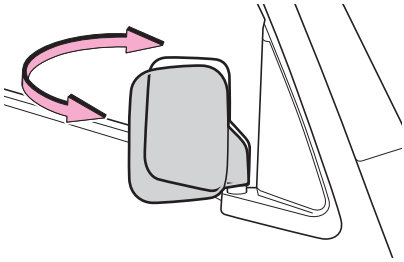
鏡面の角度調整のしかた

ドアミラー全体を動かして角度を調整する



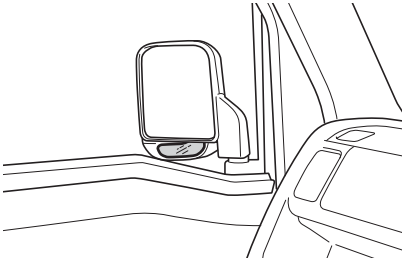
格納のしかた

ドアミラーを手で後方に倒して格納する



サイドアンダーミラー

助手席側ドアミラー下部に装着されています。

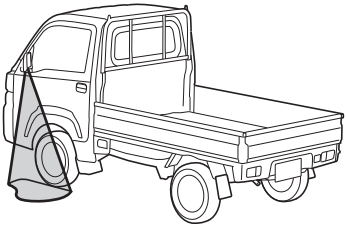


発進時、または低速時に、運転席側から助手席側下部を確認することができます。

知識

- サイドアンダーミラーは下向きになっています。
- サイドアンダーミラーの角度調整は不要です。

見える範囲



ミラーを見る姿勢によって、見える範囲は異なります。

注意

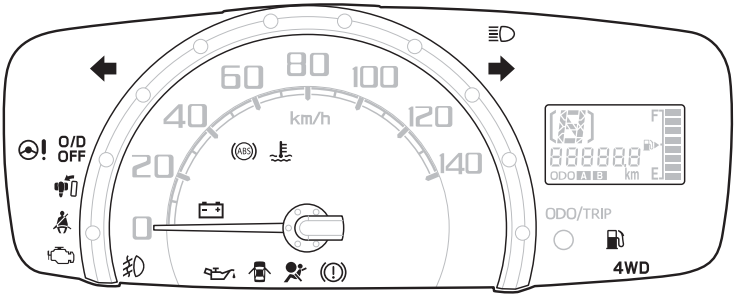
- 見える範囲には限界があるため、周囲の安全確認は直接目視でするか、ルームミラー、ドアミラーなども併用して十分行ってください。

計器類とスイッチ

警告灯、表示灯
警告灯 …… 80
表示灯 …… 88
メーターのはたらき
メーター …… 92
スイッチの使いかた
ライトスイッチ …… 95
ヘッドランプマニュアル
レベリングスイッチ …… 97
フォグランプスイッチ …… 98
ワイパー・ウォッシャー
スイッチ …… 98
ホーンスイッチ …… 99
方向指示スイッチ …… 100
非常点滅灯スイッチ …… 100

警告灯、表示灯

表示灯、警告灯の有無やメーターのデザインは、グレードやオプション装備により一部異なることがあります。



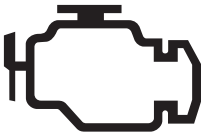
警告灯

さまざまなシステムの異常や、安全運転に関わる項目をメーター内に警告します。

⚠ 警告

- 警告灯が点灯（または点滅）したまま走行すると、思わぬ事故を引き起こしたり、車両が損傷するおそれがあります。
  この場合、それぞれの警告灯の項目にしたがい、処置を行ってください。
- エンジンスイッチを“ON”にしても警告灯が点灯（または点滅）しないときは、トヨタ販売店で点検を受けてください。

エンジン警告灯



- エンジンスイッチを“ON”にすると点灯し、エンジンを始動すると消灯します。
- エンジンが回転中で、エンジン電子制御システムに異常があると点灯、または点滅します。

⚠ 注意

点灯・点滅した場合

- ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。

油圧警告灯

- エンジンスイッチを“ON”にすると点灯し、エンジンを始動すると消灯します。
- エンジンが回転中で、エンジン内部を潤滑しているエンジンオイルの圧力が低下すると点灯します。

⚠ 注意

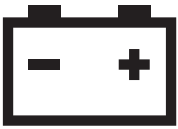
点灯した場合

- そのまま走行すると、エンジンが故障するおそれがあります。
  ただちに安全な場所に停車し、エンジンを停止して、トヨタ販売店にご連絡ください。
- エンジンオイルの量が少なくなると警告灯が点灯します。走行中に点灯したときは、エンジンを故障させないために高回転まで回らなくなります。
  ただちにトヨタ販売店にご連絡ください。

知識

- 油圧警告灯は、オイル量を示すものではありません。オイル量の点検は、オイルレベルゲージで行ってください。
  （オイル量の点検方法は、別冊の「メンテナンスノート」参照）

充電警告灯



- エンジンスイッチを“ON”にすると点灯し、エンジンを始動すると消灯します。
- エンジンが回転中で、充電系統に異常（ベルトののび、損傷など）があると点灯します。

⚠ 注意

点灯した場合

- ただちに安全な場所に停車して、トヨタ販売店にご連絡ください。

知識

- エンジン始動後に警告灯がしばらく点灯しても、その後、消灯すれば異常ではありません。

ブレーキ警告灯

- エンジンスイッチを“ON”にすると点灯し、駐車ブレーキを完全に解除すると消灯します。
- エンジンスイッチが“ON”で、下記の場合に点灯します。
  - 駐車ブレーキが完全に解除されていないとき
  - ブレーキ液の液量が不足しているとき
  - EBD 制御に異常があるとき

▼ **駐車ブレーキが解除されている場合**

エンジンスイッチを“ON”にすると点灯し、数秒後に消灯します。

警告ブザー

駐車ブレーキが完全に解除されていない状態（警告灯が点灯している状態）で、約 5km/h 以上で走行すると、ブザーが鳴ります。

駐車ブレーキを解除すると、ブザーが鳴りやみます。

⚠ 警告

エンジン回転中、駐車ブレーキを解除しても、点灯したまま消灯しない場合

- ブレーキ液量の不足が考えられます。
  この場合、ブレーキの効きが悪くなっているおそれがあります。
  効きが悪いときは、ブレーキペダルを強く踏み、ただちに安全な場所に停車して、トヨタ販売店にご連絡ください。

ABS 警告灯と同時に点灯した場合

- 強めのブレーキの際に車両が不安定になるおそれがあります。
  ただちに安全な場所に停車して、トヨタ販売店にご連絡ください。

⚠ 注意

- 制動時、常に異音（キーキー音など）が発生するときは、ブレーキパッドの摩耗が考えられます。
  ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。

水温警告灯（赤色）

- エンジンスイッチを“ON”にすると赤色に点灯し、数秒後に消灯します。
- エンジンスイッチが“ON”で、エンジン冷却水温が異常に高くなると赤色に点滅し、その後、さらに水温が高くなると点灯に変わります。

⚠ 注意

赤色に点滅・点灯した場合

- エンジン冷却水温の異常な上昇によるオーバーヒートが考えられます。
  ただちに安全な場所に停車して、処置を行ってください。

（オーバーヒートの処置→ 227 ページ）

知識

エンジン冷却水温が低いときは

- 水温表示灯としてはたらき、青色に点灯します。

（水温表示灯（青色）→ 89 ページ）

警告ブザー

エンジン冷却水温の異常な上昇により、警告灯が赤色点滅、または赤色点灯しているときは、ブザーが鳴ります。

知識

- ブザーは警告灯が赤色点滅時は断続的に鳴り、警告灯が赤色点灯に変わると同時に連続音に変わります。

オートマチックトランスミッション警告灯

オートマチック車

（点滅）

エンジンスイッチが“ON”で、オートマチックトランスミッションシステムに異常があると点滅します。

⚠ 注意

点滅した場合

- ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。

シートベルト未装着警告灯（運転席）

- エンジンスイッチが“ON”で、運転席の乗員がシートベルトを着用していないと点滅します。
- シートベルトを着用すると消灯します。

警告ブザー

シートベルトを着用していない状態（警告灯が点滅状態）で、約20km/h以上で走行すると、ブザーが約 2 分間鳴ります。

知識

- 1 度警告ブザーが鳴ると、たとえ約 20km/h 以下で走行しても、約 2 分間鳴り続けますので、走行するときは必ずシートベルトを着用してください。
- ブザーが鳴り始めてから、約 30 秒後に断続音の速さが変わります。

半ドア警告灯

エンジンスイッチに関係なく、いずれかのドアを開けると点灯し、すべてのドアを完全に閉めると消灯します。

⚠ 警告

点灯した場合

- 警告灯が点灯したまま走行しないでください。ドアが確実に閉まっていないため、走行中にドアが開き、思わぬ事故につながるおそれがあります。

⚠ 注意

点灯した場合

- 警告灯が点灯した場合は、もう一度ドアを閉めなおして、警告灯が消灯したことを確認してください。
  消灯しないときや、再び点灯するときは、ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。

燃料残量警告灯

エンジンスイッチが“ON”のとき、燃料残量が約 8ℓ以下になると、燃料残量警告灯が数回点滅した後、点灯します。

（燃料計→ 93 ページ）

⚠ 注意

点灯した場合

● ただちに燃料を給油してください。

知識

● 坂道やカーブなどでは、タンク内の燃料が移動するため、警告灯が早めに点灯することがあります。

警告ブザー

燃料残量警告灯が点滅すると、ブザーが 2 回鳴ります。

ABS 警告灯

● エンジンスイッチを“ON”にすると点灯し、数秒後に消灯します。

● エンジンスイッチが“ON”で、ABS に異常があると点灯します。

⚠ 警告

ブレーキ警告灯と同時に点灯した場合

● ABS に異常があるだけでなく、強めのブレーキの際に車両が不安定になるおそれがあります。ただちに安全な場所に停車して、トヨタ販売店にご連絡ください。

⚠ 注意

点灯した場合

● 通常のブレーキとしての性能は確保されていますが（ABS としての作動はしません）、トヨタ販売店で点検を受けてください。

知識

● 走行中に警告灯が数秒間点灯しても、その後、消灯すれば異常ではありません。ただし、点灯・消灯をくり返す場合は、トヨタ販売店で点検を受けてください。

SRS エアバッグ警告灯

- エンジンスイッチを“ON”にすると点灯し、数秒後に消灯します。
- エンジンスイッチが“ON”で、下記のシステムに異常があると点灯します。

▼ 異常があると点灯するシステム

- SRS エアバッグ
  （SRS エアバッグ→ 46 ページ）
- プリテンショナー機構
  （プリテンショナー機構→ 37 ページ）

⚠ 注意

点灯した場合

- ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。

電動パワーステアリング警告灯

オプション / グレード別装備

- エンジンスイッチを“ON”にすると点灯し、エンジンを始動すると数秒後に消灯します。
- エンジンが回転中で、電動パワーステアリングシステムに異常があると点灯します。

⚠ 注意

- 停車中や微低速走行中にハンドル操作を繰り返したり、ハンドルに力をかけたまま保持すると、モーターやコンピューターの過熱を防止するため、パワーステアリング制御が制限され、ハンドル操作が重くなります。
  この場合、しばらくハンドル操作を控えてください。
  ハンドル操作をしないまま約 10 分が経過すると、通常の重さに戻ります。

点灯した場合

- ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。

知識

- ハンドル操作を行ったとき、モーター音（「ウィーン」という音）が聞こえることがあります。
  これは、パワーステアリングモーターが作動しているときの音で、異常ではありません。

表示灯

車両のさまざまな状態をメーター内に表示します。

⚠ 警告

- 表示灯によっては、点灯（または点滅）したまま走行すると、思わぬ事故を引き起こしたり、車両が損傷するおそれがあります。
  この場合、それぞれの表示灯の項目にしたがい、処置を行ってください。
- 点灯操作を行っても、表示灯が点灯しないときは、トヨタ販売店で点検を受けてください。

方向指示表示灯・非常点滅表示灯

方向指示表示灯

エンジンスイッチが“ON”で、方向指示灯を点滅させると、同時に表示灯が点滅します。

非常点滅表示灯

エンジンスイッチに関係なく、非常点滅灯を点滅させると、同時に左右の表示灯が点滅します。

知識

点滅する間隔が異常に速くなった場合

- 方向指示灯（非常点滅灯）の電球切れが考えられます。すべての方向指示灯が点滅するか確認してください。

ヘッドランプ上向き表示灯

エンジンスイッチに関係なく、ヘッドランプを上向きの状態にすると点灯します。

フォグランプ表示灯

オプション / グレード別装備

エンジンスイッチに関係なく、フォグランプを点灯させると点灯します。

（フォグランプスイッチ→ 98 ページ）

水温表示灯（青色）

エンジンスイッチが“ON”で、エンジン冷却水温が低いとき、青色に点灯します。

⚠ 注意

● エンジン冷却水温が低い間は、急激な空ぶかし、急加速、高速走行はしないでください。

暖機を十分続けていても青色に点灯したままの場合

● ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。

知識

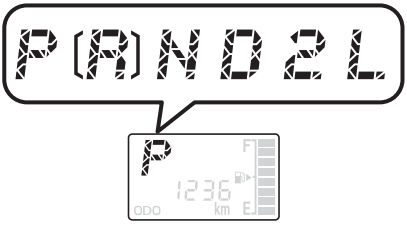
エンジン冷却水温が異常に高いときは

● 水温警告灯としてはたらき、赤色に点滅・点灯します。

（水温警告灯（赤色）→ 83 ページ）

オートマチックシフトインジケーター

オートマチック車



- エンジンスイッチが“ON”のとき、使用中のシフトレバーの位置が点灯します。
- Ⓡ レンジにすると、“[ ]”が点滅します。

O/D OFF 表示灯

オートマチック車

- エンジンスイッチが“ON”で、オーバードライブを“OFF”の状態にすると点灯します。

（オーバードライブスイッチ
→ 115 ページ）

⚠ 注意

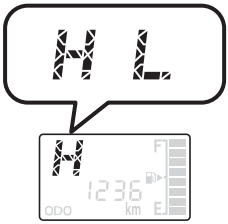
点滅した場合

- オートマチックトランスミッションシステムの異常が考えられます。
  ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。

（オートマチックトランスミッション警告灯→ 84 ページ）

エコ・楽モード切替インジケーター

エコ・楽モード切替機構装着車



- エンジンスイッチが“ON”のとき、使用中の切替レバーの位置が点灯します。

（エコ・楽モード切替機構→ 118 ページ）

4WD インジケーター

4WD 車

4WD

（4WD スイッチ→ 119 ページ）

ブレーキオーバーライドシステム表示灯

- エンジンスイッチを“ON”にすると点灯し、数秒後に消灯します。
- アクセルペダルとブレーキペダルが同時に踏まれ、ブレーキオーバーライドシステムが作動したときに点灯します。

（ブレーキオーバーライドシステム
→ 102 ページ）

知識

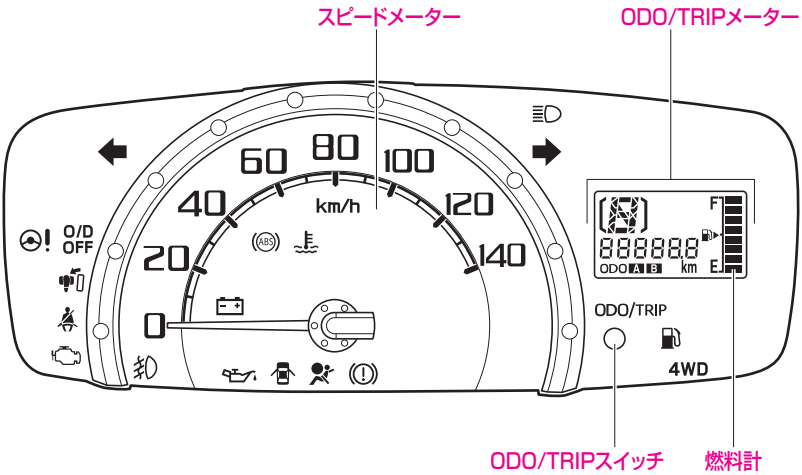
点灯した場合

- アクセルペダル、またはブレーキペダルから足を離してください。

メーターのはたらき

メーター

表示灯、警告灯の有無やメーターのデザインは、グレードやオプション装備により一部異なることがあります。



メーター照明

車幅灯に連動して点灯・消灯します。

知識

● メーター照明の照度は調整することができます。

（照度調整→ 94 ページ）

スピードメーター

走行速度をkm/hで表示します。

燃料計

エンジンスイッチが“ON”のとき、燃料残量を表示します。

● 燃料が少なくなると、燃料残量警告灯が点滅・点灯します。

（燃料残量警告灯→ 86 ページ）

⚠ 注意

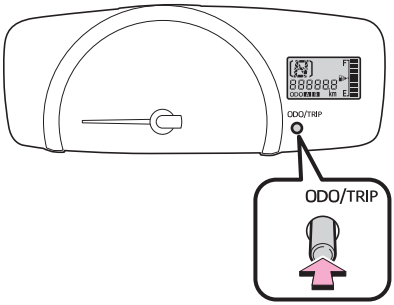
燃料残量警告灯が点灯した場合

● ただちに燃料を給油してください。

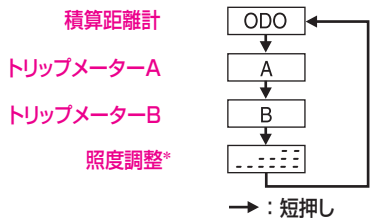
オドメーター／トリップメーター

エンジンスイッチが“ON”のとき表示します。

● ODO/TRIP スイッチを押すごとに、表示が切り替わります。



▼ ODO/TRIP スイッチによる切り替わりかた



＊：車幅灯が点灯しているときに表示されます。

オドメーター（積算距離計）

走行した総距離を表示します。

トリップメーター（区間距離計）

リセットした地点からの走行距離を表示します。

●トリップメーターは、同時に 2 つの区間の走行距離を表示することができます。

▼ トリップメーター表示をリセットするには

●リセットするトリップメーター（A または B）を表示させ、ODO/TRIP スイッチを押し続けると、表示が“0.0”になります。

照度調整

車幅灯が点灯しているときのメーター照度を調整します。

明るさ	表示	照度レベル
明るい		レベル1
↕		レベル2
		レベル3
暗い		レベル4

▼ 操作方法

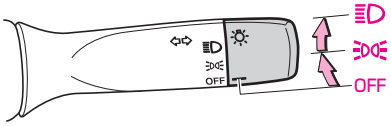
1 車幅灯が点灯しているときに、ODO/TRIP スイッチを押して、照度調整を表示する

2 スイッチを約 1 秒以上押し続けている間、メーター照明の明るさが左表のように切りかわる

スイッチの使いかた

ライトスイッチ

ライトの点灯



▼ 操作方法

● スイッチを回すと、下表のライト類が点灯します。

ライト／スイッチ位置	前照灯	車幅灯 番号灯 尾灯
OFF	ー	ー
	ー	点灯
	点灯	点灯

⚠ 注意

バッテリーあがりを防ぐために

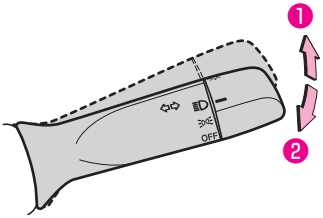
● エンジン停止中は、ライト類を長時間点灯しないでください。また、車から離れるときは、必ずライトスイッチを“OFF”にしてください。

ライトの消灯

▼ 操作方法

スイッチを“OFF”の位置にします。

ヘッドランプの切り替え



▼ ライト点灯時ハイビームに切りかえる

● ライトスイッチが“≡D”の位置のときレバーを押します。（❶）
（戻すと下向き（ロービーム）になります）

▼ 一時的に使用する

● ライトが消灯していても、レバーを手前に引いている間（❷）、前照灯が上向きに点灯します。
（レバーを離すと下向き（ロービーム）または消灯します）

⚠ 警告

● 対向車のあるときや市街地走行のときは、対向車や通行人の迷惑となり危険ですので前照灯を下向きにして走行してください。

知識

● 前照灯が上向きのときは使用できません。

ライト自動消灯機能

車両のバッテリーあがりを防止するため、ライト類を点灯したまま、エンジンスイッチを“LOCK”または“ACC”にして、運転席のドアを開けると、ライト類が自動で消灯します。

再びライトを点灯させる場合は、以下の操作をします。

● エンジンスイッチを“ON”にする
または
● ライトスイッチを“OFF”に戻し、再度“≡DC≡”、“≡D”の位置にする（ただし、節電機能が働き、約 10 分後に自動で消灯します）

節電機能

車両のバッテリーあがりを防止するため、エンジンスイッチが“LOCK”または“ACC”の状態でライト類が点灯している場合、節電機能が働き約 10 分後に自動消灯します。

自動消灯した後、次のいずれかの操作をおこなうと、節電状態は解除され、ライト類が点灯します。

● エンジンスイッチを“ON”にする
または
● ライトスイッチを操作する、またはいずれかのドアを開閉する（ただし、約 10 分後に再び自動で消灯します）

ライト消し忘れ警告ブザー

エンジンスイッチが“LOCK”または“ACC”の状態で、ライトを点灯して、運転席のドアを開けると、ブザー（連続音）が鳴りライトの消し忘れを知らせます。

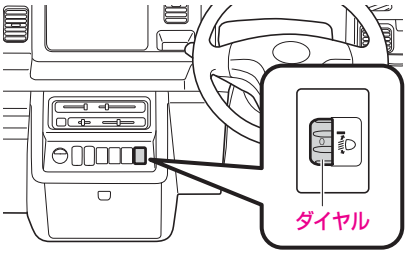
知識

- 運転席ドアを開けたときに、ランプ類が自動消灯機能により消灯した場合、警告ブザーは鳴りません。

ヘッドランプマニュアルレベリングスイッチ

ヘッドランプが点灯しているときに使用できます。

- ヘッドランプの光軸（光の照らす方向）が上に向いた場合、ダイヤルを回すことで光軸を下向きに調整することができます。
- 通常はダイヤルを“0”（光軸が一番上向きの位置）で使用します。



▼ 調整方法

ダイヤルを回すと、ヘッドランプの光軸が上下に変わります。

- ダイヤルの数字が大きいほど下向きになります。
- 乗員数や積載量に応じて、下表を目安にダイヤルを調整してください。

乗車や荷台（荷室）の積載状況	ダイヤル位置
運転席のみ乗車時	0
運転席のみ乗車で荷台（荷室）満載時	2.5

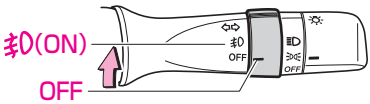
知識

- 乗員や荷物を降ろしたあとは、ダイヤルを“0”に戻してください。
- 車検などで光軸の調整をするときは、ダイヤルを“0”にしてから行ってください。

フォグランプスイッチ

オプション / グレード別装備

夜間の雨、霧のような天候のときにご利用ください。



▼ 点灯のしかた

● 車幅灯が点灯しているとき、スイッチを“ON”にします。
（メーター内の表示灯が点灯します）

▼ 消灯のしかた

● スイッチを“OFF”にします。
（メーター内の表示灯が消灯します）

ワイパー・ウォッシャースイッチ

⚠ 警告

● 寒冷時は、ガラスが暖まるまで、ウォッシャー液を吹き付けないでください。吹き付けられた液が凍結し、視界をさまたげることがありますので、先にガラス面を暖めてください。

⚠ 注意

● 乾ぶきはガラス面に傷を付けますので、ウォッシャー液を噴射させてからワイパーを作動させてください。

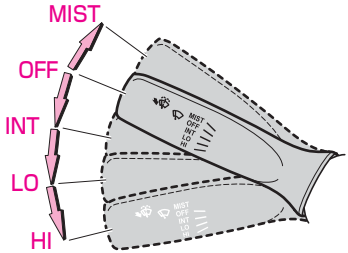
● 寒冷時、または長時間ワイパーを使用しなかったときは、ワイパーゴムがガラスに張り付いていないことを確認してください。張り付いたまま作動させるとワイパーモーターが損傷し、故障の原因になります。

● 積雪などの障害物によりワイパーが途中で止まってしまうときは、障害物を取り除いてからワイパーを作動させてください。無理に作動させるとワイパーモーターに負担がかかり故障の原因となります。

● ウォッシャー液を連続して 20 秒以上噴射させないでください。またウォッシャー液が出ないときはウォッシャースイッチを作動させないでください。モーターに負担がかかり故障の原因となります。

ワイパーの使いかた

エンジンスイッチが“ON”のとき使用できます。



レバーを上下に操作すると、ワイパーが作動します。

- MIST：一時作動
- OFF：停止
- INT：間欠作動
- LO：低速作動
- HI：高速作動

▼ MIST（一時作動）の使いかた

レバーを“OFF”から押し上げている間、ワイパーが低速作動します。
手を離すと“OFF”に戻ります。

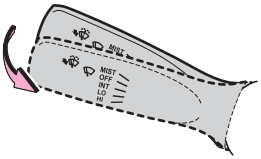
▼ 車速感応式ワイパー

レバーを“INT”の位置（間欠作動）にしたとき、車速に応じてワイパーが作動します。

知識

- 間欠作動中は、車速が速くなると車速に応じて間隔が短くなります。
- 車速感応作動の機能を停止することができます。詳しくはトヨタ販売店にご相談ください。

ウォッシャー液の噴射



レバーを手前に引くとウォッシャー液が噴射します。

知識

- ウォッシャーを作動させると連動してワイパーが低速作動します。

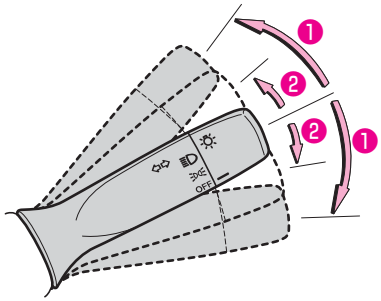
ホーンスイッチ

ハンドルの マーク周辺部を押すとホーンが鳴ります。

知識

- 緊急時、非常時以外は、むやみに使用しないでください。

方向指示スイッチ



▼ 操作方法

レバーを（❶）の位置まで上下に操作すると、方向指示灯およびメーター内の方向指示表示灯が点滅します。

● レバーはハンドルを戻すと自動的に戻ります。

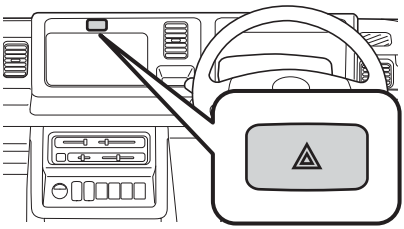
車線変更などのときには、レバーを（❷）の位置まで軽く上下に押すと点滅し、手を離すと消灯します。

知識

● ハンドルの切れ角が小さいと、レバーが自動的に戻らないときがあります。手で戻してください。

● 点滅が異常に速くなったときは、方向指示灯の電球切れが考えられます。すべての方向指示灯が点滅するか確認してください。

非常点滅灯スイッチ



▼ 操作方法

スイッチを押すと左右の方向指示灯が点滅します。もう一度押すと元に戻ります。

⚠ 注意

● 故障などの非常時に、やむを得ず路上駐車するとき以外はむやみに使用しないでください。

● 使用後はスイッチを確実に戻してください。スイッチを戻さないと方向指示灯がはたらきません。

バッテリーあがりを防ぐために

● エンジンを止めた状態で長時間使用しないでください。

車を運転するにあたって

運転するときは

運転をする前に …… 102

運転のしかた …… 104

運転するときの注意事項 … 107

運転装置の使いかた

エンジンスイッチ …… 110

駐車ブレーキ …… 112

シフトレバー
（オートマチック車） …… 113

シフトレバー
（マニュアル車） …… 117

エコ・楽モード切替機構 … 118

パートタイム４WD …… 119

スーパーデフロック …… 122

ABS

ABS（EBD 機能付）…… 123

運転するときは

運転をする前に

知っておいていただきたい、操作上の注意や特性があります。よく理解し、正しい取り扱いをしてください。

クラッチスタートシステム

マニュアル車

マニュアル車は、エンジン始動時の誤操作を防ぐために、クラッチペダルをいっぱいまで踏み込まないと、エンジンがかからないようになっています。

オートマチック車の特性

クリープ現象

オートマチック車は、エンジンがかかっているとき、シフトレバーが P、N レンジ以外の位置で動力がつながった状態になり、アクセルペダルを踏まなくてもゆっくりと動き出す現象のことをいいます。

⚠ 警告

- エンジン始動直後やエアコン作動時など、自動的にエンジンの回転が上がり（アイドルアップ）、クリープ現象が強くなります。その際、ブレーキペダルの踏みごたえに変化がでることがありますので、ブレーキペダルはしっかりと踏んでください。
- 停車中は、平坦路であっても車が動かないように、ブレーキペダルをしっかりと踏み、必要に応じて駐車ブレーキをかけてください。

キックダウン

走行中にアクセルペダルを踏み込むと、自動的に低速ギヤに切り替わり、エンジンの回転数が上昇して急加速させることができます。これをキックダウンといいます。

知識

- 追い越し時の急加速や高速道路での合流が楽に行えます。
- 上り坂でスピードを保つために、アクセルペダルを踏み込んでいくと、意に反してキックダウンし、急にエンジン回転数が高くなることがあります。
  このようなときは、あらかじめ 2 レンジにしておくと、エンジン回転数の変化が少なく、なめらかな走行ができます。

ブレーキオーバーライドシステム

アクセルペダルとブレーキペダルが同時に踏まれたとき、駆動力を抑制する場合があります。

- ブレーキオーバーライドシステム作動中は、メーターに表示灯が点灯します。

（ブレーキオーバーライドシステム表示灯 → 91 ページ）

4WD 車

オプション / グレード別装備

4WD 車には特有の操作上の注意があります。119 ページのパートタイム 4WD も合わせてお読みください。

⚠ 警告

- 4WD 車はどのような所でも走れる万能車ではありません。アクセル、ハンドル、ブレーキの操作は一般の車と同じく慎重に行い、常に安全運転に心がけてください。また、オフロード走行や、ラリー走行を目的とした車ではありません。タイヤがはまり込むような深い砂地、海水、水たまりなどに乗り入れないでください。やむを得ず走行したときは、走行後各部を念入りに洗ってください。
- 渡河などの水中走行はしないでください。渡河などの水中走行をすると、エンストするだけでなく、電装品のショート、エンジンの破損などの重大な車両故障につながるおそれがあります。万一、水中に浸かってしまったときは、必ずトヨタ販売店で点検を受けてください。
- 4WD 車は雪道や水たまりなどの滑りやすい路面ですぐれた走行性能を発揮しますが、極端な急ブレーキ、急ハンドルはさけて、十分に余裕を持って走行してください。

万一脱輪したときは

- いずれかのタイヤが宙に浮いているときは、むやみに空転させないでください。駆動系部品の損傷や車両の飛び出しによる思わぬ事故につながるおそれがあります。

急なカーブを曲がるとき

4WD で走行中に旋回をすると、ブレーキをかけたような状態になることがあります。この現象をタイトコーナーブレーキング現象といいます。この現象は、旋回するとき前後輪に回転差が生じるために発生する 4WD 車特有の現象で、異常ではありません。
このとき、ハンドル操作が重くなります。

⚠ 警告

- 4WD での急旋回は、タイトコーナーブレーキング現象により、思わぬ事故につながるおそれがありますので避けてください。

知識

- タイトコーナーブレーキング現象は、2WD に切り替えることで解消することができます。

4WD 車のタイヤについて

4WD 車は 4 つのタイヤに駆動力がかかるため、タイヤの状態が車の性能に大きく影響します。
タイヤの状態には細心の注意をしてタイヤの点検は忘れずに行ってください。

（タイヤの点検→ 180 ページ）
（タイヤの交換→ 221 ページ）
（タイヤチェーンの装着→ 204 ページ）

運転のしかた

安全運転を心がけ、次の手順で走行してください。

● 運転手順のそれぞれに、注意していただきたいことがあります。
「運転するときの注意事項」も、必ずお読みください。

（運転するときの注意事項→ 107 ページ）

● 各運転装置の使いかたは以下を参照ください。

（エンジンスイッチ→ 110 ページ）
（シフトレバー（オートマチック車）→ 113 ページ）
（シフトレバー（マニュアル車）→ 117 ページ）
（駐車ブレーキ→ 112 ページ）

エンジンをかける

▼ 準備

● 正しい運転姿勢がとれるようにシートの位置を調整し、ペダルの各位置を確認します。

（正しい運転姿勢→ 34 ページ）
（車体各部の調整→ 76 ページ）

▼ 操作手順

オートマチック車

1 シフトレバーが Ⓟ の位置にあることを確認する
2 ブレーキペダルをしっかり踏む
3 エンジンスイッチを“START”まで回す

マニュアル車

1 シフトレバーが Ⓝ の位置にあることを確認する
2 クラッチペダルとブレーキペダルをしっかり踏む
3 エンジンスイッチを“START”まで回す

イージースタートサポート

イージースタートサポートはエンジン始動操作を補助するシステムです。

エンジンが始動するまでの間、自動的にスターターを回す時間を延長します。エンジンスイッチを“START”の位置で保持する必要はありません。

● イージースタートサポート作動中にエンジン始動を中止したいときは、エンジンスイッチを“ACC”または“LOCK”にしてください。

● バッテリーあがりを防ぐため、イージースタートサポート作動中に始動操作が中断されることがあります。

発進する

オートマチック車

1 ブレーキペダルを右足で踏んだままシフトレバーを D レンジに入れる

- 状況に応じて 2 または L レンジに、後退のときは R レンジに入れます。

2 駐車ブレーキを解除する

3 ブレーキペダルから徐々に足を離し、アクセルペダルをゆっくりと踏み、発進する

マニュアル車

1 クラッチペダルを踏んだまま、シフトレバーを 1 速にする

2 駐車ブレーキを解除する

3 クラッチペダルから徐々に足を離し、同時にアクセルペダルをゆっくりと踏み、発進する

坂道発進するときは

オートマチック車

1 駐車ブレーキをしっかりかけ、シフトレバーを D レンジに入れる

2 右足でアクセルペダルをゆっくり踏む

3 車が動き出す感触を確認してから、駐車ブレーキを解除し、発進する

マニュアル車

1 駐車ブレーキをしっかりかけ、シフトレバーを 1 速に入れる

2 アクセルペダルを軽く踏み、同時にクラッチペダルから徐々に足を離す

3 車が動き出す感触を確認してから、駐車ブレーキを解除し、発進する

走行するときは

オートマチック車

▼ 通常走行するときは

- D レンジで走行します。

▼ 急加速が必要なときは

- アクセルペダルを踏み込みます。
  - 自動的に変速比が切りかわり、力強い加速が得られます。（キックダウン）

▼ 強いエンジンブレーキを必要とするときは

- 長い下り坂や急な下り坂など、路面状態やスピードに応じて 2 または L レンジに切り替えます。

マニュアル車

車速に応じて、シフト位置を変更します。

- クラッチペダルをしっかり踏んで、シフトレバーをゆっくり動かします。

停車する

オートマチック車

1 シフトレバーは走行位置のままで、ブレーキペダルをしっかり踏む

2 ブレーキペダルを踏んだまま、必要に応じて駐車ブレーキをかける

- 長時間停車する場合は、シフトレバーを Ⓟ または Ⓝ レンジに入れます。

マニュアル車

1 クラッチペダルを踏んだまま、ブレーキペダルをしっかり踏む

2 ブレーキペダルを踏んだまま、必要に応じて駐車ブレーキをかける

- 長時間停車する場合は、シフトレバーを Ⓝ に入れます。

後退する

オートマチック車

車が完全に止まってからも、ブレーキペダルをしっかり踏み続け、シフトレバーを Ⓡ レンジに入れます。

マニュアル車

車が完全に止まってからも、クラッチペダルを踏んだまま、ブレーキペダルを踏み、シフトレバーを Ⓡ に入れます。

リバース警告ブザー

オートマチック車

シフトレバーを Ⓡ レンジに入れると車内で警告ブザーが鳴り、運転者にシフトレバーが Ⓡ レンジにあることを知らせます。（警告ブザーは車外には聞こえません）

駐車する

オートマチック車

1 シフトレバーを Ⓓ レンジのまま、ブレーキペダルを踏む

2 車が完全に止まってから、駐車ブレーキをかける

3 シフトレバーを Ⓟ レンジにする

4 エンジンスイッチを“LOCK”まで回してキーを抜く

5 キーを携帯していることを確認し、ドアを施錠する

▼ 坂道で駐車するときは

- 必要に応じて、輪止め * を使用してください。

マニュアル車

1 クラッチペダルを踏んだまま、ブレーキペダルを踏む

2 車が完全に止まってから、駐車ブレーキをかける

3 シフトレバーを Ⓝ にする

4 エンジンスイッチを“LOCK”まで回してキーを抜く

5 キーを携帯していることを確認し、ドアを施錠する

▼ 坂道で駐車するときは

- 必要に応じて、シフトレバーを 1 速（上り坂）または Ⓡ（下り坂）にし、輪止め * を使用してください。

* 輪止めはトヨタ販売店で購入できます。

運転するときの注意事項

⚠ 警告

エンジンをかけるときは（オートマチック車では）

- 必ず運転席に座ってエンジンをかけてください。窓越しからエンジンをかけると車が急に動き出すおそれがあり危険です。

発進するときは

- 踏み誤りを防ぐため、ブレーキペダルは右足で踏む習慣を身に付けてください。左足でのブレーキ操作は思わぬ事故につながるおそれがあります。
- 始動直後およびエアコン使用時は、自動的にエンジン回転が高くなり（アイドルアップ）、動こうとする力が強くなります。発進時にシフトレバー操作をするときはしっかりとブレーキペダルを踏んでください。

発進するときは（オートマチック車では）

- Ⓟ レンジから Ⓓ レンジの間でシフトレバーを動かすときは、突然車が動き出し思わぬ事故につながるおそれがあり危険ですので、必ずブレーキペダルを踏みながら、シフトレバーを動かしてください。
- アクセルペダルを踏んだままシフトレバーの操作をしないでください。急発進して思わぬ事故の原因になります。
- マニュアル車は発進のスピードを半クラッチ操作とアクセル操作を併用して調整しますが、オートマチック車ではアクセル操作のみで行いますので、アクセル操作は特に慎重に行ってください。
- 切り返しなどで Ⓓ から Ⓡ、Ⓡ から Ⓓ レンジと何度もシフトレバー操作をするときは、そのつどブレーキペダルをしっかり踏み、完全に車を止めてから行ってください。
  完全に止まらない状態でシフトの切り替えを行うとトランスミッションに負担がかかり故障の原因となります。また必ずシフト位置も確認してください。
- 急発進を防ぐために Ⓟ から Ⓡ、Ⓝ から Ⓓ、Ⓝ から Ⓡ レンジにシフトレバー操作をするときもブレーキペダルをしっかり踏んでから行ってください。

走行中は

- エンジンスイッチにさわらないでください。誤って操作し、エンジンが停止すると、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
- ブレーキペダルやクラッチペダルに足をのせたまま走行しないでください。ブレーキやクラッチ部品が早く摩耗したり、ブレーキが過熱し、ブレーキの効きが悪くなり、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
- 滑りやすい路面やカーブでは、急激なアクセルペダルの操作はやめてください。急加速をするため、スリップしたり、カーブを曲がりきれず思わぬ事故につながるおそれがあります。

⚠ 警告

走行中は（オートマチック車では）

- 坂道などでは、シフトレバーを D、2、L レンジに入れたまま惰性で後退したり、R レンジに入れたまま惰性で前進することは絶対にやめてください。
  エンストを起こし、ブレーキの効きが悪くなったり、ハンドルが重くなるなど、思わぬ事故や故障の原因となるおそれがあります。
- 長い下り坂や急な下り坂を D レンジのまま走行するとスピードが出すぎてしまうことがあります。このようなときに、フットブレーキを使いすぎるとブレーキの効きが悪くなるおそれがあります。2 または L レンジにしてエンジンブレーキを併用してください。
- 車が完全に止まらないうちに P レンジに入れないでください。また、前進走行中に R レンジ、および後退中は D、2、L レンジに入れないでください。トランスミッションに重大な損害をあたえると共に、車がコントロールを失い思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

走行中は（マニュアル車では）

- 前進走行中は R に入れないでください。また、後退中は 1 速に入れないでください。トランスミッションに重大な損害をあたえると共に、車がコントロールを失い思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
- クラッチペダルを一気に離す操作はしないでください。車両が飛び出して、思わぬ事故につながるおそれがあります。

停車するときは

- 平坦路であっても、停車が長びくときは、必ず駐車ブレーキをかけてください。

停車するときは（オートマチック車では）

- 上り坂での停車は、クリープ現象で前へ進もうとする力よりも車が後退しようとする力の方が大きくなり、車が後退することがあります。ブレーキペダルを踏み、駐車ブレーキをかけてください。
- エアコン作動中は自動的にエンジン回転が高くなり、急にクリープ現象が強くなりますので、特にしっかりとブレーキペダルを踏んでください。

後退するときは

- 後退するときは体をひねった姿勢となるため、ペダルの操作がしにくくなります。ブレーキ操作が確実にできるように注意してください。
- 少し後退したあとなどは R レンジに入れたことを忘れてしまうことがあります。後退したあとはすぐ N レンジに戻すよう習慣付けましょう。

駐車するときは

- エンジンをかけたままで車から離れないでください。

⚠ 注意

エンジンをかけるときは

- エンジン冷却水温が低い間は、急激な空ぶかし、急加速、高速走行はしないでください。
- エンジン始動後は、すぐにキーから手を離してください。“START”にしたままでいると、エンジンを損傷するおそれがあります。

発進するときは

- 坂道発進時など、アクセルペダルとブレーキペダルを同時に踏んで発進しないでください。故障の原因となります。

発進するときは（オートマチック車では）

- シフトレバーがどの位置にあるかをシフトレバー部またはメーター内のインジケーターで確認してください。
- シフトレバーが P、N レンジ以外の位置にあると、アクセルペダルを踏まなくても動こうとする特性を持っています。（クリープ現象）

走行中は

- 走行中にアクセルペダルとブレーキペダルを同時に踏まないでください。同時に踏むと、駆動力を抑制する場合があります。

（ブレーキオーバーライドシステム→ 102 ページ）

駐車するときは

- 必ず駐車ブレーキをかけてください。
- 車から離れるときはエンジンスイッチを“LOCK”にしてキーを抜いてください。
  バッテリーあがりの原因となります。

駐車するときは（オートマチック車では）

- P レンジでは車輪が固定されます。駐車するときは必ず P レンジにあることを確認してください。

知識

エンジンをかけるときは

- エンジンの始動性を良くするためにライト、ヒーターファンなどのスイッチは“OFF”にしてください。
- エンジン始動後は、各警告灯が消灯するのを確認してください。（ただしブレーキ警告灯は除きます）
- エンジン始動後は、自動制御装置のはたらきによりエンジン回転が高くなりますが、暖機完了後、自動的にアイドリング回転に下がります。

走行中は（オートマチック車では）

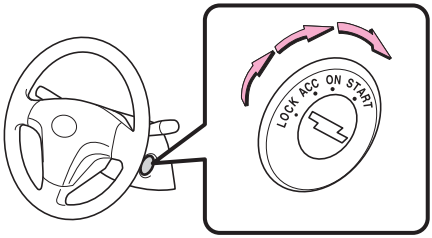
- 渋滞や狭い場所での移動は、クリープ現象を利用し、アクセルペダルを踏まずに、ブレーキ操作のみで速度を調整するとスムーズに行えます。

燃費向上のために

- 発進、加速はスムーズに行ってください。

運転装置の使いかた

エンジンスイッチ



位置	はたらき
LOCK	・ハンドルロックがかかる位置 ・キーを抜き挿しする位置 （オートマチック車はシフトレバーがⓅのとき、キーを抜き挿しできます）
ACC	アクセサリーソケットなどの電装品が使用できる位置
ON	すべての電装品が使用できる位置
START	エンジンを始動するときの位置

エンジンのかけ方

▼ 準備

● 正しい運転姿勢がとれるようにシートの位置を調整し、ペダルの各位置を確認します。

（正しい運転姿勢→ 34 ページ）
（車体各部の調整→ 76 ページ）

▼ 操作手順

オートマチック車

1 シフトレバーが Ⓟ の位置にあることを確認する
2 ブレーキペダルをしっかり踏む
3 エンジンスイッチを“START”まで回す

マニュアル車

1 シフトレバーが Ⓝ の位置にあることを確認する
2 クラッチペダルとブレーキペダルをしっかり踏む
3 エンジンスイッチを“START”まで回す

エンジンの停止方法

オートマチック車

1 車両を完全に停止させる
2 駐車ブレーキをかける
3 シフトレバーを Ⓟ にする
4 エンジンスイッチを“LOCK”まで回す
5 キーを抜く

マニュアル車

1 車両を完全に停止させる
2 駐車ブレーキをかける
3 シフトレバーを Ⓝ にする
4 エンジンスイッチを“LOCK”まで回す
5 キーを抜く

キーインターロック

オートマチック車

誤操作防止のため、シフトレバーが Ⓟ レンジ以外のときに、エンジンスイッチが“LOCK”まで回らないようにする装置です。

⚠ 注意

- シフトレバーが Ⓟ レンジ以外では、エンジンスイッチを“LOCK”まで回すことができないため、キーを抜くことができません。

ハンドルロック

エンジンスイッチからキーを抜いて、ハンドルを左右どちらかに動かすとステアリングロックによりハンドルがロックされます。

▼ ハンドルロック解除のしかた

ステアリングロックによりキーが“LOCK”から“ACC”に軽く回らないときは、ハンドルを左右に動かしながらキーを回してください。

キー抜き忘れ警告ブザー

エンジンスイッチにキーが差し込まれているとき“LOCK”または“ACC”の位置で運転席のドアを開けるとブザー（断続音）が鳴り、キーの抜き忘れを警告します。

エンジンスイッチの取扱い

⚠ 注意

バッテリーあがりを防ぐために

- エンジンを止めた状態で、エンジンスイッチを“ON”または“ACC”にしたまま長時間放置しないでください。
- オートマチック車は、シフトレバーが Ⓟ レンジ以外のとき、エンジンを停止させないでください。シフトレバーが Ⓟ レンジ以外でエンジンを停止した場合、エンジンスイッチを“LOCK”にできないため、そのまま放置すると、車両のバッテリーがあがる原因となります。

📖 知識

エンジンスイッチの操作について

- キーは確実にエンジンスイッチに差し込んで操作してください。

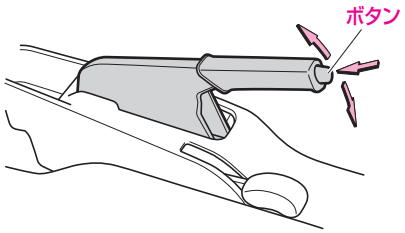
駐車ブレーキ

▼ かけるとき

ボタンを押さずにレバーをいっぱいまで引き上げる

● エンジンスイッチが“ON”の位置のときは、ブレーキ警告灯が点灯します。

▼ 解除するとき



レバーを軽く引き上げながらボタンを押し、レバーを確実に戻す

● エンジンスイッチが“ON”の位置のときは、ブレーキ警告灯が消灯します。

⚠ 警告

● 走行するときは、駐車ブレーキを完全に解除してください。また、ブレーキ警告灯が消灯していることを必ず確認してください。
駐車ブレーキをかけたまま走行すると、ブレーキが熱を持ち、ブレーキの効きが悪くなったり、思わぬ事故につながるおそれがあります。

知識

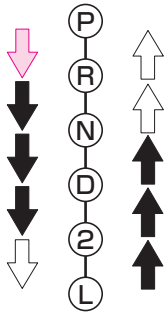
● 駐車ブレーキが完全に解除されていない状態（警告灯が点灯している状態）で、約 5km/h 以上で走行すると、警告ブザーが鳴ります。

（ブレーキ警告灯→ 82 ページ）

シフトレバー（オートマチック車）

シフトレバーの使いかた

オートマチック車



シフトレバーの操作は確実に行ってください。

⇩	ブレーキペダルを踏みながらシフトレバーボタンを押して動かします
⇧ ⇩	シフトレバーボタンを押して動かします
↑ ↓	シフトレバーボタンを押さずにそのまま動かします

⚠ 警告

- ➡ の操作は誤作動を防ぐため、シフトレバーボタンを押さずに動かしてください。常にシフトレバーボタンを押して操作していると、P、R、L レンジに思いがけず入ることがあり、その場合、思わぬ事故の原因となり、生命にかかわる重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。
- P から D レンジの間でシフトレバーを動かすときは、突然車が動き出し思わぬ事故につながるおそれがありますので、必ずブレーキペダルを踏みながら動かしてください。
- 走行中に N レンジに入れないでください。エンジンブレーキが全く効かず、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
- 車が完全に止まらないうちに P レンジに入れないでください。また、前進走行中にRレンジ、および後退走行中に D、2、L レンジに入れないでください。トランスミッションに重大な損害をあたえると共に、車がコントロールを失い思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

知識

- 走行開始直後でトランスミッションオイルの温度が低いとき、3 速、4 速へ自動変速しないことがあります。トランスミッションオイルの温度が上がれば自動変速するようになります。

各位置のはたらき

シフトポジション	メーター表示	目的
P(パーキング)	P	駐車またはエンジン始動
R(リバース)	R	後退
N(ニュートラル)	N	動力が伝わらない状態
D(ドライブ)	D	通常走行 (速度に応じて1速から4速*で自動的に変速されます)
2(セカンド)	2	下り坂走行、坂道や山間地などの走行 (エンジンブレーキが必要なとき)
L(ロー)	L	急な下り坂走行(強いエンジンブレーキが必要なとき)

＊ オーバードライブがOFFのときは3速

オーバードライブスイッチ

スイッチを押すごとに、“OFF”と“ON”が切り替わります。

● “OFF”のときに O/D OFF 表示灯が点灯します。

▼ オーバードライブが“OFF”のとき（表示灯が点灯）

● 坂道走行で次のような場合に適しています。

- 下り坂で軽いエンジンブレーキをかけたいとき
- 上り坂で 4 速と 3 速の変速回数が少ない、なめらかな走行をしたいとき

▼ オーバードライブが“ON”のとき（表示灯が消灯）

● 通常走行に適しています。

- エンジン始動時にはオーバードライブが“ON”の状態になっています。

各位置のはたらき

オーバードライブ	メーター内表示	はたらき
OFF	O/D OFF	1速から3速まで自動変速します
ON	（消灯）	1速から4速（オーバードライブ）まで自動変速します

知識

● シフト位置が D のときに使えます。

● エンジンを再始動するとオーバードライブが“ON”の状態になっています。

● トランスミッションの油温が低いときは、オーバードライブ（4 速）に変速しないことがあります。

● オーバードライブ（4 速）は静粛性、燃費性能が良くなります。

シフトロック機構

誤操作防止のため、シフトロック機構が付いています。

▼ シフトロック解除方法

エンジンスイッチを“ON”または“ACC”にし、ブレーキペダルを踏むと、シフトレバーの操作ができます。

- 必ずブレーキペダルをしっかり踏み込み、シフトレバーを操作します。

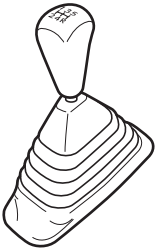
知識

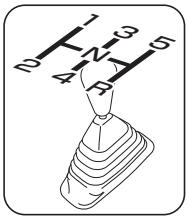
- エンジンスイッチが“LOCK”のときは、ブレーキペダルを踏んでもシフトレバーをⓅレンジからほかのレンジへは動かせません。
- 先にシフトレバーボタンを押した状態で、ブレーキペダルを踏むと、シフトロックが解除されない場合があります。
- 万一、エンジンスイッチを“ON”または“ACC”にして、ブレーキペダルを踏んでもシフトレバーをⓅから他の位置へ動かせない場合は、シフトロックシステムなどの故障が考えられます。ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。

シフトレバー（マニュアル車）

シフトレバーの使いかた

マニュアル車





シフト位置を変更するときは、クラッチペダルをいっぱいに踏み込んで確実に操作します。

⚠ 注意

- Ⓡ（後退）には、車が完全に停止してからシフト位置を変更してください。トランスミッションに負担がかかり、故障の原因となります。

知識

- 5 速から Ⓡ（後退）には、直接シフト位置を変更できません。一度ニュートラルにしてから、Ⓡ（後退）にシフト位置を変更してください。

シフトダウンの上限速度

エンジンの過回転を防ぐため、次の表に示す上限速度以下でシフトダウンしてください。

(km/h)

シフトダウン	右記装着車以外	Hi-Loモード切替レバー		エコ・楽モード切替レバー	
		Ⓗ	Ⓛ	Ⓗ	Ⓛ
2速→1速	25		15	30	25
3速→2速	40		(25)*	50	40
4速→3速	65		–	85	70
5速→4速	105		–	105	105

＊ Hi-Lo モード切替機構装着車の“Lo モード（Ⓛ）”は 2 速以下の低速走行で使用してください。

（Hi-Lo モード切替レバー→ 121 ページ）

⚠ 注意

- エンジンの回転があがりすぎないように、上限速度を守って走行してください。エンジンが損傷するおそれがあります。

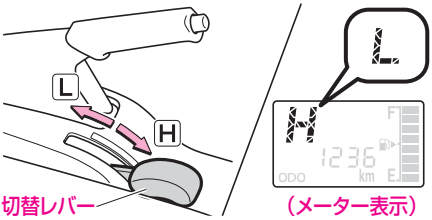
エコ・楽モード＊切替機構

エコ・楽モード切替機構装着車

エコ・楽モード切替レバー

切替レバーを引くと、積載量が多いときの走行に適した“Lo モード（Ⓛ）”に切り替えることができます。

- 通常走行時は“Hi モード（Ⓗ）”で使用します。
- メーター内に切替レバーの位置が表示されます。



レバーの操作方法

停車中にのみ操作します。

- クラッチペダルを踏みながら、切替レバーを操作します。

各位置のはたらき

モード	レバー	メーター表示	はたらき
Hi	H	H	軽積載時に一般道路、高速道路などを通常走行するときの位置 通常はこの位置で走行
—	N	—	ニュートラル（中立）位置 （この位置では走行できません。）
Lo	L	L	積載量が多いときや、強い駆動力が必要なときの位置

⚠ 警告

- 車が完全に止まらないうちは切替レバーを操作しないでください。
  駆動装置が損傷したり、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
- 駐車するときは、切替レバーをⓃにしないでください。駐車ブレーキをかけていない状態で、シフトレバーをⓇ（後退）または1速に入れても車輪の固定ができず、車が動き出すおそれがあり危険です。

⚠ 注意

- クラッチペダルを踏まずに切替レバーを操作すると、駆動装置が損傷するおそれがあります。

＊「エコ・楽モード」はダイハツ工業株式会社の登録商標です。

パートタイム4WD

4WD 車

パートタイム 4WD とは、4WD スイッチの操作により走行状況に合わせて、2WD（2 輪駆動）と4WD（4 輪駆動）を切り替えることができる 4WD システムです。

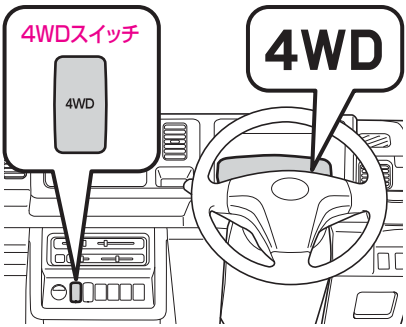
⚠ 警告

- 乾燥した舗装路および高速道路では必ず2WD で走行してください。4WD で走行すると駆動系に無理な力がかかり駆動装置が損傷して、思わぬ事故につながるおそれがあります。また、タイヤの早期摩耗や燃料消費量の悪化につながることがあります。
- 車輪がスリップしているときは、4WD スイッチを操作しないでください。駆動系に無理な力がかかり駆動装置が損傷して、思わぬ事故につながるおそれがあります。

4WD スイッチ

スイッチを押すと、駆動状態を切り替えることができます。

- 駆動状態が4WD に切り替わると、メーター内の4WD 表示灯が点灯します。



▼ スイッチの操作方法

スイッチを押すごとに2WD と4WD が切り替わります。

- ハンドルが直進状態のときに操作します。
- 停車中または走行中（80km /h 以下）でアクセルペダルを戻します。

各位置のはたらき

駆動状態	メーター内表示	はたらき
2WD	（消灯）	一般道路、高速道路などを通常走行するときの位置 通常はこの位置で走行
4WD	**4WD**	砂地や不整地、急坂路、雪道等の滑りやすい路面を走行するときの位置

知識

4WD スイッチを操作するときは

- スイッチは連続操作しないでください。
- 操作するときは、アクセルペダルを戻してください。（切り替わりにくい場合は、その状態でアクセルペダルを軽く踏み込んでください）
- 暖機不足の状態で、4WD に切り替わりにくいときは、停車してスイッチを操作してください。
- 4WD に切り替えたとき、車両の状態（タイヤ空気圧、積載量、車速など）により、切り替えの作動音がすることがあります。

Hi-Lo モード切替機構装着車

- 4WD スイッチは切替レバーが H のときに操作してください。
- 切替レバーが L のときは 4WD スイッチで 2WD に切り替えることはできません。

（Hi-Lo モード切替レバー→ 121 ページ）

表示灯

4WD

- エンジンスイッチが“ON”で、駆動状態を 4WD に切り替えると点灯します。

知識

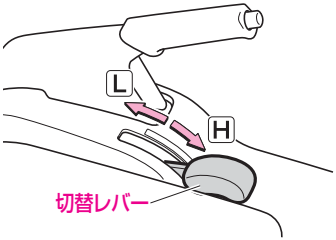
- 停車中に 4WD スイッチを押したときは、4WD 表示灯が消灯していても、走行中に点灯すれば正常です。

Hi-Lo モード切替レバー

Hi-Lo モード切替機構装着車

切替レバーを引くと、より強い駆動力が出せる“Lo モード(Ⓛ)”に切り替えることができます。

- “Lo モード（Ⓛ)”は低速走行時に使用します。
- 通常走行時は“Hi モード（Ⓗ)”で使用します。



レバーの操作方法

停車中にのみ操作します。

▼ Ⓗ から Ⓛ に切り替えるとき

1 4WD スイッチを押して 4WD に切り替える
（4WD スイッチ→ 119 ページ）

2 クラッチペダルを踏みながら、切替レバーを引く

▼ Ⓛ から Ⓗ に切り替えるとき

クラッチペダルを踏みながら、切替レバーを戻す

各位置のはたらき

モード	レバー	駆動状態	はたらき
Hi	H	2WD	一般道路、高速道路などを通常走行するときの位置 通常はこの位置で走行
		4WD	砂地や不整地、急坂路、雪道等の滑りやすい路面を走行するときの位置
—	N	—	ニュートラル(中立)位置 (この位置では走行できません。)
Lo	L	4WD	砂地や不整地、急坂路、雪道などで特に強い駆動力が必要なときの位置

⚠ 警告

- 車が完全に止まらないうちは切替レバーを操作しないでください。
  駆動装置が損傷したり、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
- 駐車するときは、切替レバーを Ⓝ にしないでください。駐車ブレーキをかけていない状態で、シフトレバーをⓇ（後退）または1速に入れても車輪の固定ができず、車が動き出すおそれがあり危険です。

⚠ 注意

- クラッチペダルを踏まずに切替レバーを操作すると、駆動装置が損傷するおそれがあります。
- Lo モード（Ⓛ）は 3 速以上で使用すると、エンジンや駆動装置に大きな負担がかかるため、2 速以下の低速走行で使用してください。

スーパーデフロック

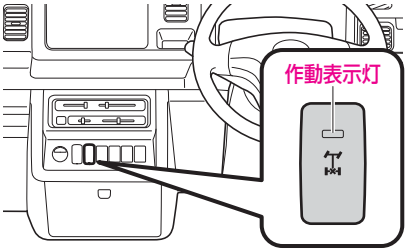
オプション / グレード別装備

積雪路、砂地、ぬかるみなどで車輪が空転して動けなくなったとき、動力を左右後輪に等しく伝達して脱出しやすくする装置です。

デフロックスイッチ

スイッチの操作方法

停車中にのみ操作します。



▼ デフロックさせるとき

1 シフトレバーを1速または[R]（後退）にする

2 スイッチを押す

- デフロック状態になると、作動表示灯が点灯します。

▼ デフロックを解除するとき

スイッチをもう 1 度押す

- 作動表示灯が消灯します。

⚠ 警告

- 車が完全に止まらないうちはデフロックスイッチを操作しないでください。
  駆動装置が損傷するおそれがあります。
- 切り替え操作は、必ず車輪が完全に停止した状態で行ってください。
  車輪が空転したままでデフロックスイッチを操作すると、車体が思わぬ方向へ飛び出すおそれがあります。

⚠ 注意

- デフロックは、ぬかるみ等の緊急脱出時のみ車速 15km /h 以下で使用してください。
- 通常走行時はデフロックスイッチを必ず OFF にしてください。
- デフロックスイッチを操作して切り替わらないときには、ハンドルを少し回し、アクセルペダルを踏むなどして車輪を少し回転させてください。

ABS

ABS*（EBD 機能付）

急制動時や滑りやすい路面における制動時には、車輪がロックして方向安定性と操舵能力が低下することがあります。ABS は、このような状況下に発生する車輪ロックを防止して操舵能力を確保しようとする装置です。

▼ EBD

Electronic Brake force Distribution（電子制動力配分制御）の略で、車両の走行状態や積載状態に応じて最適な制動力配分を行う機能です。積載時のブレーキの効きを確保することができます。

⚠ 警告

- ABS を過信しないでください。ABS が作動した状態でも車両の方向安定性や操舵性の確保には限界があります。無理な運転は思わぬ事故につながり、生命にかかわる重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。
- 下記の場合などには ABS の付いていない車両に比べ、制動距離が長くなることがあり、事故につながるおそれがあります。速度を控えて十分に車間距離を取ってください。
  - ジャリ道、新雪路を走行しているとき
  - タイヤチェーンを装着しているとき
  - 道路の継ぎ目などの段差を乗り越えるとき
  - 凹凸道などの悪路を走行しているとき
  - タイヤ空気圧が適正空気圧より高いときに荒れた路面を走行したとき

知識

- 低速（約 10km/h 以下）では、ABS は作動せず、普通のブレーキと同じ作動になります。
- エンジンスイッチを“ON”にすると、メーター内の ABS 警告灯が点灯し、数秒後に消灯します。
- 走行中に ABS 警告灯が数秒間点灯しても、その後、消灯すれば異常ではありません。ただし、点灯・消灯をくり返す場合は、トヨタ販売店で点検を受けてください。
- エンジン始動時や始動後の発進直後にエンジンルームからモーターなどの音が聞こえることがあります。これは、システムの作動をチェックしているときの音で、異常ではありません。

*ABS は、Anti-lock Brake System（アンチロック ブレーキ システム）の略です。

知識

- 走行中にABS警告灯が点灯した場合、通常のブレーキ性能は確保されていますが、ABSは作動しません。トヨタ販売店で点検を受けてください。
- ABSの作動中および作動後は、ブレーキペダルが奥に入り込むことがあります。また、ABSが正常に作動しているときは、ブレーキペダルを踏むとペダルがこきざみに動き「カタカタ」と作動音がすることがありますが、システムの異常ではありません。
- 雨の日にマンホールのふた、橋の継ぎ目などの滑りやすい場所でブレーキペダルを踏むとABSが作動しやすくなります。
- 急ブレーキ時は、ブレーキペダルを強く踏み続けてください。ブレーキペダルをゆるめるとABSが効果を発揮できません。
- 急ブレーキ時にポンピングブレーキ * はしないでください。ポンピングブレーキをすると制動距離が長くなります。

* ブレーキペダルを数回に分けてこきざみに踏むブレーキのかけかた

装備品の使いかた

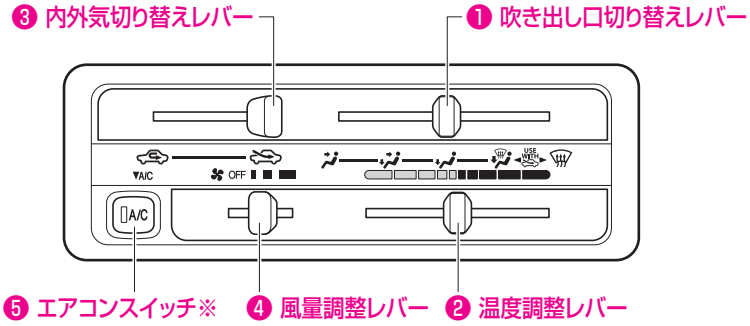
空調
エアコン／ヒーター …… 126
オーディオ
アンテナ …… 134
オーディオの取り扱い …… 134
AM/FM 付ラジオ …… 137
インテグレート CD・AM/FM 付
ステレオ・AUX 端子 …… 143
室内装備品
室内照明 …… 156
アクセサリーソケット …… 157
移動式灰皿 …… 158
サンバイザー …… 158
アシストグリップ /
乗降グリップ …… 160
収納装備 …… 161
ドリンクホルダー …… 164
ショッピングフック …… 165

空調

エアコン／ヒーター

室内の冷暖房、除湿、曇り取りなどを行うことができます。

コントロールパネル



※：エアコン装着車

エアコン／ヒーターの使いかた

通常の暖房

▼ 操作方法

- 吹き出し口切り替えレバー（❶）を にする
- 温度調整レバー（❷）を右（高温側）にスライドする
- 内外気切り替えレバー（❸）を にする
- 風量調整レバー（❹）を調整する

▼ 急速に暖房したいときは

温度調整レバー（❷）を一番右（高温側）にスライドして、内外気切り替えレバー（❸）を にしてください。

知識

- 内外気切り替えレバー（❸）を にして長時間使用すると、ガラスが曇りやすくなりますので一時的にご使用ください。
- 暖かくなってきたら温度調整レバー（❷）を左（低温側）にスライドして、お好みの温度に調整してください。

通常の冷房

エアコン装着車

▼ 操作方法

- 吹き出し口切り替えレバー（❶）を ⁂ にする
- 温度調整レバー（❷）を左（低温側）にスライドする
- 内外気切り替えレバー（❸）を ⊂⊃ にする
- 風量調整レバー（❹）を調整する
- エアコンスイッチ（❺）を“ON”にする

知識

乗車直後に車内の温度が高いときは

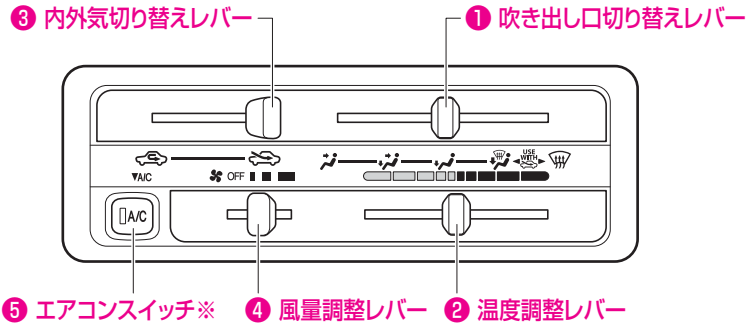
- 窓を開けて熱気を逃がしてからエアコンを作動させてください。

▼ 急速に冷房したいときは

温度調整レバー（❷）を一番左（最低温）に操作して、内外気切り替えレバー（❸）を ⊂⊃ にしてください。

知識

- 内外気切り替えレバー（❸）を ⊂⊃ にして長時間使用すると車内の空気が汚れます。換気のためときどき内外気切り替えレバー（❸）を ⊂⊃ にしてください。
- 冷えてきたら温度調整レバー（❷）を右（高温側）にスライドして、お好みの温度に調整してください。



※：エアコン装着車

除湿暖房するとき（曇り止め）

エアコン装着車

▼ 操作方法

- 吹き出し口切り替えレバー（❶）を にする
- 温度調整レバー（❷）を調整する
- 内外気切り替えレバー（❸）を にする
- 風量調整レバー（❹）を調整する
- エアコンスイッチ（❺）を“ON”にする

知識

- 外気温が 0℃近くまで下がると、エアコンの除湿機能が作動しない場合があります。

換気するとき

▼ 操作方法

- 吹き出し口切り替えレバー（❶）を にする
- 温度調整レバー（❷）を調整する
- 内外気切り替えレバー（❸）を にする
- 風量調整レバー（❹）を調整する
- エアコン装着車は、エアコンスイッチ（❺）を“OFF”にする

ガラスの曇りを取るとき

▼ 操作方法

- 吹き出し口切り替えレバー（❶）を にする
- 温度調整レバー（❷）を調整する
- 内外気切り替えレバー（❸）を にする
- 風量調整レバー（❹）を調整する
- エアコン装着車は、エアコンスイッチ（❺）を“ON”にする

▼ より早くガラスの曇りを取る場合

ガラスの曇りを取る操作と併せて、下記の操作を行います。

- 風量調整レバー（❹）で風量を増す
- 温度調整レバー（❷）を右（高温側）にスライドする

⚠ 警告

ガラスの曇りを防止するために

- 温度調整レバー（❷）を一番左（最低温）に操作しないでください。冷風がガラスに当たるとガラスの外側が曇ることがあります。

知識

- 外気温が 0℃近くまで下がると、エアコンの除湿機能が作動しない場合があります。
- 吹き出し口切り替えレバー（❶）を にすると、曇り取りと同時に足元にも送風します。

外気が汚れているときは

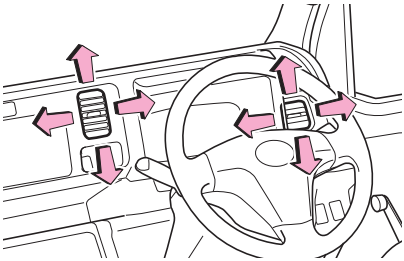
- 一時的に内外気切り替えレバー（❸）を にしてください。

ヒーター装着車では

- 内外気切り替えレバー（❸）を にすると、曇りが取れにくくなりますので にしてください。
- 夏期の曇り止めには、温度調整レバー（❷）を適度に調整してください。

風向きの調整

吹き出し口



左右および中央の吹き出し口からの風向きの調整を行うことができます。

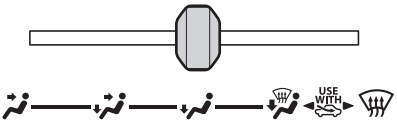
● ツマミを動かして調整します。

知識

● 冷房時、まれに吹き出し口から霧が吹き出したように見えることがありますが、これは湿った空気が急に冷やされたときに発生するものであり異常ではありません。

各レバー／スイッチの使いかた

❶吹き出し口切り替えレバー



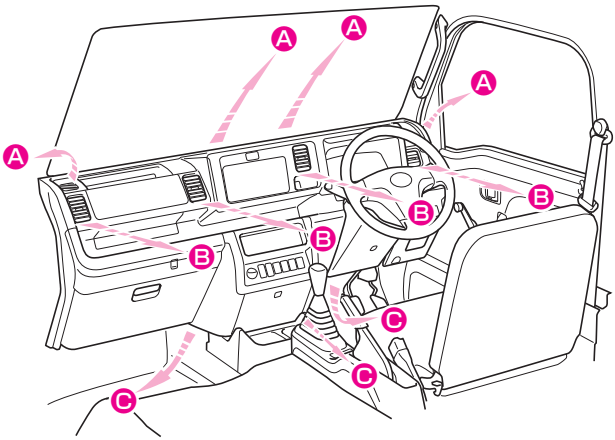
レバーを左右にスライドして、吹き出し口を切り替えます。

● 風量は吹き出し口によって異なります。

レバー位置					
吹き出し口	Ⓑ	Ⓑ Ⓒ	Ⓒ (Ⓐ)	Ⓐ Ⓒ	Ⓐ

(　)は特に風量の少ないものを示します。

▼ 吹き出し口の位置



⚠ 警告

エアコン装着車

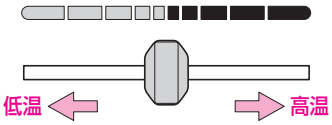
ガラスの曇りを防止するために

● 湿度が高いときにエアコンを低い設定温度で作動させている場合は、吹き出し口を ⁂ または ⁂ に切り替えないでください。
外気とガラスの温度差でガラスの外側が曇り、視界をさまたげるおそれがあります。

知識

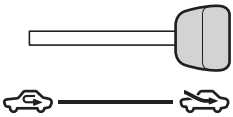
● このマークは、吹き出し口切り替えレバー（❶）を ⁂ または ⁂ に合わせるときに内外気切り替えレバー（❸）を ⁂ に合わせて使用することをおすすめするためのものです。
⁂ に合わせることでガラスが曇りにくくなります。

❷温度調整レバー



レバーを左右にスライドして、温度を調整します。

❸内外気切り替えレバー



レバーをスライドして内気循環、外気導入を切り替えます。

▼ 内気循環（）

● 外気をしゃ断している状態です。
トンネルや渋滞など外気が汚れているときや早く冷暖房したいとき、外気温度が高いときの冷房効果を高めたいときにお使いください。

▼ 外気導入（）

● 外気を導入している状態です。
通常はこの位置でお使いください。

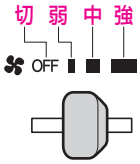
⚠ 注意

● 吹き出し口切り替えレバー（❶）が、また のとき“内気循環”にしないでください。
ガラスが曇りやすくなります。

知識

● “内気循環”を長時間使用すると、ガラスが曇りやすくなります。通常は“外気導入”を使用してください。
● トンネルや渋滞時などは、“内気循環”にして付近の排気ガスが室内に入るのを防いでください。
● エアコン使用中に、室内外のさまざまな臭いがエアコン装置内に取り込まれて混ざり合うことにより、吹き出し口からの風が臭うことがあります。
エアコン始動時に発生する臭いを抑えるために、駐車時は外気導入にしておくことをおすすめします。

❹風量調整レバー



吹き出し口からの風量を調整します。

● 3段階の切り替えができます。

❺エアコンスイッチ

エアコン装着車

● ファンが作動中に、スイッチを押すとエアコン（冷房、除湿機能）が作動します。
  - 作動表示灯が点灯します。

● もう一度押すとエアコンが停止します。
  - 作動表示灯が消灯します。

⚠ 警告

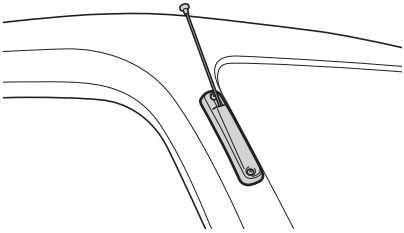
● 停車時の冷房効果を向上させるために、エンジンアイドリング回転を少し高くするアイドルアップ装置が付いています。アイドルアップ装置作動中の発進、停止時の運転操作に注意してください。
特にオートマチック車で冷房中、一時停止する場合はブレーキペダルをしっかり踏んでください。

知識

● 外気温が 0℃近くまで下がると、エアコンの除湿機能が作動しない場合があります。

オーディオ

アンテナ



▼ 使用方法

- ラジオを受信するときは、アンテナの先を持っていっぱいに引き出す
- 収納するときは、アンテナの根元を持って少しずつ収納する

⚠ 警告

- 走行中に引き出し、収納などの操作をしないでください。運転のさまたげになるほか車外の物に当たったり、急ブレーキをかけたときけがをするおそれがあり危険です。

⚠ 注意

- 下記のようなときは、アンテナを収納してください。破損したり、変形したりする場合があります。
  - 自動洗車機使用時
  - ボデーカバーをかけるとき
  - 立体駐車場など屋根の低いガレージなどに入れるとき
  - 降雪時に長時間駐車するとき

オーディオの取り扱い

オプション / グレード別装備

⚠ 警告

- 運転中は、車外の音が聞こえる程度の音量でお楽しみください。大きな音量を出すと車外の音が聞こえず、思わぬ事故につながるおそれがあります。
- 走行中にオーディオの操作をしないでください。運転のさまたげになり、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

⚠ 注意

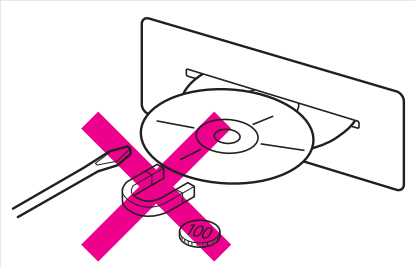
- エンジン停止時は、オーディオを長時間使用しないでください。バッテリーあがりを起こし、エンジンの始動ができなくなります。
- 水分や高温・多湿・ほこり・ゴミを嫌いますので、車内清掃や換気に十分注意してください。

⚠ 注意

- オーディオ本体のお手入れは、乾いた柔らかい布でふいてください。損傷の原因となるおそれがある固い布や、ベンジン・シンナー・アルコールなどは絶対に使用しないでください。また、汚れがひどい場合には、柔らかい布を水またはぬるま湯に浸し、軽くふき取ってください。
- 車内の温度に気を付けてください。極寒や酷暑のとき、特に夏期は車内の温度が大変高くなり、故障の原因となるおそれがありますので、車内の換気に注意し、適温で使用してください。

CD プレーヤーの取り扱い

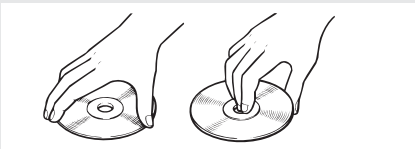
- 挿入口に、指定されている CD 以外の物や一度に 2 枚以上の CD を挿入したり、ドライバーなどの金属物や磁石などを近付けないでください。故障の原因となります。
  また、CD に磁石などを絶対に近付けないでください。



- CD を挿入して数秒すると、セットされずに戻ってくることがあります。この場合は、CD の異常が考えられますので、CD に異常がないかを確認してください。
- 取り出しボタンを押しても、CD が挿入されたまま取り出せないときは、プレーヤーの保護のため、機能が停止することがあります。この場合、トヨタ販売店にご相談ください。
- 車を降りるときは、必ず CD をオーディオ本体から取り出し、ケースに入れて、高温にならない場所に保管してください。
- CDを直射日光に長時間当てたり、挿入口に残した状態のまま長時間放置しないでください。
  また、高温・多湿な場所（インストルメントパネルの上やシートの上など）に長時間放置しないでください。CD がひずみ、使用できなくなるおそれがあります。
  従来のオーディオレコードと同様にプラスチック製ですので、そりの原因となります。
  そり防止のため、必ずケースに入れ、直射日光の当たらない場所に保管してください。

CD の取り扱い

- CD を持つときは、信号面に触らないようにしてください。両端を挟むようにして持つか、中央の穴と端を挟んで持ってください。



⚠ 注意

CD の取り扱い

- CD は内部で高速回転しますので、異常な CD（ハート型など異形の CD、ヒビが入った CD や大きくそった CD）は使用しないでください。

- 記録部分に透明または半透明部分がある CD は、正常に出し入れや再生ができなくなるおそれがありますので、使用しないでください。
- ラベル面（印刷面）にも紙やシールなどを貼り付けたり、傷などを付けないようにしてください。
- CD に指紋やホコリが付いた場合でも、CD に記録された信号には直接影響しませんが、汚れにより、信号記録面からの反射光の明るさが低減して音質が低下したり、音飛びを起こすことがあります。
- CD が汚れたときは、柔らかい布で CD の内周から外周方向へ軽くふいてください。
- レコードスプレー・帯電防止剤などは使用できません。またベンジン・シンナーなどの揮発性の薬品をかけると、表面が侵されることがありますので使用しないでください。

- 振動の激しい悪路を走行すると、音飛びを起こすことがあります。
- 真冬の車内は極度に冷えています。この状態で、ヒーターを入れてすぐに使用すると、CD や光学部品（プリズムやレンズなど）が曇って、正常に再生されないことがあります。
  CD が曇っているときは、柔らかい布でふいてください。光学部品が曇っているときは、1時間ほど放置しておけば自然に曇りが取れ、正常に再生されます。

知識

- オーディオを聞いているとき、室内または車の近くで携帯電話や無線機を使うと、ノイズ（雑音）が入ることがあります。
- ラジオの受信は、電波の強さが変化したり、電車・信号機などの障害物の影響により、最良な受信状態を維持することが困難な場合があります。

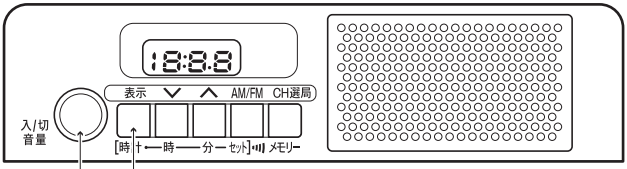
CD プレーヤーの取り扱い

- CD が挿入された状態でエンジンを始動すると、「カチッ」・「ウイーン」などという音が数回しますが、これは再生準備のための作動音で、故障ではありません。

AM/FM 付ラジオ

オプション / グレード別装備

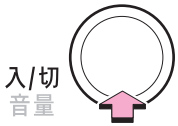
基本操作



❶ 電源スイッチ
❷ 音量調整ツマミ
❸ 表示ボタン

電源を入れる

❶電源スイッチ



1 エンジンスイッチを “ON” または “ACC” にする

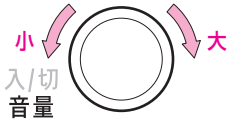
- 前回、エンジンスイッチを “LOCK” にしたときにラジオの電源が入っていた場合は、自動的に電源が入ります。

2 電源スイッチを押す

- ラジオの電源が入ります。
- もう一度スイッチを押すと、電源が切れます。

音量を調整する

❷音量調整ツマミ



音量調整ツマミを右に回すと大きくなり、左に回すと小さくなります。

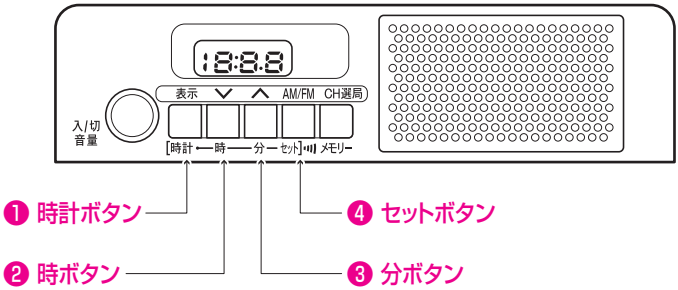
ラジオの周波数を表示する

❸表示ボタン

- 表示ボタンを押すと、ディスプレイ部にラジオの周波数が表示されます。
- 約 6 秒後、時計表示に戻ります。

時計調整

オーディオの電源の“ON”“OFF”に関わらず、エンジンスイッチを“ON”または“ACC”にすると、ディスプレイ部に時計が表示されます。



知識

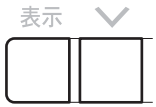
- バッテリーやヒューズ交換などで、オーディオへの電力供給が断たれたときは、初期設定の状態から時計の作動が開始されることがあります。この場合は、再度調整してください。

時計を調整するには

時計を表示しているときに時計ボタン（❶）を押しながら、時ボタン（❷）、または分ボタン（❸）を押して調整します。

- 時計ボタン（❶）から指を離すと調整が完了します。

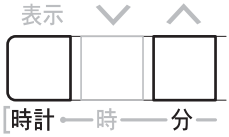
“時”を調整する



時計ボタン（❶）を押しながら、時ボタン（❷）を押します。

- ボタンを押すごとに、数字が 1 つずつ大きくなります。
（押し続けると、早送りします）

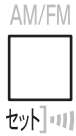
“分”を調整する



時計ボタン（❶）を押しながら、分ボタン（❸）を押します。

● ボタンを押すごとに、数字が 1 つずつ大きくなります。
（押し続けると、早送りします）

時報“:00”に合わせる

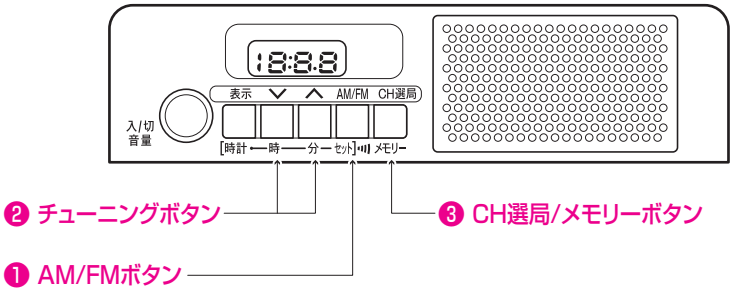


時計ボタン（❶）を押しながら、セットボタン（❹）を押します。

（例）1:00 ～ 1:29 → 1:00

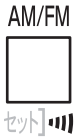
（例）1:30 ～ 1:59 → 2:00

ラジオの受信



AM・FM 放送、交通情報の切り替え

❶ AM / FM ボタン



▼ AM・FM 放送を切り替えるには

ラジオを聞いているときに、AM / FM ボタンを押すと、AM・FM が切り替わります。

- ディスプレイ部に、切り替わった AM・FM 放送の周波数が表示されます。

▼ 交通情報を切り替えるには

AM / FM ボタンを「ピッ」と音がするまで押し続けます。

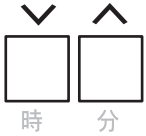
もう一度ボタンを押すと、解除されます。

知識

- 交通情報が行われていない地域では受信できません。
- AM / FM ボタンで受信できる周波数は 1620kHz のみです。ほかの周波数の交通情報放送局をこのボタンで受信することはできません。

周波数を変える

❷チューニングボタン



▼ 手動で選択するには

チューニングボタンを押して希望の周波数を選択します。

- 周波数を高い方に選択するには ∧ 側のボタン、低い方に選択するには ∨ 側のボタンを押します。
- ディスプレイ部に、受信周波数が表示されます。

▼ 自動で選択するには

チューニングボタンを「ピッ」と音がするまで押し続けます。

- 周波数を高い方に選択するには ∧ 側のボタン、低い方に選択するには ∨ 側のボタンを押します。
- 放送が受信されると、自動的に止まります。
- ディスプレイ部に、受信周波数が表示されます。

自動選択を止めるには、もう一度ボタンを押します。

知識

- 受信感度が良く、ディスプレイ部に表示されている周波数に一番近い周波数が自動で選択されます。
- 山岳部や弱電界地域で自動選択を行った場合、受信できる周波数があっても、自動的に止まらないことがあります。この場合、手動選択を行ってください。

選択した周波数を記憶させる

❸ CH 選局 / メモリーボタン

1 CH 選局 / メモリーボタンを押して記憶させるチャンネルを選択する

- ボタンを押すたびに AM 放送受信中は「A01 → A02 → A03 → A04 → A05 → A06 → A01」、FM 放送受信中は「F01 → F02 → F03 → F04 → F05 → F06 → F01」の順にチャンネルが変わり、ディスプレイ部に表示されます。

2 チューニングボタン（❷）で記憶させる周波数を選択する

3 CH 選局 / メモリーボタンを「ピッ」と音がするまで押し続け、周波数を記憶させる

知識

- AM・FM 各 6 局まで周波数を記憶させることができます。
- 自宅付近などで日頃よくお聞きになる放送局の周波数を記憶させておくと便利です。

記憶させた放送局を呼び出すには

❸ CH 選局 / メモリーボタン

CH 選局 / メモリーボタンを押すたびに、記憶した放送局が選択されます。

- ボタンを押すたびに AM 放送受信中は「A01 → A02 → A03 → A04 → A05 → A06 → A01」、FM 放送受信中は「F01 → F02 → F03 → F04 → F05 → F06 → F01」の順にチャンネルが変わり、記憶させた周波数がディスプレイ部に数秒表示されたあと、時計が表示されます。

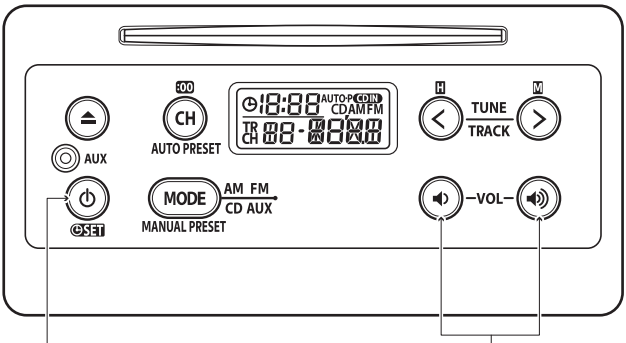
知識

- バッテリーやヒューズ交換などで、オーディオへの電力供給が断たれたときは、記憶させた周波数は消去され、初期設定の状態に戻ることがあります。この場合は、再度記憶させてください。

インテグレート CD・AM/FM 付ステレオ・AUX 端子

オプション / グレード別装備

基本操作



電源を入れる

❶電源ボタン

1 エンジンスイッチを “ON” または “ACC” にする

- 前回、エンジンスイッチを “LOCK” にしたときにオーディオの電源が入っていた場合は、自動的に電源が入ります。

2 電源ボタンを押す

- オーディオの電源が入ります。
- もう一度スイッチを押すと、電源が切れます。

音量を調整する

❷ボリュームボタン

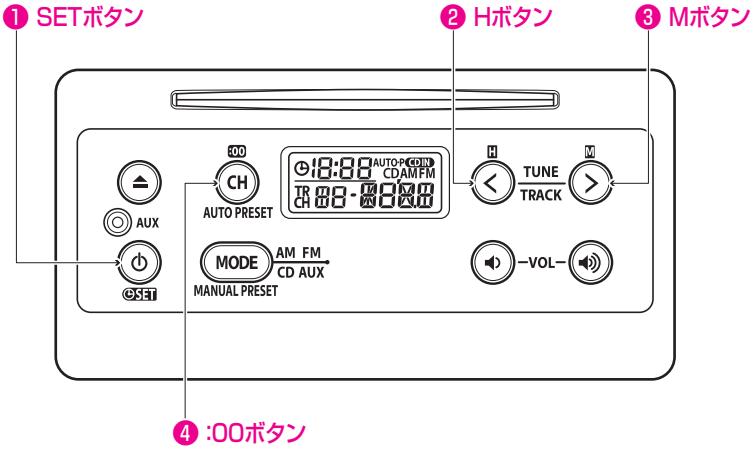
右側のボリュームボタンを押すと大きくなり、左側のボリュームボタンを押すと小さくなります。

知識

- 音量調整は「0 ～ 63」の範囲で調整できます。

時計調整

オーディオの電源の“ON”“OFF”に関わらず、エンジン スイッチを“ON”または“ACC”にすると、ディスプレイ部に時計が表示されます。



知識

- バッテリーやヒューズ交換などで、オーディオへの電力供給が断たれたときは、初期設定の状態から時計の作動が開始されることがあります。この場合は、再度調整してください。

時計調整モードにする

❶ SET ボタン

ボタンを「ピッ」と音がするまで押し続けます。

- 調整後、もう一度ボタンを押すと、時計の調整が完了します。

“時”を調整する

❷ H ボタン

時計調整モード中に、ボタンを押します。

（時計調整モード→ 144 ページ）

- ボタンを押すごとに、数字が 1 つずつ大きくなります。
（押し続けると、早送りします）

“分”を調整する

❸ M ボタン

時計調整モード中に、ボタンを押します。

（時計調整モード→ 144 ページ）

● ボタンを押すごとに、数字が 1 つずつ大きくなります。
（押し続けると、早送りします）

時報“：00”に合わせる

❹ :00 ボタン

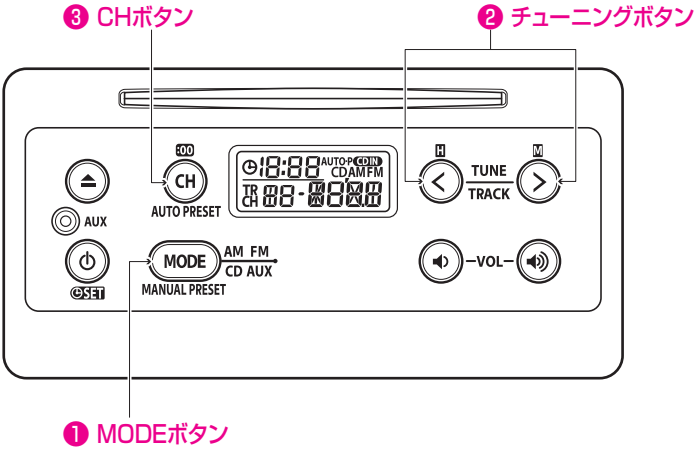
時計調整モード中に、ボタンを押します。

（時計調整モード→ 144 ページ）

（例）1:00 ～ 1:29 → 1:00

（例）1:30 ～ 1:59 → 2:00

ラジオの受信



AM / FM モードにする

❶ MODE ボタン

ボタンを押して、AM / FM モードを選択します。

- ラジオを聞いているときに、ボタンを押すと、AM / FM が切り替わります。
- ディスプレイ部に、選択したモードが表示されます。

知識

- CD が挿入された状態で、AUX（外部入力接続）端子にオーディオケーブルが接続されていると、ボタンを押すごとに「AM → FM → CD → AUX」の順にモードが切り替わります。

周波数を変える

❷チューニングボタン

▼ 手動で選択するには

チューニングボタンを押して希望の周波数を選択します。

- 周波数を高い方に選択するには ＞ のボタン、低い方に選択するには ＜ のボタンを押します。
- ディスプレイ部に、受信周波数が表示されます。

▼ 自動で選択するには

チューニングボタンを「ピッ」と音がするまで押し続けます。

- 周波数を高い方に選択するには ＞ のボタン、低い方に選択するには ＜ のボタンを押します。
- 放送が受信されると、自動的に止まります。
- ディスプレイ部に、受信周波数が表示されます。

自動選択を止めるには、もう一度ボタンを押します。

知識

- 受信感度が良く、ディスプレイ部に表示されている周波数に一番近い周波数が自動で選択されます。
- 山岳部や弱電界地域で自動選択を行った場合、受信できる周波数があっても、自動的に止まらないことがあります。この場合、手動選択を行ってください。

選択した周波数を記憶させる（マニュアルプリセット）

❶ MODE ボタン

1 記憶させる周波数を選択する

2 MODE ボタンを「ピッ」と音がするまで押し続ける

● ディスプレイ部の「CH」が点滅します。

3 「CH」が点滅している間に CH ボタンで記憶させたいチャンネルを選択する

● CH ボタンを押すたびに「CH1 → CH2 → CH3 → CH4 → CH5 → CH6 → CH1」の順にチャンネルが変わり、ディスプレイ部に表示されます。

4 もう一度 MODE ボタンを押すと、「ピッ」と音がして記憶される

知識

● AM・FM 各 6 局まで周波数を記憶させることができます。

自動で放送局を記憶させる（オートプリセット）

❸ CH ボタン

CH ボタンを「ピッ」と音がするまで押し続けます。

● 記憶操作が終了すると、「ピッピ」と音がして、記憶した中で一番低い周波数が受信されます。

知識

● オートプリセットをするごとに、現在受信状態の良い周波数が低い順に6局まで、CH ボタンに記憶されます。
なお、オートプリセットをする前に記憶させていた周波数は消去されます。

● 受信周波数が 6 局未満のときは、受信することができた周波数だけが記憶されます。
その場合、記憶されなかったチャンネルを選択すると、ディスプレイ部に「ーーーー」が表示されます。

● 地域や車の向きなどの条件により、すべての周波数の受信感度が悪い場合、自動で記憶されないことがあります。
その場合、オートプリセットをする前に記憶させていた放送局が CH ボタンに記憶されたままになります。

● 同じ放送局からの受信でも、CH ボタンで選択し、記憶させた周波数とオートプリセットで記憶させた周波数は一致しないことがあります。

● オートプリセットによる記憶操作を同じ場所で繰り返しても、受信状態によっては、操作ごとに記憶される周波数が異なることがあります。

記憶させた放送局を呼び出すには

❸ CH ボタン

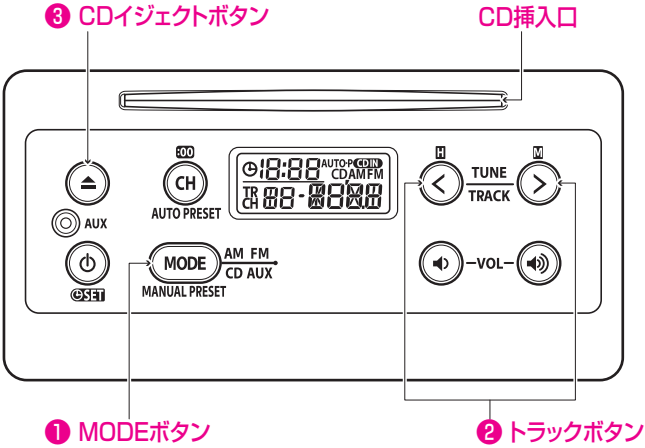
CH ボタンを押すたびに、記憶した放送局が選択されます。

- ボタンを押すたびに「CH1 → CH2 → CH3 → CH4 → CH5 → CH6 → CH1」の順にチャンネルが変わり、ディスプレイ部に表示されます。

知識

- バッテリーやヒューズ交換などで、オーディオへの電力供給が断たれたときは、記憶させた周波数は消去され、初期設定の状態に戻ることがあります。この場合は、再度記憶させてください。

CD の再生



CD プレーヤーの使いかたについては、「オーディオの取り扱い」のページも併せてお読みください。

（オーディオの取り扱い→ 134 ページ）

⚠ 注意

- Dual Disc には対応していません。Dual Disc を使用すると、機器の故障の原因になるおそれがあります。

知識

- 下記のマークが付いているディスクを使用してください。

  - CD TEXT は表示されませんが、再生は可能です。
- 音楽用 CD-R（CD-Recordable）・CD-RW（CD-ReWritable）に記録された音楽用データを再生できます。
  ただし、特性・傷・汚れなどにより再生できない場合があります。
- ディスクの状態（録音環境・データ内容）により再生できない場合があります。
- MP3・WMA・AAC 方式で記録されたディスクには対応していません。
- CD-ROM・コピープロテクト機能付ディスクには対応していません。
- 8cmCD には対応していません。

CD を再生する

❶ MODE ボタン

▼ CD が挿入されているとき

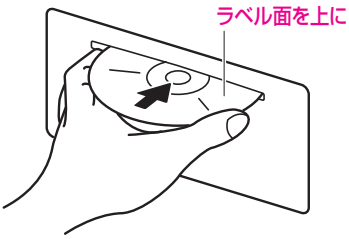
MODE ボタンを押して CD モードに切り替えると、自動で CD を再生します。

▼ CD が挿入されていないとき

CD を挿入すると、自動で CD モードに切り替わり、CD を再生します。

知識

- 前回、エンジンスイッチを“LOCK”にしたときに CD を再生していた場合は、自動的に CD が再生されます。
- CD を挿入するときは、ラベル面を上にして挿入します。



- CD が挿入されていない状態では、ボタンを押しても CD モードに切り替わりません。
- CD が挿入された状態で、AUX（外部入力接続）端子にオーディオケーブルが接続されていると、ボタンを押すごとに「AM → FM → CD → AUX」の順に切り替わります。

早送り・早戻しをする

❷トラックボタン

- 早送りをするには ＞ ボタン、早戻しをするには ＜ ボタンを押します。
- トラックボタンを押している間、早送り（または早戻し）され、希望の位置で手を離すと、その位置から再生されます。

頭出しをする

❷トラックボタン

- 曲を進めるには ＞ ボタン、曲を戻すには ＜ ボタンを押します。

曲の再生中に

- ＞ ボタンを押すと、次の曲が再生されます。
- ＜ ボタンを押すと、その曲の始めに戻ります。このとき、もう一度ボタンを押すと、前の曲が再生されます。

CD を取り出す

❸ CD イジェクトボタン

- CD イジェクトボタンを押して、CD を取り出します。
- CD が取り出されると、CD が再生される前の状態に戻ります。

エラーメッセージ

ディスプレイ部にエラーメッセージが出た場合、下表にしたがって処置をしてください。

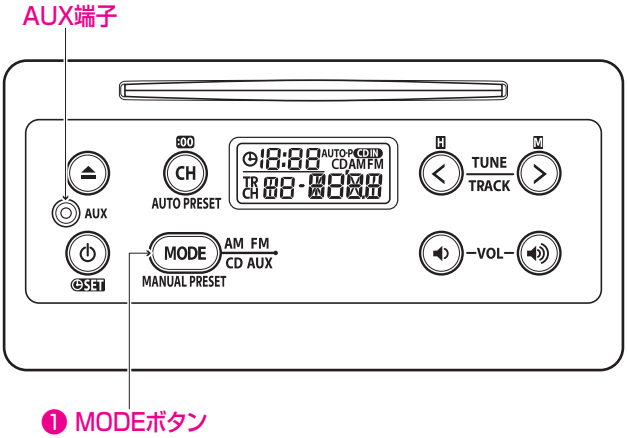
メッセージ	内容と処置
Err 1	CDが汚れているときや裏返しになっているとき、また対応していないCDが挿入されたときに表示されます。CDを確認してください。
Err 3	何らかの原因でCDプレーヤーが作動しないときに表示されます。挿入されているCDを取り出してください。

知識

- 処置をしても、エラーメッセージが表示されたままの場合や機能が停止したままの場合は、トヨタ販売店にご相談ください。

AUX（外部入力接続）端子

ポータブルオーディオなど市販の機器を接続して、その音声を車両のスピーカーで聞くことができます。



外部入力モードに切り替える

❶ MODE ボタン

1 市販のオーディオケーブル（抵抗なし）を使用して、ポータブルオーディオを AUX 端子に接続する

2 ボタンを押すと、ディスプレイ部に“AUX”と表示され、外部入力モードに切り替わる

知識

- AUX（外部入力接続）端子にオーディオケーブルが接続されていないと、外部入力モードに切り替わりません。
- CD が挿入された状態で、AUX（外部入力接続）端子にオーディオケーブルが接続されていると、MODE ボタンを押すごとに「AM → FM → CD → AUX」の順に切り替わります。

知識

AUX（外部入力接続）端子について

- ステレオミニプラグ（3.5φ）が接続できます。オーディオケーブル（抵抗なし）、接続する機器の取扱説明書をよくお読みください。
- 接続する機器の電源は、機器の付属のバッテリーなどを使用してください。車に装着されているアクセサリーソケットで充電しながら使用すると、雑音が出ることがあります。
- より良い音質で聞くには、接続する機器の音量を最大にして、オーディオ本体で音量を調整してください。
- 外部入力モード中に入力端子のプラグを抜いたり、接続する機器側のプラグを抜き差しすると、雑音が出ることがあります。

室内装備品

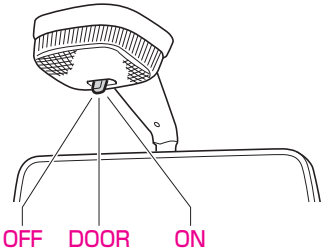
室内照明

⚠ 注意

バッテリーあがりを防ぐために

● エンジンを止めた状態で長時間点灯させないでください。

ルームランプ



▼ スイッチが“ON”のとき

ドアの開閉に関係なく点灯します。

▼ スイッチが“OFF”のとき

ドアの開閉に関係なく消灯します。

▼ スイッチが“DOOR”のとき

ドア連動機能により、点灯・消灯します。

ドア連動機能

室内照明のスイッチが“DOOR”のとき、ドア操作、エンジンスイッチ操作に連動して、点灯・消灯する機能です。

▼ エンジンスイッチの切りかえ

エンジンスイッチ	室内照明
LOCKまたはACC → ON	消灯
ON → ACCまたはLOCK	約15秒間点灯後に消灯

エンジンスイッチが“LOCK”または“ACC”のとき、次の操作に連動して照明が点灯・消灯します。

▼ 運転席ドアの施錠・解錠

運転席ドア ロック	室内照明
解錠 → 施錠	消灯(点灯中は減光後に)
施錠 → 解錠	約15秒間点灯後に消灯

▼ ドアの開閉

ドア	室内照明
全閉 → いずれか開	点灯
いずれか開 → 全閉	約15秒後に消灯

📖 知識

● 室内照明の点灯時間を変更することができます。詳しくはトヨタ販売店にご相談ください。

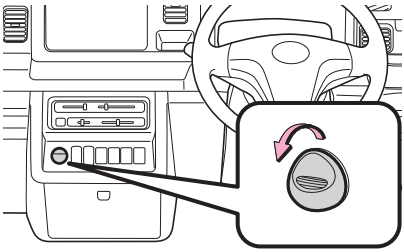
バッテリーあがり防止機能

室内照明のスイッチが“DOOR”のとき、バッテリーあがり防止のため、自動的に室内照明を消灯する機能です。

● エンジンスイッチが“LOCK”または“ACC”で、ドアを開けたまま約10分が経過すると、自動的に消灯します。

● 再度、点灯させるには、すべてのドアを閉めるか、エンジンスイッチを“ON”にしてください。

アクセサリーソケット



電化製品の電源用ソケットとして利用することができます。

- カバーを外し、電化製品の電源プラグを差し込んで使用します。

⚠ 注意

- 電気容量は、DC12V で最大電流 10A（最大消費電力 120W）です。この容量以上の電化製品を使用しないでください。最大電気容量を超える電化製品を使用すると、ヒューズが切れるおそれがあります。
- アクセサリーソケットを使用しないときは、カバーを閉めておいてください。異物がソケットに入ったり、飲料水などがかかったりすると、故障したり、ショートするおそれがあります。

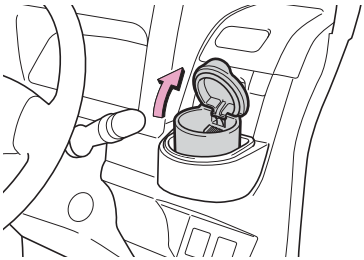
バッテリーあがりを防ぐために

- エンジンを停止した状態で使用しないでください。
- エンジンがかかっていても、アイドリング状態で長時間使用しないでください。

知識

- 故障を防ぐため、電化製品はトヨタ純正用品をおすすめします。

移動式灰皿



● 運転席、またはインストルメントパネル中央下のドリンクホルダーに置いて使用します。

（ドリンクホルダー→ 164 ページ）

⚠ 警告

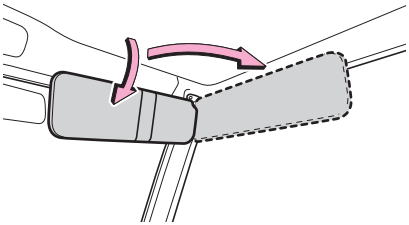
● タバコ、マッチなどは確実に火を消してから入れてください。また、紙くずなどの燃えやすい物を入れないでください。出火するおそれがあります。

⚠ 注意

● 灰皿を使ったあとは、必ず閉めてください。

● 吸いがらは、ためすぎないように注意してください。

サンバイザー



直射日光などでまぶしいときに使用します。側面に移動させて使用することもできます。

▼ 使用するときは

矢印の方向に動かします。

⚠ 警告

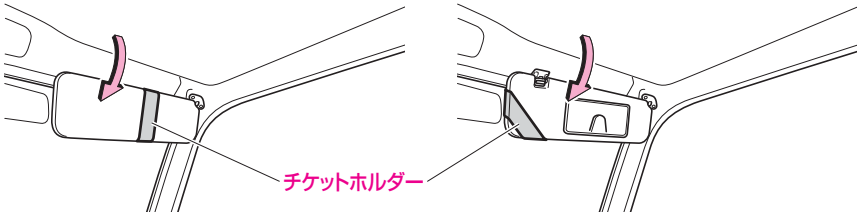
● サンバイザーと天井の間にものをはさまないでください。発進時などに物が落ちるおそれがあり、危険です。

チケットホルダー / カードホルダーについて

● サンバイザーのチケットホルダー、カードホルダーには、使用用途以外の物を入れないでください。発進時などに物が落ちるおそれがあり危険です。

チケットホルダー

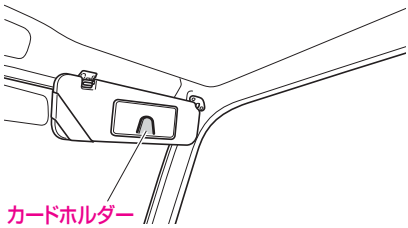
チケット類を収納することができます。



〈標準車〉　〈バニティーミラー装着車〉

カードホルダー

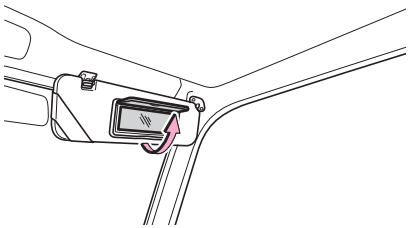
バニティーミラー装着車



カード類を収納することができます。

バニティーミラー

バニティーミラー装着車



▼ 使用方法

カバーを矢印の方向に開けます。

⚠ 警告

● 走行中は使用しないでください。 思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

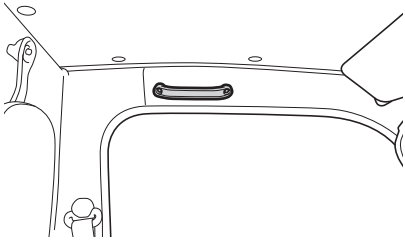
アシストグリップ / 乗降グリップ

⚠ 注意

- 特に重たい物や、大きな物をグリップにかけないでください。グリップが折れたり、走行中に外れたりするおそれがあります。

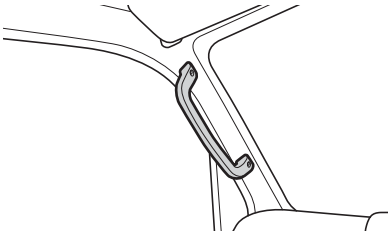
アシストグリップ

走行中、車体がゆれたときなどにご使用ください。

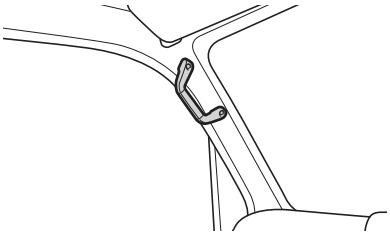


乗降グリップ

車両に乗り降りするときなどにご使用ください。



〈大型タイプ〉



〈標準タイプ〉

収納装備

収納装備はグレードやオプション装備により、一部異なることがあります。

⚠ 警告

- ライターやスプレー缶などを収納したままにしないでください。炎天下で車内が高温になったときに爆発したり、他の収納物との接触でライターが着火したりスプレー缶のガスがもれるなどして、火災につながるおそれがあります。
- 走行中に物を出し入れしないでください。思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

フタ付き収納装備について

- 走行中は必ずフタを閉めておいてください。急ブレーキなどの激しい運転の際に開いたフタに体が当たったり、中のものが飛び出したりするおそれがあり危険です。

フタが無い収納装備について

- 走行中に転がり落ちるようなものを置かないでください。ブレーキペダルやアクセルペダルにものがはさまると、ブレーキ操作ができなくなったり、アクセルペダルが戻らなくなったりするおそれがあり危険です。

⚠ 注意

- プラスチック素材のメガネなどを収納したままにしないでください。炎天下で車内が高温になったときの熱や他の収納物との接触により、変形やひび割れを起こすことがあります。
- 炭酸飲料を収納したままにしないでください。炎天下で車内が高温になったときなどに破裂することがあります。

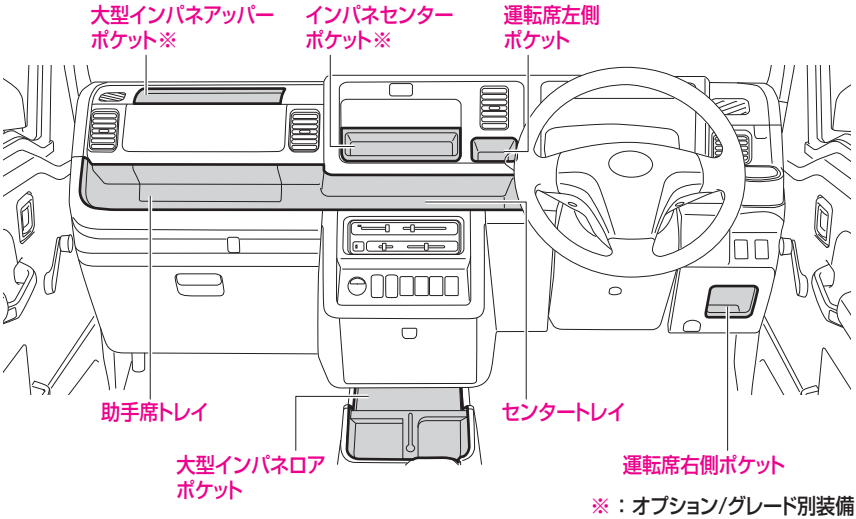
フタ付き収納装備について

- フタを開けた状態から、さらに開く方向に力を加えないでください。変形や破損のおそれがあります。

助手席シートバックポケットについて

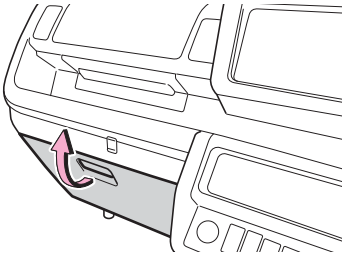
- シート表皮を損傷するような鋭利なものや重たいものを収納しないでください。

インパネトレイ、インパネポケット

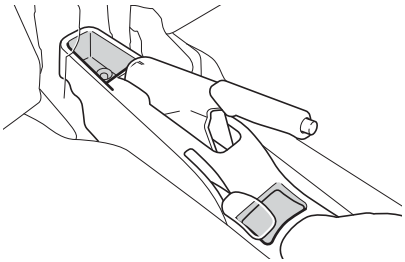


※：オプション/グレード別装備

グローブボックス

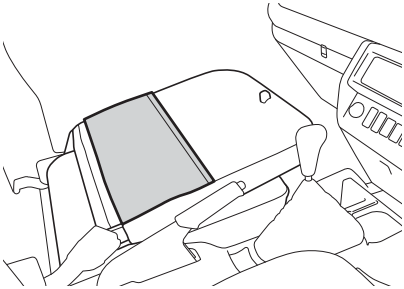


リヤコンソール



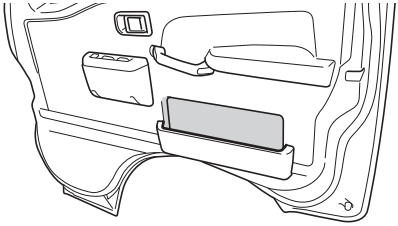
- レバーを引いて開けます。
- 閉めるときはそのまま閉めます。

助手席シートバックポケット

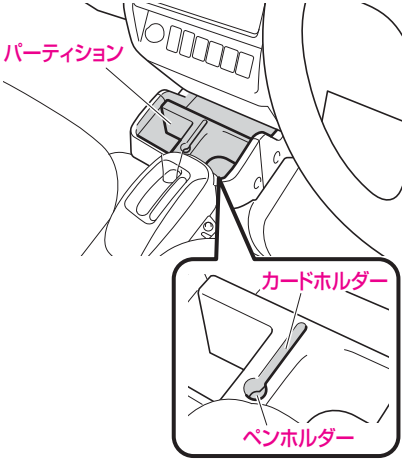


ドアポケット（運転席 / 助手席）

オプション / グレード別装備



大型インパネロアポケット



- 手回り品や小物などを置いておくことができます。
- ドリンクホルダーとして使用することができます。

（ドリンクホルダー→ 164 ページ）

▼ パーティションについて

- ペンホルダーとカードホルダーとして使用できます。

知識

- パーティションを取り外すと、収納スペースを広くできます。

ドリンクホルダー

⚠ 警告

- 飲み物は振動で中身がこぼれるおそれがありますので、フタをしてこぼれないようにしてください。特に温かい飲み物は、やけどを防ぐために必ずフタをしてください。
- ドリンクホルダーには、使用用途以外の物を置かないでください。急ブレーキをかけたときや、衝突したときなどに置いていた物が飛び出し、けがをするおそれがあります。

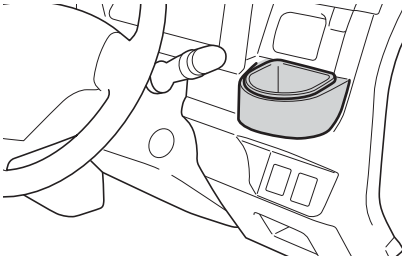
⚠ 注意

- 飲み物がこぼれたときはただちにふき取ってください。スイッチ類や電気部品にかかると、故障や車両火災の原因となるおそれがあります。
- 炭酸飲料を収納したままにしないでください。炎天下で車内が高温になったときなどに破裂することがあります。
- ペットボトルや紙パックは、形状によってはしっかり固定されない場合があります。
  しっかり固定されないままで走行すると、振動でペットボトルが落下し、運転の妨げになるおそれがありますので、確実に固定されることを確認してから使用してください。

知識

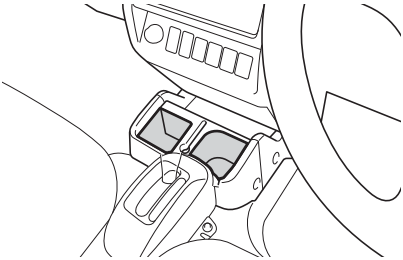
- ペットボトルや紙パックは大きさや形状によっては収納できないことがあります。

運転席



ペットボトルや缶ジュース、カップなどを置くときに便利です。

インパネロアポケット



▼ 運転席側

- ペットボトルや缶ジュース、カップなどを置くときに便利です。

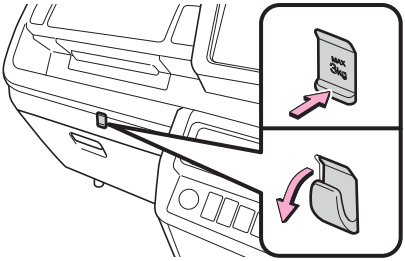
▼ 助手席側

- ペットボトルや缶ジュース、カップ、紙パックなどを置くときに便利です。

ショッピングフック

軽量の荷物や、袋をかけておくのに便利です。
インストルメントパネル（助手席側）・リヤパネル中央にあります。

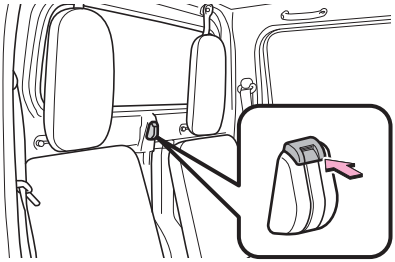
インストルメントパネル（助手席側）



▼ 使用方法

- フックの下部を押さえ、反転させて使用します。
- 元に戻すときは、そのまま反転させフックを格納してください。

リヤパネル中央



▼ 使用方法

- ボタンの上部を押すと使用できます。
- 元に戻すときは、フックを押し上げロックします。

⚠ 注意

- 使用しないときは元に戻しておいてください。

最大荷重量について

- 特に重たい物や、大きな物をショッピングフックにかけないでください。
- フックが折れたり、走行中に外れたりするおそれがあります。
  - インストルメントパネル（助手席側）約 3kg
  - リヤパネル中央約 10kg

MEMO

車のお手入れ

日常のお手入れ
ボデー、塗装面の
お手入れ …… 168
室内のお手入れ …… 170
簡単な点検・部品の交換
各部の点検 …… 172
消耗品の補給、交換 …… 177
タイヤの点検 …… 180
ワイパーの交換 …… 182
エアコンガス、フィルターの
交換 …… 184
ヒューズの交換 …… 185
電球（バルブ）交換 …… 188
キーの電池交換 …… 198

日常のお手入れ

ボデー、塗装面のお手入れ

塗装面など車体の外観を美しく保つために、洗車、ワックスがけを月1回程度で定期的に行ってください。また、長時間屋外で駐車するときは、ボデーカバーを付けるように心がけましょう。

車体にほこりや異物などを付けたままにしておきますと、塗装面の劣化や車体、部品の腐食を早めたり、化学変化による塗装面の変色やはん点の発生などの原因になります。

下記の場合は早めに洗車をしてください。

- 海岸地帯、凍結防止剤を散布した道路を走行したとき
- ばい煙、粉じん、鉄粉などの降下の多い場所に駐車したとき
- コールタール、花粉、鳥のふん、虫、樹液などが付いたとき
- ほこり、泥などで著しく汚れたとき

知識

- 海岸地帯や凍結防止剤を散布した道路を走行したあとは、特に車体の下回り、足まわりを念入りに洗車してください。
- 塗装の飛石傷やかき傷は、腐食の原因となります。見つけたら早めに補修してください。
- 保管、駐車は風通しの良い車庫や屋根のある場所をおすすめします。
- お使いになる洗剤やワックスの説明をよく読んで、正しくお手入れを行ってください。

洗車

警告

- 故意に空気取り入れ口やエンジンルーム内の電気部品に水をかけないでください。エンジンの始動不良や電気部品の故障の原因になります。
- 洗車後や水たまり走行後は低速でブレーキペダルを軽く踏んでブレーキが正常にはたらくことを確認してください。効きが悪い場合は、ブレーキパッドがぬれていると、ブレーキの効きが悪くなったり、ぬれていない片方だけが効いてハンドルを取られ、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。周囲の安全に十分注意して効きが回復するまで数回ブレーキペダルを軽く踏んでください。
- 下回り足回りを洗うときは手をけがしないように注意してください。

注意

- 高温の湯で洗車すると樹脂部品などが損傷するおそれがあります。
- ランプのレンズ表面をワックス・ベンジンやガソリンなどの有機溶剤でふいたり、硬いブラシでこすらないでください。レンズが破損したり、劣化を早めるおそれがあります。
- 研磨剤（コンパウンド）入りの洗剤は使用しないでください。

洗車のしかた

1 十分に水をかけながらスポンジまたはセーム皮のような柔らかい物で洗う

- 汚れのひどい箇所はカーシャンプー液または中性洗剤で洗い、水で完全に流します。

2 水が乾かないうちにふき取る

自動洗車機を使用するとき

⚠ 注意

- ドアミラー、アンテナは必ず格納し、前側から洗車してください。
- エアコン / ヒーターは“内気循環”にしてください。車内に水が入り、故障の原因になります。
- ときによりブラシの傷が付き、塗装の光沢が失われたり劣化を早めることがあります。

高圧洗車機を使用するとき

⚠ 注意

- ドアガラスやドア周りなどの開閉部分は高圧洗車は避けてください。
  - ドアガラスやドア周りなどの開閉部分に洗車ノズルを向けると、車内に水が入ることがあります。

ワックスがけ

月に一回程度または水をはじかなくなったときに行ってください。

▼ ワックスをかける前に

塗装面の汚れを水洗いし、水分を十分にふき取ってから日陰または車体表面が体温以下になっているときに行ってください。

⚠ 注意

- 研磨剤（コンパウンド）入りのワックスは使用しないでください。

無塗装白バンパーについて

- 硬いスポンジなどを使用してワックスをかけると、傷付きの原因となりますので、柔らかい布をご使用ください。

知識

- 塗装されていない樹脂部品にワックスを使用しないでください。ワックスが付着すると、白くなったりムラになることがあります。

塗装部品のお手入れ

塗装部品にガソリン、オイル、ラジエーター液、バッテリー液などが付着すると、しみの発生や塗膜がはがれる原因となります。十分に水洗いをしたあとただちに柔らかい布でふき取ってください。

知識

- 塗装部品の傷の補修をする場合は、トヨタ販売店にご相談ください。不適当な塗料を使用すると塗膜をいためます。

室内のお手入れ

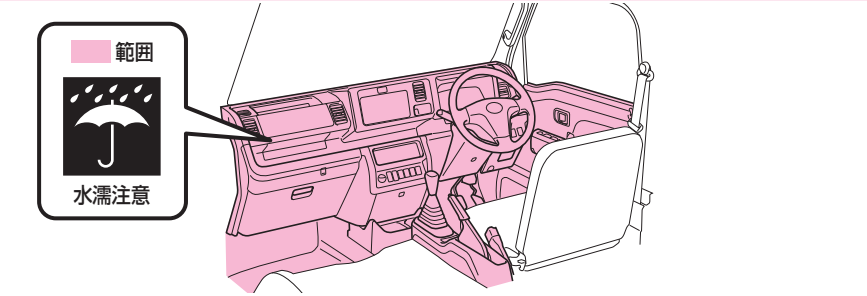
ビニール、レザー、プラスチック、布材など汚れ落としには、中性洗剤の水溶液を柔らかい布に軽く含ませてお使いください。洗浄後、残った洗剤分は真水を含ませた柔らかい布でよく落としてください。室内側のウインドガラスも、こまめにふいておきましょう。汚れたままにしておくと、取れにくくなる場合があります。

⚠ 警告

- シートベルトを清掃するときは、必ず中性洗剤を溶かしたぬるま湯を使用してください。中性洗剤以外を使用すると、ベルトが弱くなり万一のときに正常なはたらきをしないことがあります。

車内に水などをかけないでください。

- インストルメントパネルやドア、フロア下などにあるスイッチや電気部品、配線類の故障の原因となったり、車両火災につながるおそれがあり危険です。
  万一、水、飲み物などがかかった場合は、可能な限り水分を取り除き、すみやかにトヨタ販売店にご相談ください。



- シートの下など見えにくい場所や狭い場所に手を入れるときは、けがをしないように十分注意してください。

⚠ 注意

- ベンジン、ガソリン、シンナーなどの有機溶剤は変色、しみなどの原因となるので使わないでください。
- メーターのレンズカバーにガラスクリーナーやアルコールなどを使用しないでください。変色・ひび割れの原因となります。
- 各スイッチの周辺にシリコン系のスプレーを使用しないでください。シリコンが内部の電気部品に付着し、故障の原因となります。
- 乾燥は直射日光をさけ、風通しが良く、ほこりの立たない日陰で行ってください。素材のいたみを早める原因となります。
- 液体芳香剤は、こぼれないように容器を確実に固定してください。また、インストルメントパネルの上やメーターの近くに置かないでください。液体がこぼれて樹脂部品や布材、メーターのレンズカバーに付着すると、変色・ひび割れの原因となります。

スーパー UV & IR カットガラス（フロントドア）を清掃するときは

オプション／グレード別装備

- 汚れたら早めに水またはぬるま湯を含ませた布で軽くふいてください。
- 研磨剤（コンパウンド）入りの洗剤や鋭利なもの、硬いもので清掃しないでください。室内側のコーティングを損傷させるおそれがあります。
- ドアガラスの汚れがひどいときは、開閉を繰り返さないでください。

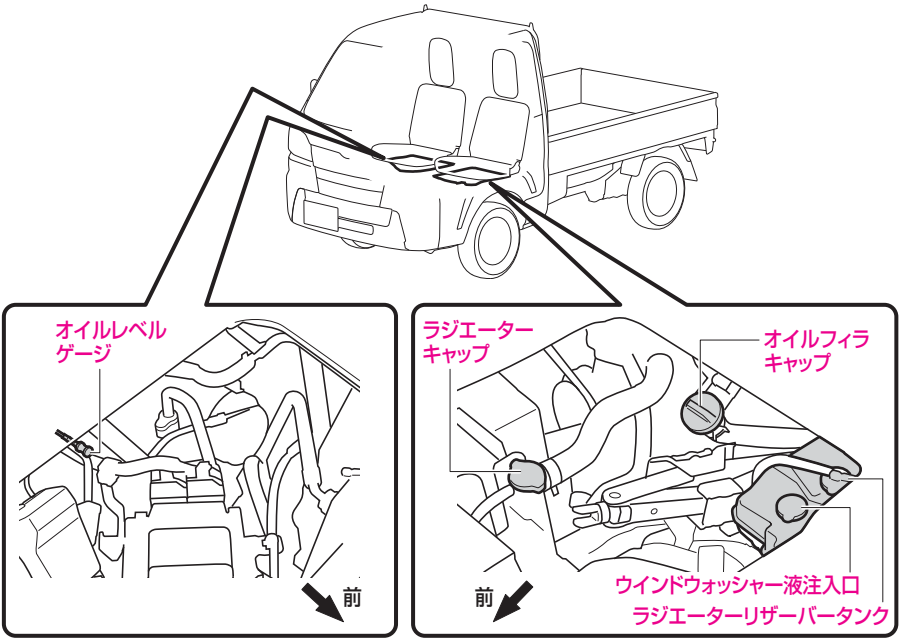
簡単な点検・部品の交換

車を安全、快適にご使用いただくには、日頃のお手入れが大切です。点検方法などは、別冊の「メンテナンスノート」に記載していますので、参照してください。

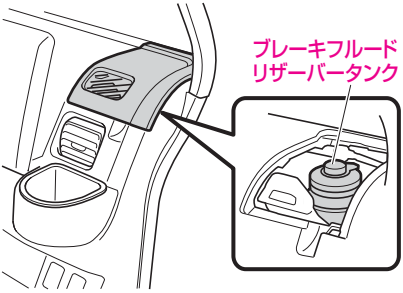
各部の点検

グレードの違い、注文装備も記載しています。

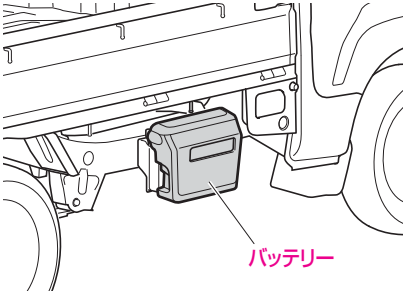
エンジンルーム



インストルメントパネル内



荷台の下



エンジンルームの開閉

エンジンルームは、シートの下にあります。

⚠ 警告

けがや事故を防ぐために

- エンジン回転中や停止後は、エンジンルームが大変高温になっていることがあります。やけどをするおそれがありますので、エンジンルームを開ける前に十分冷めていることを確認してください。
- 以下のことを必ずお守りください。お守りいただかないと、重大な傷害や思わぬ事故につながるおそれがあります。
  - エンジンルームを閉めたあとは、シート下のキャッチが確実にロックしたことを確かめてください。ロックが確実にされていないと、急ブレーキ時などにシートが動き、死亡事故や重大な傷害につながるおそれがあります。
  - エンジンルームを閉めるときは、手などを挟まないように注意してください。重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。
  - お子さまにエンジンルームの開閉はさせないでください。開閉中うっかり手を離すと手などを挟むなどして、重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

点検作業をしたあとは

- エンジンルーム内に工具や布を置き忘れていないことを確認してください。点検や清掃に使用した工具や布などをエンジンルーム内に置き忘れていると、故障の原因となったり、車両火災につながるおそれがあり危険です。

エンジンルームの開けかた / 閉めかた

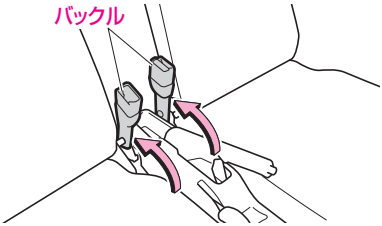
⚠ 警告

- シートを動かすときは、手などを挟まないように注意してください。重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

⚠ 注意

- シートをおろすときは、シートベルトのバックルを挟み込まないように注意してください。バックルが破損するおそれがあります。

▼ 開けかた

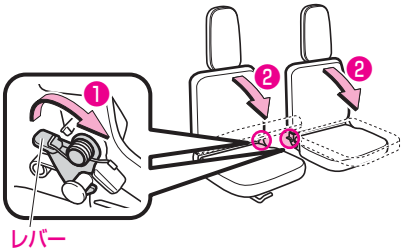


1 ハンドルを直進状態にする

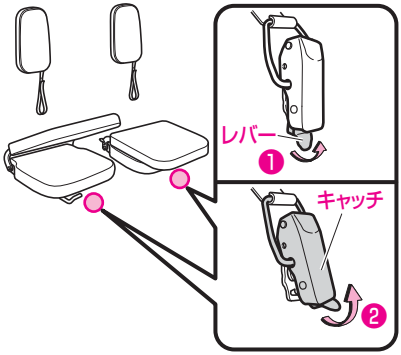
2 運転席シートを一番後ろまでスライドさせる

（シートの調整→76 ページ）

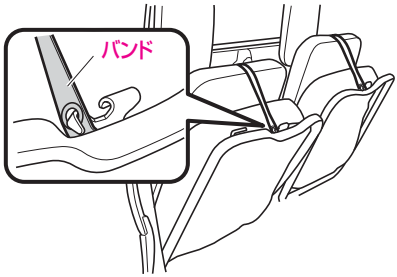
3 シートベルトのバックルを起こす



4 背もたれのロックを解除（❶）し、前に倒す（❷）



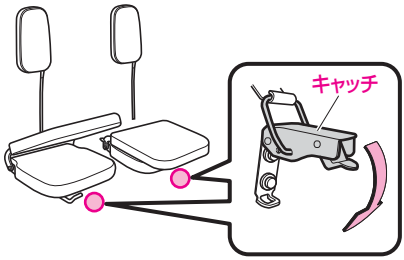
5 シート下部にあるキャッチのレバーを動かし（❶）、キャッチを引き上げる（❷）



6 シートを上げて、背もたれの後ろにあるバンドで固定する

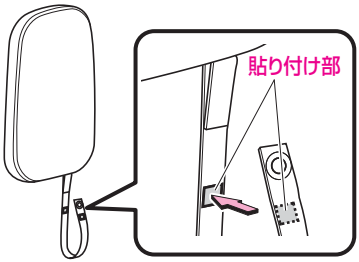
7 シートが確実に固定されたことを確認する

▼ 閉めかた



1 固定バンドを外し、シートを静かに下げる

2 シート下部のキャッチを確実にロックする



3 バンドを背もたれの後ろに収納する

●バンドは折って貼り合わせます。

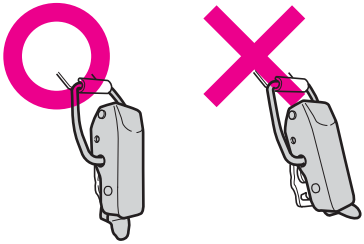
4 背もたれを起こして固定する

5 運転席シートのスライド位置を調整する

6 シートが確実に固定されたことを確認する

知識

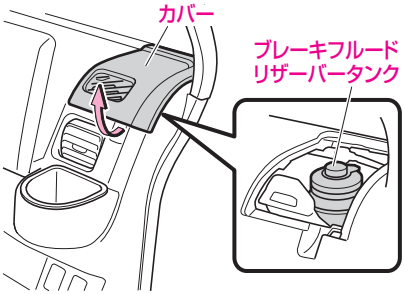
●キャッチをロックするときは、レバーが押し込まれ、確実にロックしたことを確認してください。



ブレーキフルードリザーバータンクカバーの外しかた

インストルメントパネルの中にブレーキフルードリザーバータンクがあります。

点検方法については、別冊の「メンテナンスノート」を参照してください。



▼ カバーの外しかた

- カバーの下側を矢印の方向に引く

⚠ 注意

- ブレーキフルードがこぼれたときは、すぐに水で濡れたタオルなどでふき取ってください。ブレーキフルードがこぼれた箇所が変色、変形するおそれがあります。

消耗品の補給、交換

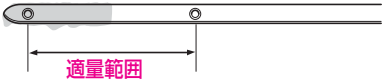
消耗品の補給、交換などは、別冊の「メンテナンスノート」に記載していますので、参照してください。

⚠ 警告

- エンジンルームは大変高温になっていることがあるため、下記のことをお守りください。
  - やけどをするおそれがありますので、点検するときは、十分に冷めてから行ってください。
  - 点検したあとは、エンジンルーム内に工具や布を置き忘れていないことを確認してください。点検や清掃に使用した工具や布などをエンジンルーム内に置き忘れていると、故障の原因となったり、車両火災につながるおそれがあり危険です。
- オイルを点検・交換するときは、オイルがオルタネーターなどに付着しないように行ってください。オイルが付着したときは、ただちに拭き取ってください。オイルが付着していると、車両火災につながるおそれがあり危険です。

エンジンオイル

エンジンオイルの量を定期的に点検してください。



オイルレベルゲージ

⚠ 注意

- エンジンオイルはエンジン内部の潤滑、冷却などをするはたらきがあります。通常の運転をしていてもピストンおよび吸気、排気バルブを潤滑しているオイルの一部が燃焼室などで燃えるためオイル量は走行とともに減少します。また、減少する量は走行条件などにより異なります。

知識

- 外気温が低いときに、オイルフィラキャップの裏側や、オイル注入口にエンジンオイルが白いクリーム状になって付着していることがあります。
  これは、エンジン内部の水蒸気が冷却されて水滴になり、エンジンオイルと混ざることにより発生するもので、外気温の上昇、エンジンの暖機等で水分が蒸発すると解消します。
  この現象によるエンジンオイルの変質はなく、そのまま使用しても、問題はありません。

冷却水

▼ 冷却水の点検について

ラジエーターリザーバータンクの側面の目盛りで行ってください。
詳しくは別冊の「メンテナンスノート」を参照してください。

⚠ 警告

- 水温が高いときは、ラジエーターキャップを外さないでください。冷却水の圧力がラジエーターキャップにかかっているので、蒸気や熱湯がふき出し、やけどなど重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。
- 冷却ファンに絶対に触れないでください。ファンが回転するため、手や衣服などが巻き込まれたりして思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

▼ 冷却水の補給について

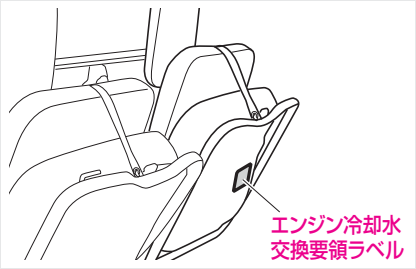
⚠ 注意

- ラジエーターリザーバータンクに冷却水がないときは、ラジエーターリザーバータンクおよびラジエーターに冷却水を補給したあと、エア抜きが必要になりますので、トヨタ販売店で点検を受けてください。

▼ 冷却水の交換について

⚠ 注意

- 冷却水の交換は、トヨタ販売店に依頼してください。
- 冷却水の交換要領は、助手席シート下に貼り付けてあるエンジン冷却水交換要領ラベルに記載しています。



ウインドウォッシャー液の補給

ウォッシャー液の量を定期的に点検してください。ウォッシャー液が不足しているときは、トヨタ純正ウインドウォッシャー液を補給します。

⚠ 警告

- エンジンが熱いときやエンジンがかかっているときはウォッシャー液を補給しないでください。ウォッシャー液にはアルコール成分が含まれているため、ウォッシャー液がエンジンなどにかかると、出火するおそれがあり危険です。

⚠ 注意

- ウォッシャー液のかわりに石けん水などを入れないでください。塗装のしみや目づまりになるおそれがあります。

知識

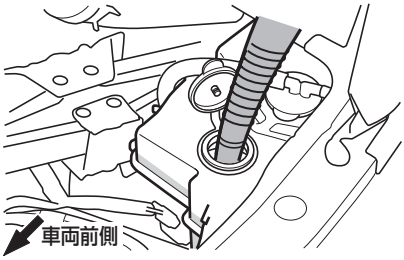
- ウインドウォッシャー液はトヨタ純正をおすすめします。ウォッシャー液の濃度の使い分けと注意事項はウォッシャー液の容器に記載されています。
- ウォッシャー液をあふれるほど入れないでください。

▼ 点検のしかた

ウォッシャータンクの側面から、液面を目視により確認します。

▼ 補給のしかた

ウォッシャータンクのキャップを外し、ウォッシャー液容器に表示してある凍結温度を参考に希釈して補給します。



タイヤの点検

タイヤ空気圧の点検

タイヤの空気圧の点検は、法的に義務付けられています。最低でも月に 1 回行ってください。

タイヤが冷えているときに、タイヤゲージで空気圧が規定値にあるかを点検してください。

空気圧が適正でない場合は、必ず指定空気圧に調整してください。

（タイヤの指定空気圧は運転席側ドア開口部に記載しています。）

⚠ 警告

- 指定空気圧より低いと車両の安定性を損なうばかりでなく、タイヤが偏摩耗や早期摩耗します。高速走行時にスタンディングウェーブ現象 * によりタイヤがバースト（破裂）するなど、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

知識

- タイヤが冷えているときとは、一般道路で走行距離が 1km 以下の場合、または 3 時間以上駐車している状態のことをいいます。
- タイヤが暖まっているときは、タイヤの中の空気が膨張しているので、約 20 ～ 30kPa（0.2 ～ 0.3 {kgf/cm^2}）空気圧が高くなっています。この場合、誤って空気圧を下げないようにしてください。

タイヤの亀裂、損傷

タイヤの側面や接地部全周に亀裂や損傷がないかを点検してください。

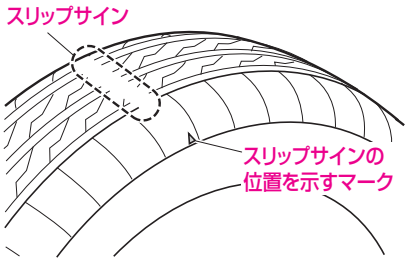
また、釘、石、その他の異物が刺さったり、かみ込んでいないかを点検してください。

⚠ 警告

- タイヤの側面などに傷や亀裂のあるような異常なタイヤを装着しないでください。
- 異常があるタイヤを装着していると、走行時にハンドルが取られたり、異常な振動を感じることがあります。
  また、バースト（破裂）など修理できないような損傷をタイヤにあたえたり、タイヤが横滑りするなど、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。走行中、異常な振動を感じた場合は、トヨタ販売店で点検を受け、正常なタイヤに交換してください。
- 異常があるタイヤを装着していると、車の性能（燃費・車両の安定性・制動距離など）が十分に発揮できないばかりでなく、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。また、部品に悪影響をあたえるなど故障の原因となることがあります。

* 高速で走行しているときに、タイヤが波うつ現象。

タイヤの溝の深さ、異常な摩耗



タイヤの溝の深さに不足がないかをスリップサイン（摩耗限度表示）により点検してください。

また、タイヤの接地面全周に極端にすり減っている箇所がないかを点検してください。

⚠ 警告

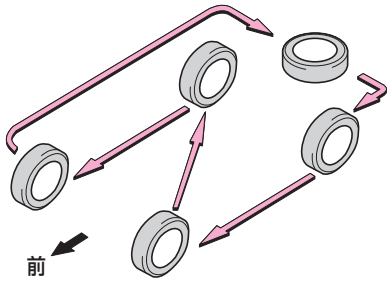
- 摩耗限度を超えたタイヤは使用しないでください。タイヤの溝の深さが少ないタイヤやスリップサイン（摩耗限度表示）が出ているタイヤをそのまま使用すると、制動距離が長くなったり、雨の日にハイドロプレーニング現象 * により、ハンドルが操作できなくなったり、タイヤがバースト（破裂）したりして、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。摩耗限度を超えたら、すみやかに正常なタイヤと交換してください。

タイヤのローテーション

タイヤは同じ位置で長く走ると、それぞれ異なった減りかたをします。これを防ぐために、タイヤの位置をローテーションしてください。

ローテーションは5,000km走行ごとに行ってください。

▼ ローテーションのしかた



図の順にローテーションしてください。

（タイヤの交換→ 221 ページ）

* 水のたまった道路を高速で走行すると、タイヤと路面の間に水が入り込み、タイヤが路面から浮いてしまい、ハンドルやブレーキが効かなくなる現象。

ワイパーの交換

⚠ 警告

- ワイパーブレード、ラバーを取り外したときは、ワイパーアームを倒さないでください。ウインドガラスに傷が付くおそれがあります。

⚠ 注意

- ワイパーブレード、ラバーはトヨタ純正をおすすめします。トヨタ純正以外を使用すると、適切に装着できない場合があります。
- 傷んだワイパーブレードラバーを使用し続けると、ウインドガラスを傷付けるおそれがあります。拭きむらがある場合は、早めに交換してください。
- 起こしたワイパーアームを戻すときは、手を添えながらゆっくりと戻してください。離れた位置から戻すと、ワイパーアームが変形したり、ウインドガラスに傷が付くおそれがあります。
- 確実に取り付けられていることを確認してからワイパーを作動させてください。ウインドガラスに傷が付くおそれがあります。

ワイパー

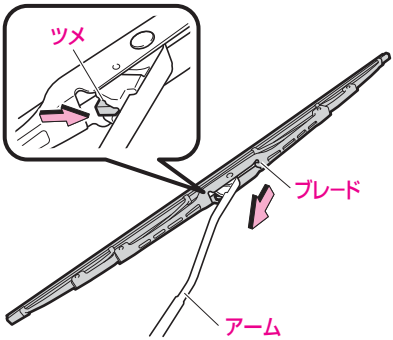
ワイパーブレード

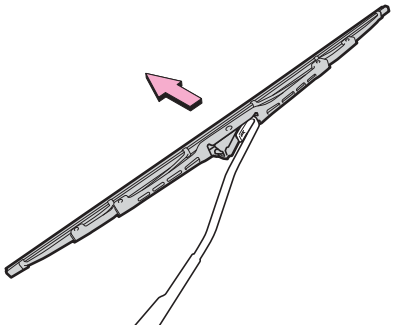
▼ 取り外しかた

1 アームを起こす

2 ブレードをツメが見える角度まで傾ける

3 ツメを押しながら、ブレードをスライドさせてアームから外す





▼ 取り付けかた

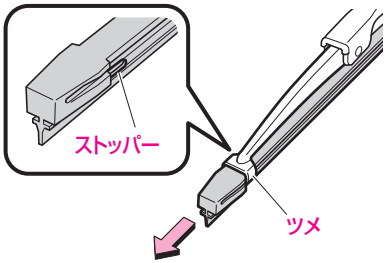
ブレードをアームに取り付ける

- ブレードとアームが確実に固定されていることを確認してください。

ワイパーブレードラバー

▼ 取り外しかた

1 ラバーのストッパーがブレードのツメから外れるまで引く



2 ラバーをそのままブレードから引き抜く

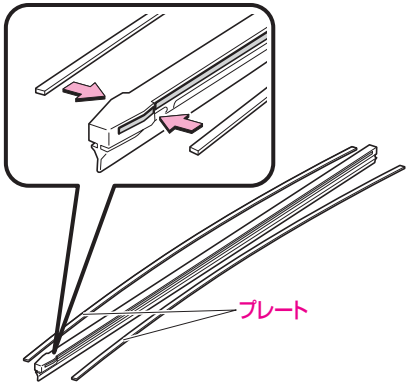
▼ 取り付けかた

1 プレートをラバーから取り外す

2 ラバーを交換する

3 プレートをラバーに差し込む

- プレートの反りの向きに注意してください。



4 ラバーはストッパーがない側からブレードに挿入する

5 ラバーのストッパーをブレードのツメで確実にとめる

⚠ 注意

- ストッパーが確実にとまっていないと、ウインドガラスに傷が付くおそれがあります。

知識

アームに取り付けるときは

- ストッパーのある側が運転席側になるように取り付けてください。

エアコンガス、フィルターの交換

エアコンガス

エアコンガスは新冷媒HFC134a(R134a)を使用しています。地球環境保全のため、大気放出しないでください。

知識

- エアコンガスの補充、エアコンの修理をする場合はトヨタ販売店にご相談ください。

クリーンエアフィルター

エアコンには、車外から侵入する粉じんなどを除去し、車内を快適な空気に保つクリーンエアフィルターが取り付けられています。快適にお使いいただくため定期的な交換をおすすめします。

- フィルターの交換については、トヨタ販売店にご相談ください。

スーパークリーンエアフィルター

花粉など、より細かい粉じんを除去するフィルターです。

- 交換の目安は 20,000km です。
  (大都市、寒冷地など交通量や粉じんが多い場所や山岳地、丘陵地など地域により花粉の多い場所は 10,000km です。)

クリーンエアフィルター

- 交換の目安は 20,000km です。
  (大都市、寒冷地など交通量や粉じんが多い場所は 10,000km です。)

⚠ 注意

- エアコンの風量が著しく減少したり、ガラスが曇りやすくなったときは、フィルターの目詰まりが考えられます。フィルターを交換してください。

ヒューズの交換

下記のような症状が見られるとヒューズ切れが考えられます。点検、交換を行ってください。

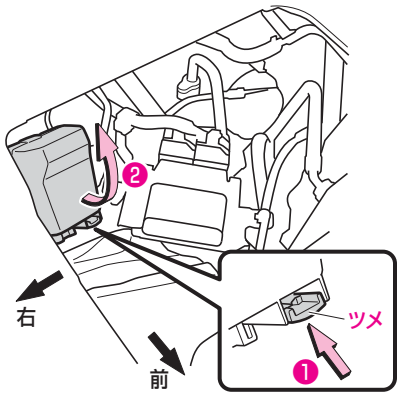
- ランプが点灯しない
- 電気系統の装置がはたらかない

下記の場合はトヨタ販売店で点検を受けてください。

- 交換しても再びヒューズが切れるとき
- 交換しても電気系統の装置がはたらかないとき

ヒューズの位置

エンジンルーム内（運転席下）

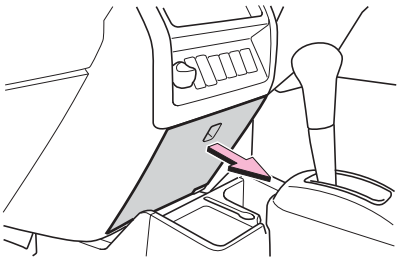


▼ カバーの取り外しかた

1 エンジンスイッチを“LOCK”にする

2 カバー横のツメを押しながら（❶）、取り外す（❷）

インストルメントパネル中央



▼ カバーの取り外しかた

1 エンジンスイッチを“LOCK”にする

2 カバーの穴に指をかけ、矢印の方向に引く

ヒューズの点検と交換

各ヒューズの配置と容量

▼ エンジンルーム内

ヒューズボックスカバーに表示しています。

▼ インストルメントパネル中央

ヒューズボックスカバーの裏側に表示しています。

知識

- グレードやオプション装備によって、所定の位置にヒューズが無い場合があります。
  また、装置がなくてもヒューズだけがついている場合があります。

ヒューズの点検・交換方法

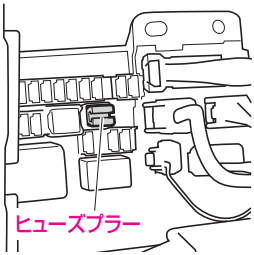
⚠ 警告

- 規定容量以外のヒューズを使用しないでください。配線が過熱、損傷し、火災につながるおそれがあり危険です。

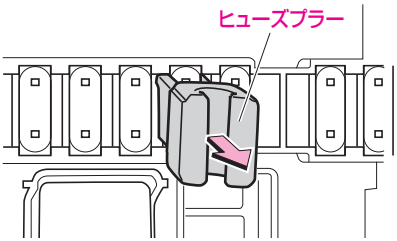
知識

- 交換してもすぐに切れてしまうときは、トヨタ販売店で点検を受けてください。

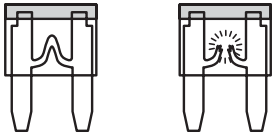
1 ヒューズプラーをインストルメントパネル中央のヒューズボックスから取り出す



2 ヒューズをヒューズプラーで挟んで外す



3 取り外したヒューズを点検する



▼ ヒューズが切れているときは

- 規定容量のヒューズと交換してください。

▼ ヒューズが切れていないときは

- ほかに原因が考えられます。トヨタ販売店で点検を受けてください。

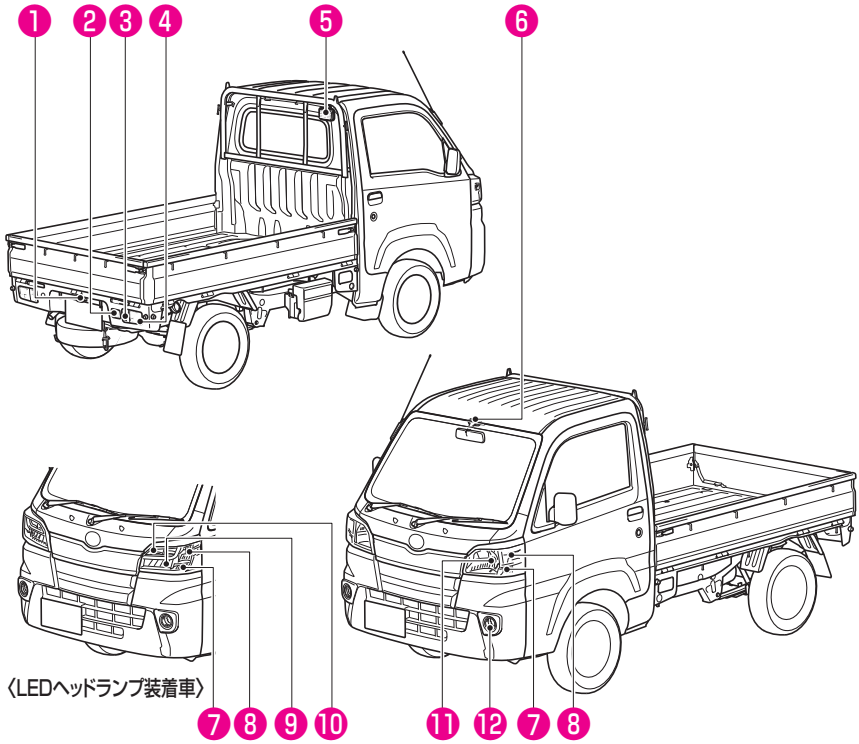
電球（バルブ）交換

ヒューズが切れていないにも関わらず、ランプが点灯しないときは、電球切れが考えられますので、電球を点検し、切れている場合は電球を交換してください。

- 電球の交換作業に不慣れな方や、部品などの破損が心配な場合は、トヨタ販売店にご相談ください。
- 電球の交換作業をするときに必要な工具は、カー用品店などでご購入することができます。

バルブの位置

グレードの違い、注文装備も記載しています。



電球（バルブ）			W(ワット)数
❶	番号灯		10
❷	後退灯		16
❸	後面方向指示灯 兼 非常点滅灯		16
❹	制動灯/尾灯		21/5
❺	荷台作業灯		21
❻	ルームランプ		8
❼	車幅灯	ハロゲンヘッドランプ装着車	5
		LEDヘッドランプ装着車	LED
❽	前面、側面方向指示灯 兼 非常点滅灯		21
❾	前照灯(Low)	LEDヘッドランプ装着車	LED
❿	前照灯(Hi)	LEDヘッドランプ装着車	LED
⓫	前照灯(Hi/Low)	ハロゲンヘッドランプ装着車	60/55
⓬	フォグランプ		35

⚠ 注意

- 電球は上記のワット数のものと交換してください。大きなワット数のものに交換すると、過熱による故障や車両火災の原因につながるおそれがあります。

知識

LED ランプについて

- LED を使用しているランプは、LED のみの交換をすることができません。点検・交換の際は、トヨタ販売店にご相談ください。

電球の交換

⚠ 警告

- 電球を交換するときは、ランプを消灯させ電球が冷えている状態で行ってください。電球が熱い状態で、電球やその周辺を触ると、やけどをするおそれがあり危険です。
- 電球および電球固定具の取り付けが不完全な場合、発熱や発火、および水入りなどによる故障、レンズ内面の曇りにつながるおそれがあります。
- 電球、ソケット、電気回路、および構成部品を修理、分解しないでください。感電により、生命にかかわる重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

⚠ 注意

- 同じバルブ色の電球以外は使用しないでください。道路運送車両の保安基準に適合しない場合があります。
- 前照灯（フォグランプ含む）などに使用しているハロゲン電球は、ガラス球内部の圧力が高いため、落としたり、物をぶつけたり、傷を付けたりすると破損して、ガラスが飛び散る場合がありますので、十分注意して取り扱ってください。
  また、電球のガラス部は、素手で触れずにきれいな手袋を着用してください。油脂が付着すると、発熱による早期電球切れを起こします。
- 電球を交換しても点灯しない場合は、電球切れ以外の理由が考えられます。トヨタ販売店で点検を受けてください。

知識

レンズ内の水滴と曇りについて

- ヘッドランプやリヤコンビネーションランプなどは、雨天走行や洗車などの使用条件によりレンズ内面が一時的に曇ることがあります。これはランプ内部と外気の温度差によるもので、雨天時などに窓ガラスが曇るのと同様の現象であり、機能上の問題はありません。
  ただし、レンズ内面に大粒の水滴が付いているときやランプ内に水がたまっているときは、トヨタ販売店にご相談ください。

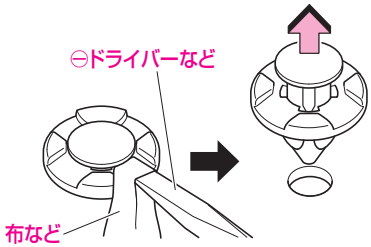
交換作業をするときは

⚠ 注意

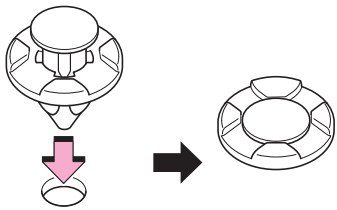
- ⊖ドライバーなどを使用するときは、布などを巻いてください。クリップ、レンズなどに傷が付くおそれがあります。
- ランプ本体やレンズを取り外すときは、ボデーに傷を付けないように注意してください。
- ネジなどでレンズを取り付けるときは、締めすぎないようにしてください。レンズを破損するおそれがあります。

ヘッドランプ上側のカバーを固定しているクリップは、以下の手順で脱着します。

1 取り外すときは、⊖ドライバーなどで中央部を浮かしたあと、クリップ全体を引っ張る



2 取り付けるときは、取り外した状態のまま差し込み、中央部を押し込む



ヘッドランプ本体の取り外し、取り付け

以下の電球を交換するときは、ヘッドランプ本体を取り外します。

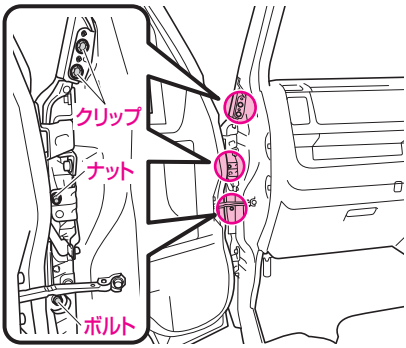
- 前照灯
- 車幅灯
- 前面、側面方向指示灯 兼 非常点滅灯

（取り外し、取り付け方法 → 193, 194 ページ）

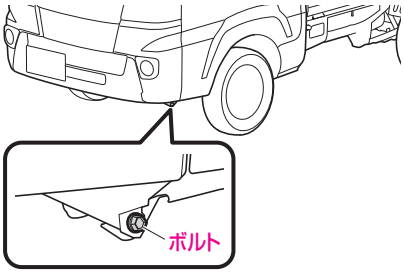
▼ ランプ本体の取り外し手順

1 ドアを全開にする

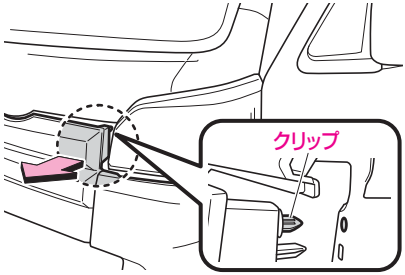
2 ドア開口部からクリップ（2 個）とナット（1 個）、ボルト（1 本）を取り外す



3 フロントバンパー下部のボルト（1 本）を取り外す

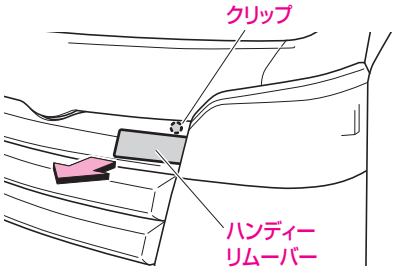


4 バンパーを車両前方に引いてクリップを外し、上部を浮かせる

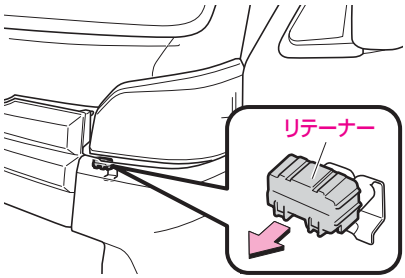


知識

- バンパーのかん合は、市販のハンディーリムーバー（幅広タイプ）を使用すると、外しやすくなります。

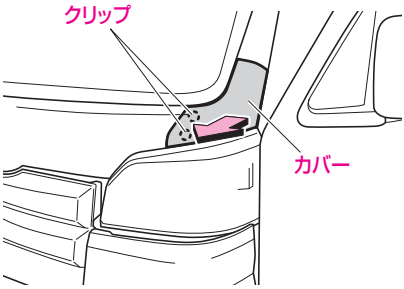


5 バンパーのすき間から、ヘッドランプの下にあるリテーナーを取り外す



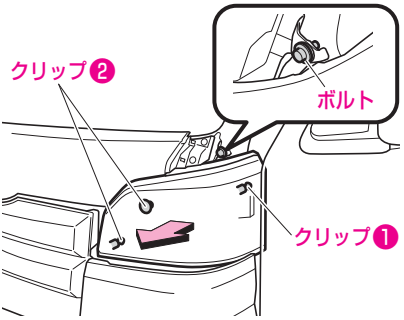
6 ヘッドランプ上側のカバーを取り外す

●カバーを車両前方に引くとクリップ（2カ所）が外れます。



7 ボルトを取り外し、ランプ本体を車両前方に引いて取り外す

●クリップのかん合は（❶）、（❷）の順に外します。

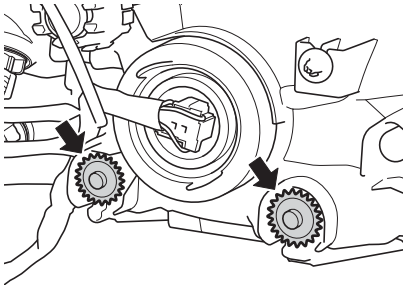


⚠ 注意

●バンパーを引っかけないように注意してください。
ランプ本体、および車両に傷が付くおそれがあります。

📖 知識

●ヘッドランプの光軸がずれるおそれがあるため、光軸調整用のネジに触れないでください。



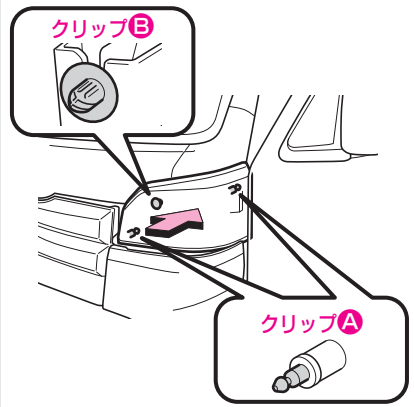
●電球を交換したあとは、トヨタ販売店でヘッドランプの光軸の点検を受けてください。

▼ ランプ本体の取り付け手順

逆の手順で行います。

⚠ 注意

●ランプ本体のクリップⒶ、Ⓑを車両側へ確実に差し込んでください。
クリップⒶ、Ⓑが差し込まれていない状態で取り付けると、ランプ本体、および車体が損傷したり、走行中に脱落するおそれがあります。



前照灯

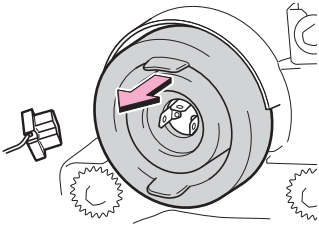
ハロゲンヘッドランプ装着車

▼ 取り外し手順

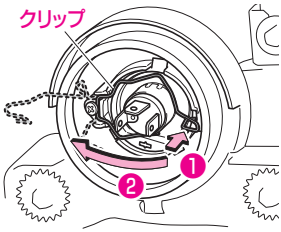
1 ヘッドランプ本体を取り外す

（ヘッドランプ本体の取り外し、取り付け →191 ページ）

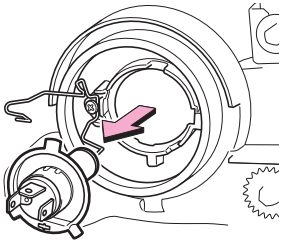
2 コネクターを取り外したあと、カバーを取り外す



3 クリップのロックを外し（❶）、矢印の方向（❷）に外す

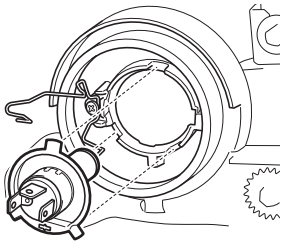


4 バルブを取り外す



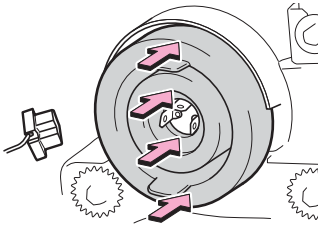
▼ 取り付け手順

1 バルブの突起部をヘッドランプ本体の溝にはめ込む



2 クリップを確実にフックに取り付け、バルブを固定する

3 矢印の方向にカバーを押さえて、確実にカバーを取り付けたあと、コネクターを取り付ける



4 ヘッドランプ本体を取り付ける

（ヘッドランプ本体の取り外し、取り付け →191 ページ）

車幅灯

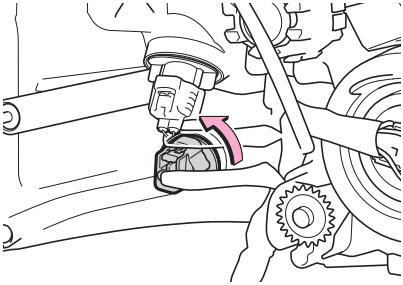
ハロゲンヘッドランプ装着車

▼ 取り外し手順

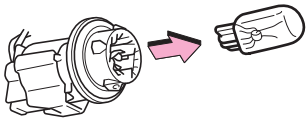
1 ヘッドランプ本体を取り外す

（ヘッドランプ本体の取り外し、取り付け →191 ページ）

2 ソケットを回して取り外す



3 ソケットから電球を引き抜く



▼ 取り付け手順

逆の手順で行います。

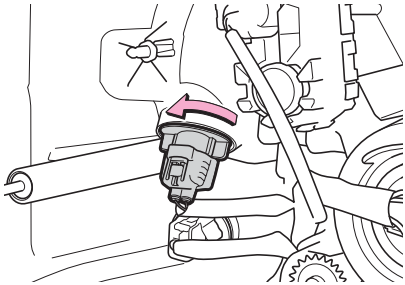
前面、側面方向指示灯 兼 非常点滅灯

▼ 取り外し手順

1 ヘッドランプ本体を取り外す

（ヘッドランプ本体の取り外し、取り付け →191 ページ）

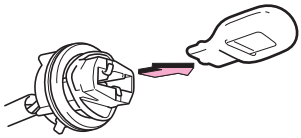
2 ソケットを回して取り外す



3 ソケットから電球を取り外す

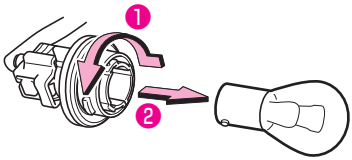
LED ヘッドランプ装着車

- 電球を引き抜きます。



ハロゲンヘッドランプ装着車

- 電球を押しながら回して（❶）、外します（❷）。



▼ 取り付け手順

逆の手順で行います。

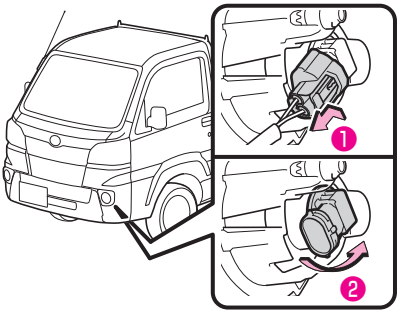
フォグ ランプ

オプション / グレード別装備

▼ 取り外し手順

1 車両の下側からコネクターのツメ（❶）を押して、コネクターを取り外す

2 バルブを回して（❷）取り外す



▼ 取り付け手順

逆の手順で行います。

後面方向指示灯 兼 非常点滅灯
制動灯／尾灯
後退灯

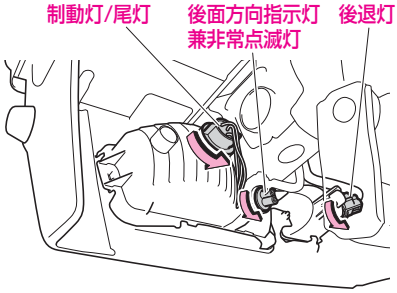
⚠ 警告

左側の電球を交換するときは

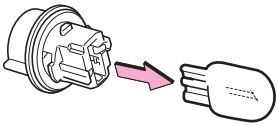
- マフラーに触れないようにしてください。エンジンがかかっているときやエンジン停止直後のマフラーは高温になっているため、やけどをするおそれがあります。

▼ 取り外し手順

1 交換する電球のソケットを回して取り外す



2 ソケットから電球を引き抜く



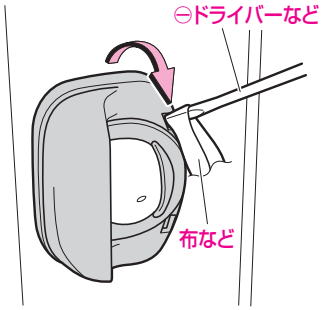
▼ 取り付け手順

逆の手順で行います。

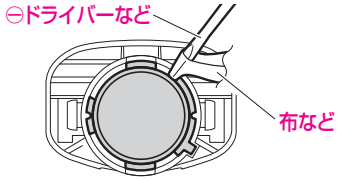
番号灯

▼ 取り外し手順

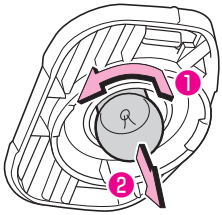
1 ⊖ドライバーなどを差し込んで、カバーを取り外す



2 ⊖ドライバーなどを差し込んで、レンズを取り外す



3 電球を押しながら回して（❶）、外す（❷）



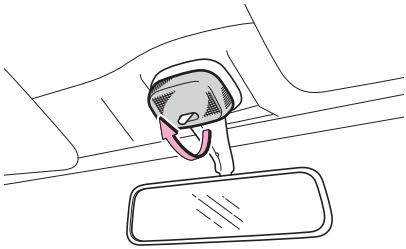
▼ 取り付け手順

逆の手順で行います。

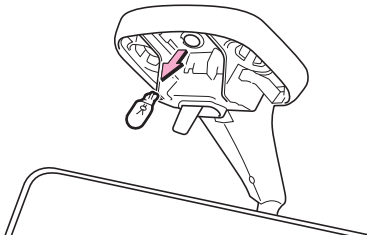
ルームランプ

▼ 取り外し手順

1 カバーを矢印の方向に引いて取り外す



2 電球を取り外す



▼ 取り付け手順

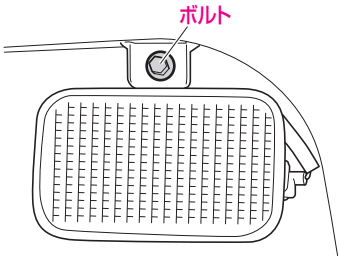
逆の手順で行います。

荷台作業灯

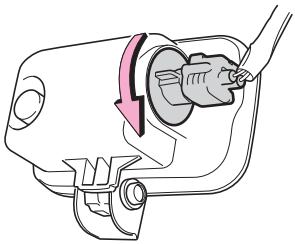
オプション / グレード別装備

▼ 取り外し手順

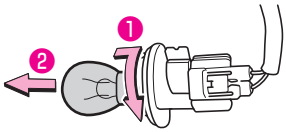
1 ボルト（1本）を取り外し、ランプ本体を取り外す



2 ソケットを回して取り外す



3 電球を押しながら回して（❶）、外す（❷）



▼ 取り付け手順

逆の手順で行います。

キーの電池交換

キーレスエントリー装着車

次のようなときは、キーの電池消耗が考えられます。早めに電池を交換してください。

- スイッチを押しても作動しない
- 著しく作動距離が短くなった
- インジケーターが点灯しない

電池は、お客様自身で交換できますが、破損などのおそれがあるため、トヨタ販売店での交換をおすすめします。

交換方法

⚠ 警告

- 電池および取り外した部品は、お子さまが飲み込まないようにご注意ください。飲み込むと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

⚠ 注意

- 電池を交換するときは以下のことに注意してください。故障の原因になるおそれがあります。
  - 濡れた手で電池交換をしない
  - 電子部品に触れたり、端子を曲げたりしない
  - 油や異物を入れない

知識

- 電池はトヨタ販売店・時計店およびカメラ店などで購入できます。

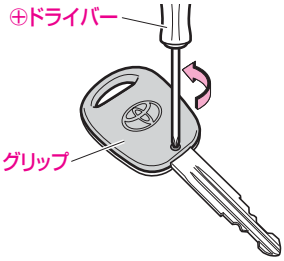
交換手順

▼ 用意するもの

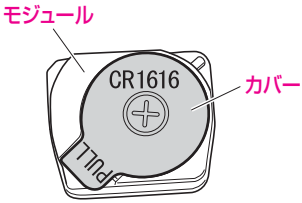
- 「CR1616（3V）」の新しい電池
- 小さい ⊕ドライバー

1 メインキーのグリップを外す

- 小さい ⊕ドライバーで、ネジ（1 本）を外して、クリップを外します。

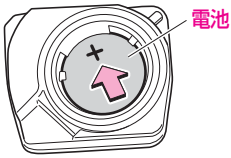


2 モジュール裏側のカバーを外す



3 電池を取り出す

- 矢印方向に軽く押し込むと、電池が外れます



4 新しい電池と交換する

- 電池は ⊕ 極を上側にして取り付けます。

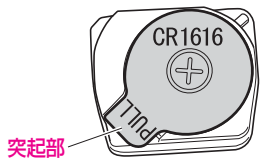
5 カバーとモジュール、およびグリップを取り付ける

- カバーを突起部からはめ込み、全体を均等に押さえてください

⚠ 注意

カバーをはめ込むときは

- 確実にはめ込んでください。浮いたりしていると、水、ほこりなどが入り、故障の原因になるおそれがあります。



6 スイッチを押したとき、インジケーターが点滅することを確認する

積雪、寒冷時の取り扱い

積雪、寒冷時の取り扱い
冬に向かってのお手入れ … 202
走行前点検と準備 …… 203
積雪、寒冷時の走行 …… 204
走行中の点検と注意 …… 205
走行後の取り扱い …… 206

積雪、寒冷時の取り扱い

冬に向かってのお手入れ

点検方法などは、別冊の「メンテナンスノート」に記載していますので、参照してください。

バッテリー

気温が下がるとバッテリーの性能が低下しエンジン始動に支障をきたすことがありますので、液量、比重の確認をし、必要に応じて液の補給や補充電をしてください。

エンジンオイル

冬期はオイルの劣化が激しくなります。指定グレードのエンジンオイルを、早めに交換してください。

冷却水

冷却水の凍結を防ぐためにクーラント（不凍液）の濃度の確認をトヨタ販売店に依頼してください。

ウインドウォッシャー液

ウォッシャー液の凍結を防ぐために、ウォッシャー液の濃度を上げてください。

寒冷地用ワイパーブレード

降雪期に使用する寒冷地用ワイパーブレードは、雪が付着するのを防ぐために金属部分をゴムでおおってあります。
寒冷地用ワイパーブレードは、トヨタ販売店で各車指定のブレードをご購入ください。

知識

- 高速走行時は、通常のワイパーブレードよりウインドガラスがふき取りにくくなることがあります。その場合は速度を落として走行してください。

走行前点検と準備

走行前点検の際に下記の点検も行ってください。

足回りなどの着氷

車の下回りをのぞいて、足回りなどに氷塊が付着していないか確認してください。付着している氷塊は、部品を損傷しないように十分注意して取り除いてください。ペダル類やハンドルの動きが円滑かどうかも確認してください。

車体への積雪

屋根に積もった雪は、走行する前に取り除いてください。走行時、ガラス面に落下すると視界のさまたげとなり危険です。

⚠ 注意

- 氷結している部分を無理に取り除くと塗装などをいためる場合がありますので注意してください。

ドアの凍結

ドアが凍結した場合は無理に開けようとするとドア周りのゴムがはがれたり、破損するおそれがあります。ぬるま湯をかけて氷をとかしてください。開けたあとは水分をよくふき取ってください。不十分ですとまた凍結することがあります。

ウインドガラスの凍結

凍結しているときは、ぬるま湯をかけて氷をとかし、水分をよくふき取ってください。

⚠ 注意

- 氷をとかすときはぬるま湯を使用し、熱湯はかけないでください。ウインドガラスが割れるおそれがあります。
- フロントウインドガラスに付いた氷を取り除くために、氷をたたいて割らないでください。フロントウインドガラスの内側（車内側）が割れるおそれがあります。

ワイパーなどの凍結

ワイパー、ドアミラー、ドアガラスなどが凍ったり、雪が固まって動かないときは、ぬるま湯をかけて氷や雪をとかし、水分をふき取ってください。

⚠ 注意

- 凍結したまま、または雪が固まったままワイパー、ドアミラー、ドアガラスなどを無理に作動させると、ワイパーゴムを損傷したり、モーターなどが故障するおそれがあります。

乗車時の注意

靴にこびりついた雪は、乗車時によく落としてください。ペダル類を操作するときに滑ったり、室内の湿気が多くなりガラスが曇ったりすることがあります。また、床面などが加湿状態となり、腐食の原因となります。

積雪、寒冷時の走行

雪道、凍結路を走るときはタイヤチェーンまたは冬用タイヤを装着してください。

⚠ 警告

- 積雪時は、スピードを控えめにしてください。路面が凍結している可能性が高く、大変スリップしやすくなり、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
  チェーン装着車、冬用タイヤ装着車、また 4WD 車であっても慎重な運転をしてください。

タイヤチェーンの装着

- 後輪駆動車ですので、チェーンは後 2 輪に装着します。
- 4WD 車も後 2 輪に装着します。
- チェーンはタイヤサイズに合った物をご使用ください。
  - トヨタ純正品のチェーンのご使用をおすすめします。
    トヨタ純正品以外のチェーンの中には、使用すると車体に当たり、走行のさまたげとなるおそれがあるものもあります。
    詳しくはトヨタ販売店にご相談ください。

⚠ 警告

- 作業をするときは、車体端部などでけがをしないように注意してください。

⚠ 注意

- タイヤチェーンは車のタイヤサイズに合った、トヨタ純正品または指定サイズの物を使用してください。サイズの合わないチェーンを使用すると、ブレーキ配管や車体を破損し、危険です。

⚠ 注意

- タイヤチェーンの取り付けは各タイヤチェーン付属の取扱説明書にしたがって行ってください。
- タイヤチェーン装着時は 30km/h 以上で走行しないでください。タイヤチェーンにかかる負担が大きくなり、チェーンが切れやすくなります。
- 取り付け作業は雪上などをさけ交通のさまたげにならない安全で平らな場所で行ってください。必ず駐車ブレーキをかけ、非常点滅灯を点滅させ、人や荷物は降ろし、停止表示板も使用してください。

冬用タイヤの装着

⚠ 警告

- 冬用タイヤは必ず標準タイヤと同じ指定サイズのタイヤを使用してください。指定サイズ以外のタイヤを使用すると安全性を損ない大変危険です。
- タイヤは 4 輪とも指定サイズで、同一サイズ、同一メーカー、同一銘柄および同一トレッドパターン（溝模様）の物を装着してください。
- タイヤの空気圧を確認してください。
  （タイヤの空気圧は運転席側ドア開口部に記載しています）
- 地方により条例の違いがありますので、その地区の条例にしたがってください。

走行中の点検と注意

ブレーキの凍結

積雪、寒冷時ではブレーキ装置に付着した水が凍結し、ブレーキの効きが悪くなることがあります。効きが悪い場合は、周囲の安全に十分注意して効きが回復するまで、数回ブレーキペダルを軽く踏んでブレーキが正常に働くことを確認してください。

⚠ 警告

- 万一、ブレーキの効きが回復しないときは、ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。

雪道、凍結路の注意

⚠ 警告

- 雪道や凍結路では、急加速、急減速、急ブレーキ、急ハンドルをさけてください。車両が思わぬ動きをして事故につながるおそれがあり危険です。

走行中の雪の付着

雪道走行時、タイヤハウス裏側に付着した雪が氷結し、次第にたい積してハンドルのきれが悪くなることがあります。ときどき異常のないことを確認してください。ランプ類などは、走行中に雪のために暗くなることがあるので、ときどき異常のないことを確認してください。

走行後の取り扱い

駐車方法

屋外に駐車するときは、車の前部を風下や日の当たる方向に向けて止めてください。
エンジンが冷えすぎると、始動しにくくなることがあります。
また、ワイパーアームは起こしてください。雪の重みでワイパーアームが変形したり、ブレード部（ゴムの部分）が、ガラスに凍結したりすることがあります。

⚠ 警告

- 雪が積もった場所や降雪時に駐車するときは、エンジンをかけたままにしないでください。エンジンをかけた状態で車の周りに雪が積もると、排気ガスが車内に侵入し、重大な健康障害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
- エンジンの冷えすぎを防ぐために毛布でおおったり、フロントバンパー開口部に段ボールや、新聞紙を挟み込まないでください。これがもとで燃え出す危険があります。

⚠ 注意

- 寒冷時は駐車ブレーキをかけるとブレーキ装置が凍結して駐車ブレーキが解除できなくなるおそれがあります。駐車ブレーキをかけずにシフトレバーをオートマチック車は Ⓟ レンジ、マニュアル車は 1 速または Ⓡ（後退）に入れて、輪止め * をしてください。

知識

- 軒下や樹木の下での駐車はさけてください。落雪で車体を損傷するおそれがあります。
- 降雪時に長時間駐車するときは、アンテナを収納してください。

（アンテナ→ 134 ページ）

洗車方法

凍結防止剤をまいた道路を走行したときは、早めに下回りと足回りを洗車してください。放置すると腐食の原因となります。洗車後は凍結防止のため水分をよくふき取ってください。

知識

- ドアのキー挿入口やドア周りのゴム部の水分は特によくふき取ってください。

* 輪止めはトヨタ販売店で購入できます。

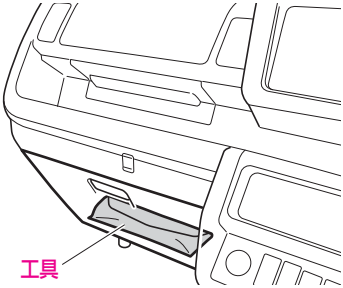
いざというときに

工具類
格納場所 …… 208
ジャッキの使いかた …… 210
いざというときの処置
エンジンが
かからないとき …… 214
スタック（立ち往生）
したとき …… 214
故障したとき …… 215
けん引されるとき …… 217
パンクしたとき …… 220
タイヤの交換 …… 221
バッテリーあがりの処置 … 225
オーバーヒートの処置 …… 227
キーを閉じ込めたとき …… 229
車両を緊急停止するには … 229
事故が起きたとき …… 230

工具類

格納場所

工具の位置



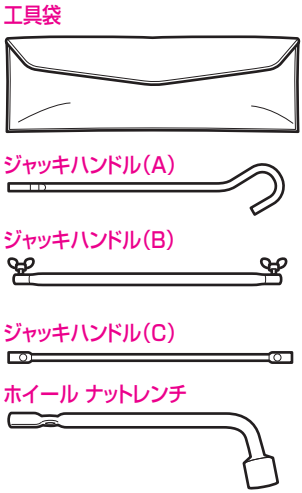
● グローブボックス内に収納しています。

知識

工具を収納するときは

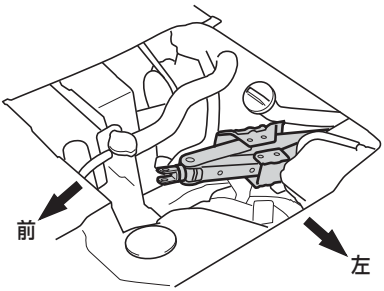
● 付属のゴムバンドで工具袋の中央部を締め付けて軽く振り、工具がぶつかる音がしないことを確認してください。

▼ 工具袋



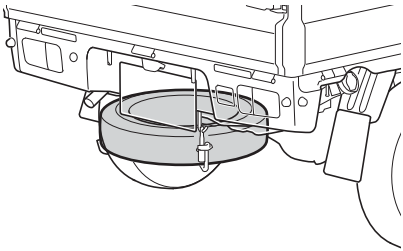
（ジャッキの使いかた→ 210 ページ）
（けん引されるとき→ 217 ページ）
（タイヤの交換→ 221 ページ）

ジャッキの位置



● 助手席側シート下部（エンジンルーム内）に収納しています。
（エンジンルームの開閉→ 173 ページ）

スペアタイヤの位置



● テールゲート下部に収納しています。

⚠ 警告

ジャッキを使用するときは

- 必ずエンジンを停止し、エンジンが十分冷えた状態で取り外してください。エンジンの回転部分や電気部分で思わぬけがをしたり、高温部分でやけどをするおそれがあり危険です。
- エンジン停止後は、ジャッキが熱くなっていることがありますので、ジャッキが十分に冷めているのを確認してから取り外してください。ジャッキが熱い状態で触ると、やけどをするおそれがあり危険です。
- スペア タイヤ、ジャッキ、工具は所定の位置にしっかり固定してください。室内などに放置すると、急ブレーキ時などに工具が体に当たるなど、大変危険です。
- スペアタイヤに足をかけないでください。スペアタイヤキャリアが変形し、スペアタイヤがガタつき、外れて落下するおそれがあります。

ジャッキの使いかた

⚠警告

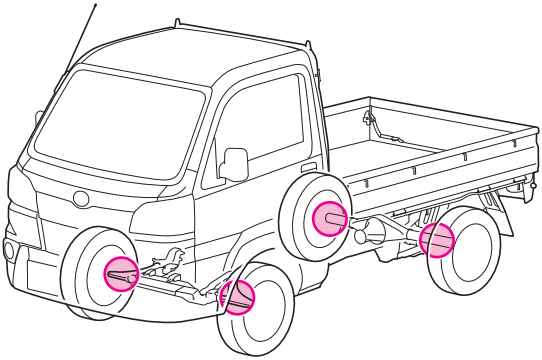
- ジャッキアップした車の下には絶対にもぐらないでください。万一ジャッキが外れると身体が車の下敷きになり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあり危険です。
- ジャッキアップするときはジャッキの上や下に物を挟まないでください。
- ジャッキアップするときは、必ず、駐車ブレーキをかけ、オートマチック車はシフトレバーを Ⓟ レンジに、マニュアル車は 1 速に入れて、輪止めをしてください。車が動き出すおそれがあり危険です。
- ジャッキは砂や石ころのない安定した平らなかたい場所を選んでセットしてください。ジャッキアップしたとき、車が動き思わぬ事故につながるおそれがあります。
- 車に備え付けのジャッキは、タイヤの交換、タイヤチェーンの脱着以外には使用しないでください。
- ジャッキアップするときは、交換するタイヤと対角線上にあるタイヤの前後に輪止めをしてください。
- ジャッキは、セット位置以外にかけないでください。外れたり、車を損傷するおそれがあります。
- ジャッキアップするときは、人や荷物を車から降ろしてください。
- ジャッキは、伸ばすほど不安定になります。タイヤが地面から 3cm 以上離れないようにしてください。
- ジャッキアップしているときは、エンジンをかけないでください。
- タイヤのローテーション時などに、車載のジャッキを用いて、両車輪同時に上げるようなことはしないでください。接地しているタイヤが動き、車体がずれるおそれがあります。
- 車に備え付けのジャッキは、お客様のお車専用です。ほかの車に使用したり、ほかの車のジャッキをお客様のお車に使用しないでください。車を損傷したり、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

ジャッキをセットする位置

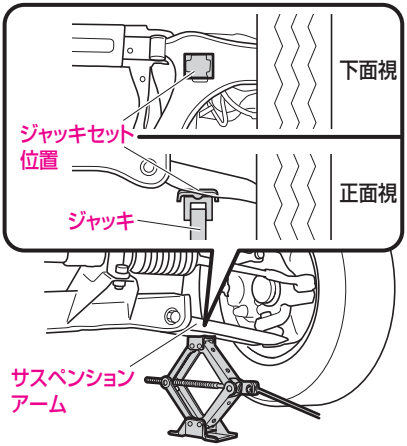
取り替えるタイヤに近いジャッキセット位置にセットします。

⚠ 注意

- ジャッキは必ずジャッキセット位置にセットしてください。



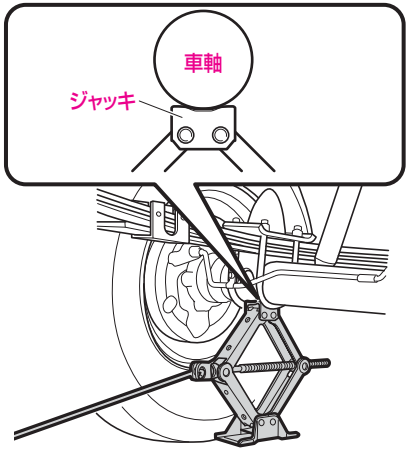
フロント



知識

- 図のジャッキセット位置からずれないように、ジャッキ頭部の中心とジャッキセット位置の凸部分を合わせてセットしてください。

リヤ

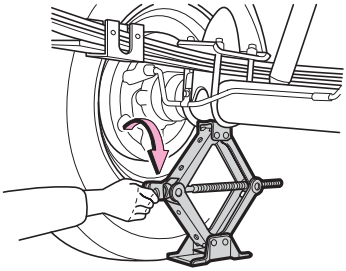


知識

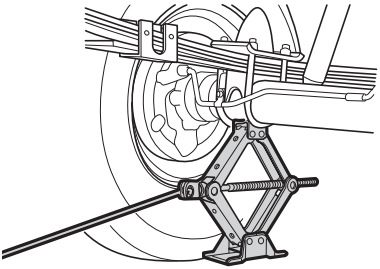
- ジャッキは車軸に対して直角に合わせ、ジャッキ頭部の中心と車軸の中心を合わせてセットしてください。

ジャッキのかけかた

▼ 操作手順



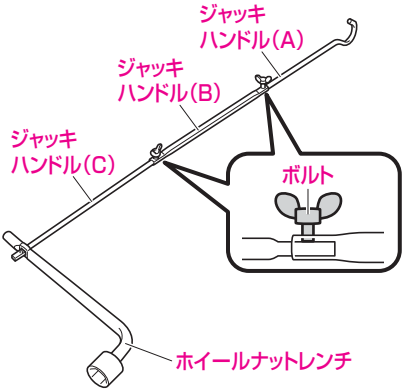
1 ジャッキを手で回して、セット位置まで上げる



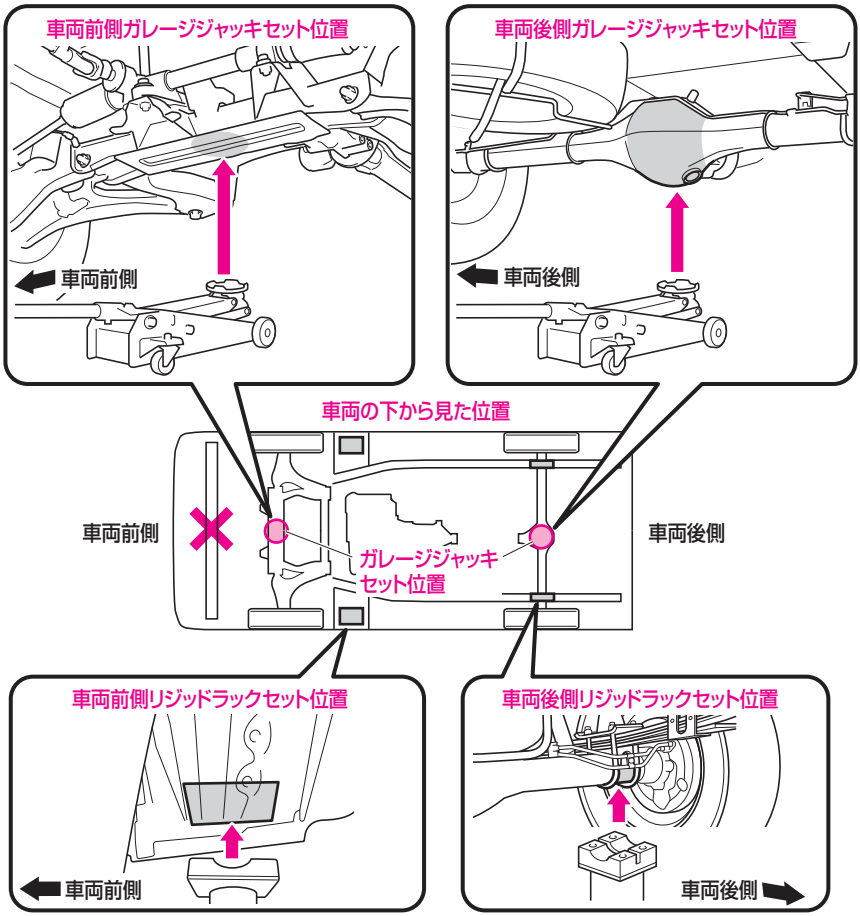
2 ジャッキが確実にセット位置にかかっていることを確認し、ジャッキハンドルを使って、タイヤが地面から少し離れる位置まで車を持ち上げる

知識

● ジャッキハンドルは図のように組み立てて使用してください。



ガレージジャッキ（市販品）を使用する場合



ガレージジャッキを使用する場合は、図のガレージジャッキ位置にセットしてジャッキアップを行ってください。その際は、必ずリジッドラック（市販品）をリジッドラックセット位置にセットしてください。

⚠ 警告

- ガレージジャッキおよびリジッドラックは、必ず正しい位置にセットしてください。正しい位置にセットしていないと、けがをしたり、車が損傷したりするおそれがあります。

⚠ 注意

- リジッドラックはアタッチメント（受けゴム）付きを使用してください。アタッチメントが無いと車体が損傷するおそれがあります。

いざというときの処置

エンジンがかからないとき

燃料カットシステム

外部から強い衝撃を受けてエンジンが止まってしまった場合、燃料カットシステムが作動している可能性があります。燃料カットシステムはエンジンへの燃料の供給を停止させることにより火災などの二次災害を防止する装置です。

▼ エンジンを再始動するには

エンジンを再始動する際にはエンジンスイッチを“LOCK”または“ACC”に戻してから行ってください。

⚠ 警告

- 燃料漏れのおそれがあるとき、また、燃料のにおいがするときは、エンジンを再始動せずに、お近くのトヨタ販売店にご連絡ください。

スタック（立ち往生）したとき

スタックから脱出するには

ぬかるみや砂地、深雪路などでタイヤが空転したり、埋まり込んで動けなくなったときは、下記の手順にしたがって脱出操作をしてください。

▼ 脱出操作をする前に

⚠ 警告

- 必ず周囲に他の車、物、または人がいないことを十分に確認してください。
  スタックから脱出する際に、車が前後に飛び出したり、あてがった石や木が飛散したりするおそれがあり危険です。
- シフトレバーを操作するときは、アクセルペダルを踏んだまま操作しないでください。車が急発進したり、トランスミッションなどに重大な損傷をあたえるなどして思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
- タイヤを高速で回転させないでください。タイヤがバースト（破裂）したり、異常過熱するため思わぬ事故につながるおそれがあります。
- アクセルペダルを過度に踏んで空ぶかししたり、タイヤを空転させないでください。トランスミッションなどを損傷し、思わぬ事故につながるおそれがあります。

⚠ 注意

- 数回試して脱出できないときは、脱出操作を中止し、けん引による救援を依頼してください。
  （けん引されるとき→ 217 ページ）

知識

4WD 車、スーパーデフロック装着車

- 状況によって、4WD に切り替えたり、スーパーデフロックを“ON”にすると、脱出が容易になる場合があります。

（パートタイム 4WD → 119 ページ）
（スーパーデフロック→ 122 ページ）

▼ 脱出手順

1 駐車ブレーキをかけ、シフトレバーをオートマチック車は Ⓟ レンジに、マニュアル車はニュートラルに入れ、エンジンを停止します。

2 タイヤ前後の土や雪などを取り除きます。

3 スリップしているタイヤの下に、石や木などをあてがい滑り止めにします。

4 エンジンを始動します。

5 シフトレバーをオートマチック車は Ⓓ または Ⓡ レンジに、マニュアル車は 1 速または Ⓡ に確実に入れ、注意しながら、アクセルペダルを軽く踏みます。

故障したとき

エンスト

安全な場所まで移動してください。
付近に人がいる場合は押してもらってください。

⚠ 注意

- 車を押す場合、シフトレバーはニュートラルに入れてください。
- エンジンスイッチを“START”の位置で保持しても、緊急避難時に車を動かすことができません。

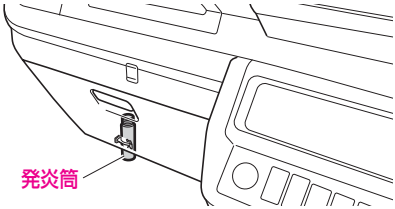
知識

- 緊急を要する場合は発炎筒で合図してください。

踏切内の場合

踏切内で動かなくなったり、脱輪などですぐ動かせない場合は、ただちに踏切の非常ボタンを押してください。

発炎筒



発炎筒は高速道路や踏切内での故障など、非常事態が発生したときに使用する非常信号用具です。

▼ 設置場所

グローブボックスの下に設置されています。

⚠ 警告

- 非常用信号としてのみお使いください。
- お子さまに絶対触らせないでください。いたずらなどにより発炎筒が発火し、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
- 発炎筒を使うとき、顔や体に向けるとやけどなど重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。
- ガソリンなどの可燃物のそばで使用しないでください。引火してやけどなど重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

⚠ 注意

- トンネル内では使用しないでください。煙で視界を悪くするので、トンネル内では非常点滅灯や懐中電灯で合図してください。

知識

- 使用方法は、発炎筒に記載されています。あらかじめよく読んでください。
- 発炎筒を使うときは、非常点滅灯も点滅させてください。
- 発炎筒には有効期限がありますので、事前に確認しておいてください。

けん引されるとき

故障車の移動は、トヨタ販売店、または JAF などに依頼し、車両積載車で 4 輪とも持ち上げて運搬してください。
（別冊の「メンテナンスノート」巻末のトヨタサービス網、JAF ロードサービスを参考にしてください。）

⚠ 警告

- 後輪だけを持ち上げたけん引は、車両が不安定になるので、行わないでください。
- 4WD 車の場合、前輪、または後輪だけを持ち上げたけん引は絶対にしないでください。
  前輪、または後輪だけを持ち上げて運搬すると、駆動装置が損傷したり、車がレッカー車（台車）から飛び出すおそれがあります。

やむを得ず、ロープによるけん引をするときは、下記の警告、注意にしたがってください。

⚠ 警告

- 他車をけん引する能力はありません。車体のいずれかにロープをかけるなどのけん引はしないでください。

⚠ 注意

- 下記の場合は、駆動系の故障が考えられるため、ロープによるけん引はせずにトヨタ販売店にご連絡ください。
  - エンジンはかかるが車が動かない
  - 異常な音がする

▼ けん引を行う前に

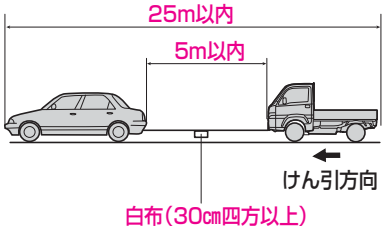
⚠ 警告

- けん引される車は、下記の事項を守って慎重に運転してください。通常と同じ感覚で運転すると、事故につながるおそれがあり危険です。
  - できるだけ人や荷物をおろし、車体を軽くしてください。
  - エンジンスイッチはハンドルロックを解除させるために“ACC”にし、シフトレバーはニュートラルにしてください。
  - エンジンが停止していると、いつもよりハンドル操作が重くなりますので、できるだけエンジンを始動してください。
    また、ブレーキの効きが悪くなりますので、通常より強めにブレーキペダルを踏んでください。

⚠ 注意

- ロープによるけん引を行う前に、駆動系に故障がないことを、トヨタ販売店にご確認ください。駆動系に故障の可能性がある場合は、ロープによるけん引はしないでください。
- オートマチック車、4WD 車の場合、ロープによるけん引をするときの速度は 30km/h 以下、けん引距離は 50km 以内にしてください。この速度・距離を超えると、トランスミッションに悪影響をおよぼし、損傷するおそれがあります。
- 長い下り坂では、ブレーキが過熱して、効かなくなるおそれがありますので、けん引しないでください。

けん引の方法

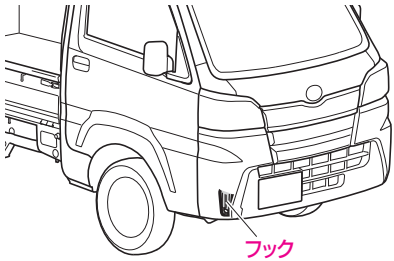


- 前の車の制動灯に注意して、常にけん引ロープをたるませないように気を付けてください。
- けん引ロープには必ず白い布（30cm四方以上）を付けてください。

ロープをかける位置

ロープは必ずけん引フックにかけてください。

フロント



リヤ *

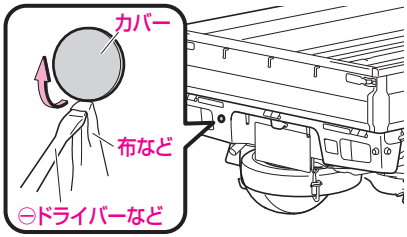
知識

- リヤのけん引フックは、他車をけん引するための物ではありません。車体が溝に落ちたときなどの脱出用として、ご使用ください。

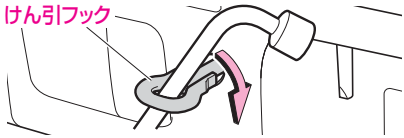
▼ けん引フックの取り付けかた

1 カバーを外す

- 薄刃の ⊖ドライバーなどをカバーの切りかきに差し込みます。
（傷付き防止のため、ドライバーの先端に布などを巻いてください）



2 けん引フックを差し込み、ホイールナットレンチでしっかりと固定する



⚠ 注意

- けん引フックを使用したあとは、フックを取り外し、カバーを確実に取り付けてください。フックを取り付けたままでテールゲートを開けると、テールゲートが損傷するおそれがあります。

* リヤのけん引フックは、トヨタ販売店で購入できます。

パンクしたとき

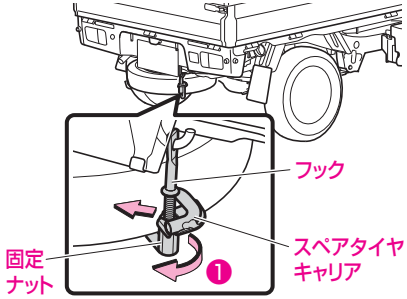
高速走行中にパンクやバースト（破裂）したときは、ハンドルをしっかり持って、徐々にブレーキをかけてスピードを落としてください。
急ブレーキをかけるとハンドルを強く取られ危険です。

スペアタイヤの取り外しかた / 取り付けかた

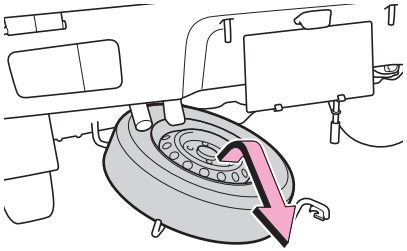
▼ 取り外しかた

1 ホイールナットレンチでフックの固定ナットをゆるめる（❶）

2 スペアタイヤキャリアを少し持ち上げ、フックから外す



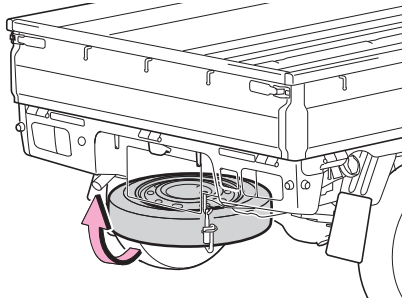
3 スペアタイヤキャリアを下ろし、タイヤを取り外す



▼ 取り付けかた

逆の手順で行います。

- ホイール意匠面を上向きにして、スペアタイヤキャリアの奥に当ててからフックに掛けてください。
- フックに掛からないときは、スペアタイヤの後端部分を矢印の方向に少し持ち上げた状態で、フックに掛けてください。



⚠ 警告

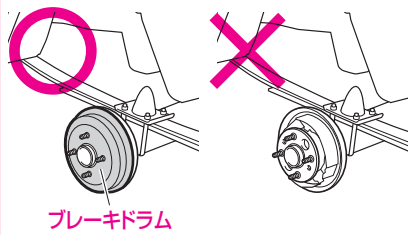
- スペアタイヤを収納するときは、取り付け状態を十分確認してください。取り付けが不安定な状態になっていると、走行中の脱落により思わぬ事故の原因になります。
- スペアタイヤに足をかけないでください。スペアタイヤキャリアが変形し、スペアタイヤがガタつき、外れて落下するおそれがあります。

タイヤの交換

▼ 交換作業を行うにあたって

⚠ 警告

- ジャッキアップした車の下にもぐらないでください。万一ジャッキが外れると身体が車の下敷きになり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあり危険です。
- 駐車ブレーキは、必ずしっかりとかけてください。駐車ブレーキをかけずに後輪タイヤを取り外すと、まれにブレーキドラムがタイヤと一緒に外れることがあります。タイヤを外したあとは、ブレーキドラムが外れていないことを確認してください。
  ブレーキドラムが外れたままタイヤを交換すると、ブレーキが効かず思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。



- タイヤは必ず指定サイズのタイヤを使用してください。指定サイズ以外のタイヤを使用すると、車両の安定性が損なわれたり、制動距離が長くなるなどして、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。また、ABS が正常に作動しないことがあります。

⚠ 警告

- タイヤは 4 輪とも指定サイズで、同一サイズ、同一メーカー、同一銘柄および同一トレッドパターン（溝模様）の物を装着してください。
- この車専用以外のホイールを使用しないでください。専用以外のホイールを使用すると、走行装置やブレーキ装置に支障をきたし、安全な走行ができなくなります。
- 傷、変形がある物は再使用しないでください。

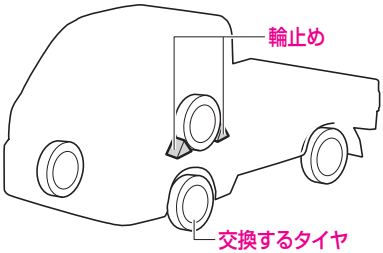
⚠ 注意

- タイヤの空気圧を確認してください。
  （タイヤの空気圧は運転席側ドア開口部に記載しています）
- 車を交通のさまたげにならず安全に作業できる平らな場所に移動させて作業を行ってください。
- パンクなどにより路上で作業を行うときは、交通のさまたげにならない場所に寄せ、非常点滅灯を点滅させ、停止表示板を使用してください。
- 人は車から降り、重い荷物は車から降ろしてください。
- タイヤを新品に交換する場合は、必ず指定のサイズのタイヤに交換してください。

交換の手順

1 駐車ブレーキをしっかりとかけ、エンジンは停止し、シフトレバーをマニュアル車は1速、オートマチック車は Ⓟ レンジの位置にする

2 交換するタイヤと対角線上にあるタイヤの前後に輪止めを置く



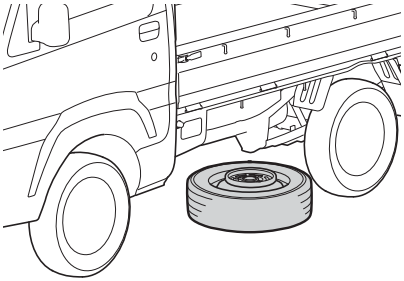
知識

- 輪止めは、トヨタ販売店で購入できますので、トヨタ販売店にご相談ください。
- 輪止めが無い場合は、タイヤを固定できる大きさの石などで代用できます。

3 工具、ジャッキ、スペアタイヤを取り出す

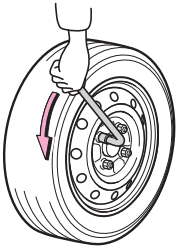
（格納場所→ 208 ページ）
（ジャッキの使いかた→ 210 ページ）
（パンクしたとき→ 220 ページ）

4 ジャッキが外れた場合の危険防止のため、スペアタイヤは交換するタイヤの近くの車体の下に置く



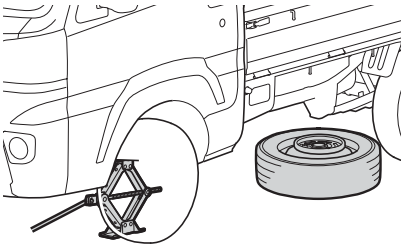
▼ タイヤの取り外し

1 ホイールナットはホイールナットレンチを使って、手で回るくらいまでゆるめる



2 タイヤと路面が少し離れるまでゆっくりジャッキアップし、車体を上げる

（ジャッキの使いかた→ 210 ページ）

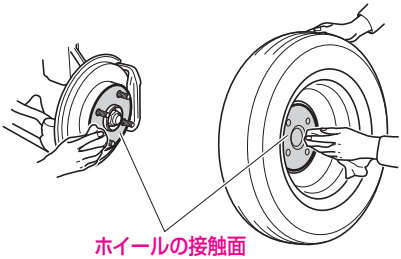


3 ホイールナット（4 つ）を外し、タイヤを取り外す

- タイヤを地面に置くときは、傷が付かないように、ホイール意匠面を上向きにしてください。

▼ タイヤの取り付け

1 取り付けるタイヤのホイール接触面の汚れをふき取る



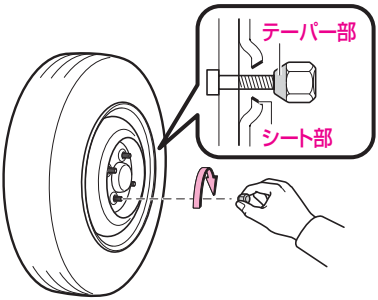
⚠ 警告

- ホイールの取り付け部やホイール裏側の取り付け面がほこりなどで汚れていると、走行中にナットがゆるみ、タイヤが外れるおそれがあり危険です。

2 タイヤを取り付ける

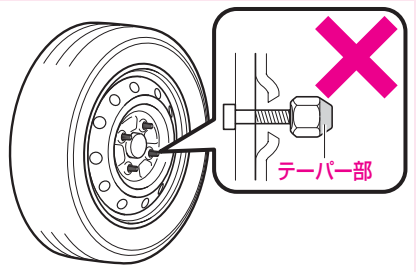
3 ホイールナットを、タイヤががたつかない程度まで仮締めする

- ナットのテーパー部がホイールのシート部に軽くあたるまで回します。



⚠ 警告

- 必ずナットのテーパー部を内側にして取り付けてください。テーパー部を外側にして取り付けると、ホイールが破損し外れてしまい、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあり危険です。

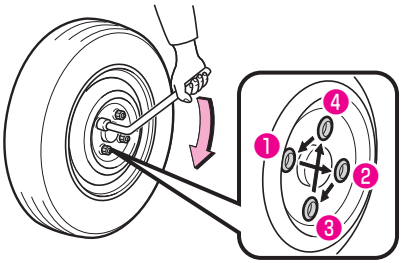


- ナットやボルトにオイルやグリースをぬらないでください。ナットがゆるんでタイヤが外れ、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。また、必要以上に締め付けられて、ナットやボルトが破損したり、ホイールが損傷するおそれがあります。

4 車体をおろす

5 ナットを締め付ける

- ナットはホイールナットレンチで、対角線上に 2、3 度しっかり締め付ける
  - 締付力（レンチ先端にて）：440 ～ 590N {45 ～ 60kgf}
  - 締付トルク：103N·m {1,050kgf·cm}



⚠ 注意

- ホイールナットレンチを足で踏んだり、パイプを継ぎたしたりしないでください。必要以上に締め付けると、ボルトが破損するおそれがあります。

6 工具、ジャッキ、タイヤを片付ける

▼ タイヤを取り付けた後は

- しばらく走行したあと、ホイールナットにゆるみがないことを確認してください。

⚠ 注意

- 走行中、ハンドルや車体に振動が出た場合は、タイヤのバランス点検をトヨタ販売店で受けてください。

バッテリーあがりの処置

下記のような症状が見られるとバッテリーあがりが考えられます。

- スターターが回らない
- スターターが回っても回転が弱く、なかなかエンジンがかからない
- ヘッドランプがいつもより暗い
- ホーンの音が小さい、または鳴らない

処置のしかた

▼ 処置を行う前に

⚠ 警告

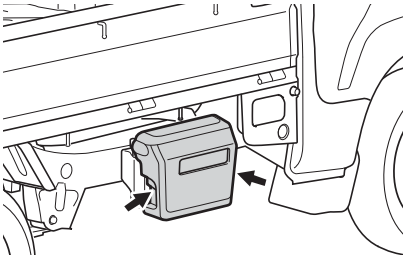
- 火気をバッテリーに近付けないでください。バッテリーから発生する可燃ガスに引火、爆発し、やけどなど重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。
- バッテリー液が万一皮膚や目に付いてしまったら、その箇所を多量の水で十分洗浄して、ただちに医師の診断を受けてください。バッテリー液には希硫酸が含まれており、毒性、腐食性があります。
- 処置の手順でブースターケーブルをバッテリーあがり車のバッテリーの ⊖ 端子に接続しないでください。火花が発生し、バッテリーから発生する可燃ガスに引火する危険があります。
- バッテリーの液量がバッテリー側面に表示されている下限（LOWER LEVEL）以下になったまま使用または充電をしないでください。バッテリーの破裂（爆発）の原因となるおそれがあります。
- ブースターケーブルを接続するとき、端子と端子を絶対に接触させないでください。火花が発生し、引火する危険があります。

⚠ 注意

- 押しがけによる始動はできません。
- 必ず 12V バッテリー車と接続してください。
- ブースターケーブル接続の際には、⊕ 端子をボデー金属部や ⊖ 端子に接触させたり、逆に接続しないでください。

▼ バッテリーカバーの外しかた

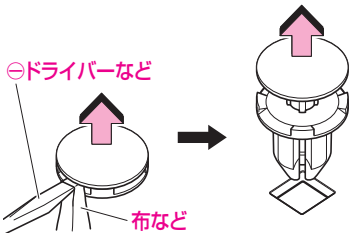
クリップ（2カ所）を外して取り外す



知識

クリップの取り付け、取り外しについて

- 取り外すときは、⊖ドライバーなどを使用して中央部を浮かしたあと、クリップ全体を引っ張ります。



- 取り付けるときは、クリップを差し込み、中央部を押し込みます。

▼ 処置の手順

1 バッテリーの ⊕ 端子のカバーを外す

2 赤ブースターケーブルを以下の順に接続する

❶バッテリーあがり車の ⊕ 端子

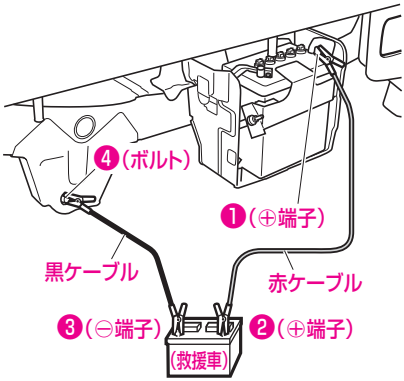
❷救援車の ⊕ 端子

3 黒ブースターケーブルを以下の順に接続する

❸救援車の ⊖ 端子

❹未塗装の金属部

（図に示すような固定された部分）



4 救援車のエンジンを始動し、エンジン回転を少し高めにして、約 5 分間バッテリーあがり車のバッテリーを充電する

5 救援車のエンジン回転を維持したまま、エンジンスイッチをいったん“ON”にしてからバッテリーあがり車のエンジンを始動する

6 バッテリーあがり車のエンジンが始動したら、ブースターケーブルを接続順序の逆で外す

⚠ 注意

バッテリーあがりを防ぐために

- 下記のことをお守りください。
  - エンジンを止めたままライトをつけたり、オーディオを長時間使用しない。
  - エンジン回転中でも渋滞などで長時間止まっている場合は、不要な電装品の電源を切る。

バッテリーを交換するときは

⚠ 警告

- バッテリーを固定する金具やバッテリー端子のナットを外したあとは、確実に固定してください。走行中にゆるんで外れると、ショートの原因となり、火災につながるおそれがあり危険です。

知識

- バッテリー液量が減っていると充電能力が低下して寿命が短くなります。ときどき点検して液の補充をしてください。

オーバーヒートの処置

下記の状態がオーバーヒートです。

- 水温警告灯が赤色に点滅・点灯し、警告ブザーが鳴ったとき
- エンジンルームから蒸気が立ちのぼり、エンジンの出力が低下したとき

処置のしかた

車を安全な場所に止め、以下の処置をしてください。

⚠ 警告

処置を行う前に

- 水温が高いときは、ラジエーターキャップを外さないでください。冷却水の圧力がラジエーターキャップにかかっているので、蒸気や熱湯が吹き出し、やけどなど重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。
- 冷却ファンに絶対に触れないでください。突然、ファンが回転するため、手や衣服などが巻き込まれたりして思わぬ事故につながるおそれがあります。

▼ 処置の手順

1 エンジンルームから蒸気が出ているとき

- エンジンを止めて、蒸気が出なくなるまでエンジンルームを開けないでください。蒸気が出なくなったらエンジンを始動しエンジンルームを開け、風通しを良くします。

2 エンジンルームから蒸気が出ていないとき

- エンジンをかけたままエンジンルームを開け、風通しを良くします。

3 1 または 2 の処置を行ったあと、エンジンルームをチェックする

- 下記のような状態であれば、ただちにエンジンを止めてトヨタ販売店にご連絡ください。
  - 冷却ファンが回転していないとき
  - ホース類などから蒸気や熱湯が漏れているとき
  - ラジエーターリザーバータンクの水がないとき
  - ファンベルトが切れているとき

4 水温警告灯が消灯し、警告ブザーが止まったらエンジンを止める

5 エンジンが十分に冷えてから冷却水の量、ファンベルトのゆるみ、ラジエーターのコア（放熱部）の著しい汚れやゴミの付着の有無などを点検する

6 冷却水が不足しているときは、補給する

- 冷却水の補給は、別冊の「メンテナンスノート」を参照してください。

⚠ 注意

- 冷却水は、エンジンが熱いときに入れないでください。急に冷たい冷却水を入れると、エンジンが損傷するおそれがあります。冷却水は、エンジンが十分に冷えてからゆっくりと入れてください。

📖 知識

オーバーヒートを防ぐために

- 日頃から冷却水の量と冷却水の漏れがないかを点検するように心がけてください。（冷却装置、冷却水の点検は別冊の「メンテナンスノート」参照）

キーを閉じ込めたとき

キーを閉じ込めたときは、JAF などを呼んでください。
別冊の「メンテナンスノート」巻末の JAF ロードサービスのご案内を参照してください。

▼ キーをなくした場合

保管していたキーナンバープレートを最寄りのトヨタ販売店にお持ちください。

知識

- キーの閉じ込みで困らないために下記の習慣を心がけてください。
  - 日頃からキーを使ってロックしてください。
  - バッグなどにスペア キーを入れておいてください。

車両を緊急停止するには

万一、車が止まらなくなったときの非常時のみ、下記の手順で車両を停止させてください。

⚠ 警告

走行中にやむを得ずエンジンを停止するときは

- ブレーキの効きが悪くなりハンドル操作が重くなるため、車のコントロールがしにくくなり危険です。エンジンを停止する前に、可能な限り減速するようにしてください。
- キーを抜くとハンドルがロックされるため、キーは絶対に抜かないでください。

緊急停止方法

1 ブレーキペダルを両足でしっかりと踏み続ける

⚠ 警告

- ブレーキペダルを繰り返し踏まないでください。通常より強い力が必要となり、制動距離も長くなります。

2 シフトレバーをニュートラルに入れる

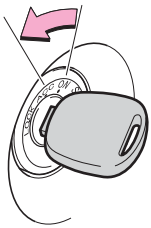
▼ シフトレバーがニュートラルに入った場合

3 減速後、車を安全な道路脇に停めて、エンジンを停止する

▼ シフトレバーがニュートラルに入らない場合

4 ブレーキペダルを両足で踏み続け、可能な限り減速させる

5 エンジンスイッチを“ACC”にして、エンジンを停止する



6 車を安全な道路脇に停める

事故が起きたとき

交通事故が起きたときはあわてずに下記の処置を取りましょう。

▼ 処置の方法

1 ただちに車を止めます。車を道のはしに停車し、昼夜問わず非常用表示板を立てるなどの必要な処置を取ります。

2 負傷者を救護します。人命救助が第一です。負傷者があれば救急車を呼んだり、最寄りの救急病院などへ運ぶなどして救護します。

3 警察へ事故の報告をします。最寄りの警察へ事故を報告して警察官の指示にしたがいます。この届出は法令で義務付けられています。

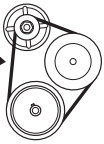
4 相手方の確認とメモをします。氏名、住所、電話番号などをメモしておきます。

5 購入した販売会社と保険会社へ連絡します。

MEMO

MEMO

サービスデータ

項目		サービスデータ	
点火プラグ	メーカー	NGK	デンソー
	プラグ型式	ILKR6F11	SXU20HPR11
ファンベルト	たわみ量(㎜) 押力98N{10kgf}時	7.8～9.7(点検時) 点検位置 ➡ 	
アイドリング回転数(rpm)		800	
ブレーキペダル	遊び(㎜)	0.5～2.0	
	床板とのすき間(㎜) (踏力294N{30kgf}時)	105以上	
クラッチペダル	遊び(㎜)	15～25	
	床板とのすき間(㎜) (切れ残りしろ*)	21.4以上	
駐車ブレーキ	引きしろ (操作力196N{20kgf}時)	6～10ノッチ	
バッテリー	標準車	34B19L	
	寒冷地仕様車	44B20L	
フューエルタンク	容量(ℓ) (無鉛ガソリン使用)	38	
ウォッシャータンク	容量(ℓ)	1.4	

＊ クラッチが切れた位置からクラッチペダルを床いっぱいまで踏み込んだ位置までの動き量

<table>
<tr><th colspan="3">項　　目</th><th>サービスデータ</th></tr>
<tr><td rowspan="3">エンジンオイル</td><td colspan="2">使用オイルと交換時期</td><td>・トヨタキヤッスルモーターオイル SAE5W-30（API分類SN/RC、ILSAC規格GF-5）
・アミックス EXTRA 5W-30*1
6か月ごとまたは、10,000kmごと（5,000kmごと*2）のどちらか早い方</td></tr>
<tr><td rowspan="2">交換量（ℓ）</td><td>オイル交換時</td><td>約3.2</td></tr>
<tr><td>オイルとオイルフィルター（オイルクリーナー）交換時</td><td>約3.4</td></tr>
<tr><td>オイルフィルター（オイルクリーナー）</td><td colspan="2">交換時期</td><td>10,000kmごと（5,000kmごと*2）</td></tr>
<tr><td rowspan="9">トランスミッションオイル</td><td colspan="2">交換時期</td><td>100,000kmごと</td></tr>
<tr><td rowspan="2">使用オイル</td><td>M/T車</td><td>トヨタ純正MGギヤオイルスペシャルⅡ SAE75W-90（API分類GL-3）</td></tr>
<tr><td>A/T車</td><td>アミックスオートフルードD-Ⅲ</td></tr>
<tr><td rowspan="6">交換量（ℓ）</td><td rowspan="4">M/T車</td><td rowspan="2">2WD車</td><td>エコ・楽モード切替機構装着車 約1.2</td></tr>
<tr><td>上記以外 約1.1</td></tr>
<tr><td rowspan="2">4WD車</td><td>Hi-Loモード切替機構装着車 約2.3（トランスファ含む）</td></tr>
<tr><td>上記以外 約1.95（トランスファ含む）</td></tr>
<tr><td rowspan="2">A/T車</td><td>2WD車</td><td>約1.2（ドレン）、約4.3（全容量）</td></tr>
<tr><td>4WD車</td><td>約1.0（ドレン）、約4.1（全容量）</td></tr>
</table>

＊1　新車時に充填されているオイルです。

＊2　シビアコンディション条件での定期交換の場合
詳しくは別冊の「メンテナンスノート」を参照してください。

項目			サービスデータ
トランスファオイル（A/T車）	交換時期		100,000kmごと
	使用オイル		トヨタ純正MGギヤオイルスペシャルⅡ SAE75W-90 （API分類GL-3）
	交換量（ℓ）		約1.6
デファレンシャルオイル	交換時期		30,000kmごとまたは2年ごと
	使用オイル		トヨタ純正ハイポイドギヤオイルSX SAE85W-90 （API分類GL-5）
	交換量（ℓ）	フロント	約0.5
		リヤ	約1.1
ブレーキオイル	交換時期		2年ごと
	使用オイル		トヨタ純正ブレーキフルード 2500H-A
エアクリーナーエレメント	交換時期		40,000kmごと（20,000kmごと*）
冷却水（除くリザーバータンク）	交換時期		2年ごと
	使用液		トヨタ純正スーパーロングライフクーラント
	規定濃度（%）		30（寒冷地50）
	全容量（ℓ）	M/T車	約3.6
		A/T車	約3.7

＊ シビアコンディション条件での定期交換の場合
詳しくは別冊の「メンテナンスノート」を参照してください。

タイヤサイズ	タイヤ空気圧（空車時:kPa{kgf/㎠}		タイヤの溝の深さ（㎜）	タイヤローテーション時期
	前　輪	後　輪		
145R12-6PR	(200{2.0}) [280{2.8}]	(240{2.4}) [350{3.5}]	1.6以上	5,000㎞

(　)は軽積時（150㎏積載まで）の空気圧、[　]は定積載時の空気圧を示します。

MEMO

さくいん

ア

アイドリング回転数 …… 234
アウター（ドア）ミラー …… 77
アクセサリーソケット …… 157
アシストグリップ …… 160
アンチロックブレーキシステム（ABS） …… 123
アンテナ …… 134

イ

イージースタートサポート …… 104
EPS（電動パワーステアリング）警告灯 …… 87
EBD …… 123
イグニッション（エンジン）スイッチ …… 110
イグニッションキー …… 54
移動式灰皿 …… 158
インジケーターランプ（表示灯） …… 88
インテグレート CD・AM/FM 付ステレオ・AUX 端子 …… 143
インナー（ルーム）ミラー …… 77
インパネセンターポケット …… 162

ウ

ウインカー（方向指示）スイッチ …… 100
ウインドウォッシャー液の補給 …… 179
ウインドガラス
・手動式ウインド …… 65
・パワーウインド …… 61
ウォーニングランプ（警告灯） …… 80
ウォッシャースイッチ …… 98
ウォッシャータンクの容量 …… 234
上向き表示灯 …… 89
運転席 SRS エアバッグ …… 46
運転席シートベルト未装着警告灯 …… 84
運転席左側ポケット …… 162
運転席右側ポケット …… 162

エ

エアクリーナーエレメントのデータ …… 236
エアコン …… 126
エアコンガス …… 184
エアバッグ …… 46
エアフィルター …… 184
AM/FM 付ラジオ …… 137
AM ラジオ
・インテグレート CD・AM/FM 付ステレオ・AUX 端子 …… 146
・AM/FM 付ラジオ …… 140
エコ・楽モード切替機構 …… 118
A/T（オートマチック）車 …… 102
ABS …… 123
AUX（外部入力接続）端子 …… 154
SRS エアバッグ …… 46

FM ラジオ
・インテグレート CD・AM/FM 付ステレオ・AUX 端子 …… 146
・AM/FM 付ラジオ …… 140
M/T（マニュアル）車 …… 117
LLC（冷却水）のデータ …… 236
エンジンオイルのデータ …… 235
エンジンオイルレベルゲージ …… 177
エンジンキー …… 54
エンジン警告灯 …… 80
エンジンスイッチ …… 110
エンジンルーム …… 172
エンジンルームの開閉 …… 173

オ

オイルの交換量 …… 235
オイルプレッシャー（油圧）警告灯 … 81
大型インパネアッパーポケット …… 162
大型インパネロアポケット …… 162
オーディオ …… 134
オート（パワー）ウインド …… 61
オートマチックシフトインジケーター …… 90
オートマチック車 …… 102
オーバーヒート …… 227
お子さま専用シート …… 40
オドメーター（積算距離計） …… 93
オルタネーター（ファン）ベルトの点検基準値 …… 234

カ

ガードフレーム …… 70
カードホルダー
・大型インパネロアポケット …… 163
・サンバイザー …… 159
鍵（キー） …… 54
カップホルダー …… 164
間欠ワイパー（ワイパー・ウォッシャースイッチ）…… 98

キ

キー …… 54
キー（エンジン）スイッチ …… 110
キー閉じ込み防止機能 …… 60
キー抜き忘れ警告ブザー …… 111
キーの電池交換 …… 198
キーレスエントリー …… 56
給油口（フューエルキャップ） …… 73
緊急停止するには …… 229

ク

空気圧 …… 237
空調 …… 126
クーラー（エアコン） …… 126
クーラント（冷却水）のデータ …… 236
区間距離計（トリップメーター） …… 93
曇り取り …… 129
クラクション（ホーン）スイッチ …… 99
クラッチスタートシステム …… 102
クリーナー（オイルフィルター）のデータ …… 235
クリーンエアフィルター …… 184
グローブボックス …… 162

ケ

警音器（ホーン）スイッチ …… 99
計器（メーター） …… 92
警告灯 …… 80
警告ブザー
・キー抜き忘れ警告ブザー …… 111
・ライト消し忘れ警告ブザー …… 97
ゲート
・サイドゲート …… 70
・テールゲート …… 68
けん引 …… 217

コ

工具 …… 208
高水温警告灯 …… 83
コンビネーションメーター …… 92

サ

サービスデータ …… 233
サイドアンダーミラー …… 78
サイドゲート …… 70
サイド（駐車）ブレーキ …… 112
サイド（ドア）ミラー …… 77
作業灯スイッチ …… 71
3 点式シートベルト …… 35
サンバイザー …… 158

シ

CD プレーヤー …… 150
シート …… 76
シートベルト …… 35
シートベルト未装着警告灯 …… 84
室内照明 …… 156
シフトインジケーター …… 90
シフトレバー
・オートマチック車 …… 113
・マニュアル車 …… 117
シフトレンジ表示灯 …… 90
シフトロック装置 …… 116
車載工具 …… 208
ジャッキの使いかた …… 210
車両を緊急停止するには …… 229
集中（パワー）ドアロック …… 60
充電警告灯 …… 81
手動式ウインド …… 65
使用オイル …… 235
乗降グリップ …… 160
照明 …… 156
助手席 SRS エアバッグ …… 46
助手席シートバックポケット …… 163
助手席トレイ …… 162
ショッピングフック …… 165

ス

水温警告灯 …… 83
水温表示灯 …… 89
スーパーデフロック …… 122
スタック（立ち往生）したとき …… 214
スノー（タイヤ）チェーン …… 204
スパーク（点火）プラグの型式 …… 234
スピードメーター …… 93
スペアタイヤ …… 220

セ

積算距離計（オドメーター） …… 93
セレクト（シフト）レバー
・オートマチック車 …… 113
・マニュアル車 …… 117
洗車 …… 168
前照灯（ヘッドランプ）の切り替え … 96
センタートレイ …… 162

ソ

速度計（スピードメーター） …… 93

タ

ターンシグナルインジケーター
（方向指示表示灯） …… 88
ターンシグナル（方向指示）
スイッチ …… 100
タイヤの交換 …… 221
タイヤチェーン …… 204
タイヤのデータ …… 237
タイヤのローテーション …… 181
暖房（エアコン） …… 126

チ

チェーン …… 204
チェンジ（シフト）レバー
・オートマチック車 …… 113
・マニュアル車 …… 117
チケットホルダー …… 159
チャージ（充電）警告灯 …… 81
チャイルドシート …… 40
チャイルドシートの選びかた …… 42
チャイルドシートの固定のしかた …… 43
チャイルドシートの種類 …… 41
駐車ブレーキ …… 112
駐車ブレーキの点検基準値 …… 234

ツ

ツール（工具） …… 208

テ

低水温表示灯 …… 89
ディスクホイール（タイヤ）の
交換 …… 221
ディスクホイール（タイヤ）の
データ …… 237
テールゲート …… 68
デファレンシャルオイルのデータ … 236
デフロスター（曇り取り） …… 129
デフロックスイッチ …… 122
デュアル SRS エアバッグ …… 46
点火プラグの型式 …… 234
電球の交換 …… 188
点検整備項目（サービスデータ） … 233
電池の交換 …… 198
電動パワーステアリング警告灯 …… 87

ト

ドア …… 57
ドアウインド
・手動式ウインド …… 65
・パワーウインド …… 61
ドアポケット …… 163
ドアミラー …… 77
ドアロック …… 60
時計
・インテグレート CD・AM/FM 付ステレオ・AUX 端子 …… 144
・AM/FM 付ラジオ …… 138
トランスファオイルのデータ …… 236
トランスミッションオイルのデータ …… 235
トリップメーター（区間距離計） …… 93
ドリンクホルダー …… 164

ニ

荷台作業灯スイッチ …… 71
荷台関係 …… 66
荷台ステップ …… 72

ネ

燃料カットシステム …… 214
燃料給油口（フューエルキャップ） … 73
燃料計 …… 93
燃料残量警告灯 …… 86
燃料（フューエル）タンクの容量 … 234

ハ

パーキング（駐車）ブレーキ …… 112
パーキング（駐車）ブレーキの点検基準値 …… 234
パートタイム4WD 車 …… 119
灰皿 …… 158
ハイビーム（ヘッドランプ上向き）表示灯 …… 89
Hi-Lo モード切替レバー …… 121
ハザードインジケーター（非常点滅表示灯） …… 88
ハザード（非常点滅灯）スイッチ … 100
挟み込み防止機能 …… 62
発炎筒 …… 216
バック（ルーム）ミラー …… 77
パッシング（ヘッドランプの切り替え） … 96
バッテリーあがり …… 225
バッテリーあがり防止機能 …… 156
バッテリーの型式 …… 234
バルブ（電球）の交換 …… 188
パワーウインド …… 61
パワーステアリング警告灯 …… 87
パワードアロック …… 60
パンク …… 220
半ドア警告灯 …… 85
ハンド（レバー式駐車）ブレーキ … 112

ヒ

ヒーター（エアコン） …… 126
非常点滅灯スイッチ …… 100
非常点滅表示灯 …… 88
ヒューズボックス …… 185
表示灯 …… 88
ピラーアンテナ …… 134

フ

ファンベルトの点検基準値 …… 234
V（ファン）ベルトの点検基準値 … 234
フィルターのデータ …… 235
フォースリミッター機構付
シートベルト …… 37
フォグランプスイッチ …… 98
フォグランプ表示灯 …… 89
不凍液（冷却水）のデータ …… 236
フューエルウォーニング
（燃料残量警告灯） …… 86
フューエルキャップ …… 73
フューエルタンクの容量 …… 234
フューエル（燃料）
カットシステム …… 214
フューエルメーター（燃料計） …… 93
冬用タイヤ …… 204
プラグの型式 …… 234
プリテンショナー＆フォースリミッター
機構付シートベルト …… 37
ブレーキ（ABS） …… 123
ブレーキオイルのデータ …… 236
ブレーキオーバーライドシステム … 102
ブレーキオーバーライドシステム
表示灯 …… 91
ブレーキ警告灯 …… 82
ブレーキペダルの点検基準値 …… 234
ブレード（ワイパー）の交換 …… 182
フロントシート …… 76
フロントシートベルト …… 35
フロントドア …… 57
フロントフォグランプスイッチ …… 98
フロントワイパー・ウォッシャー
スイッチ …… 98

ヘ

ヘッドランプ上向き表示灯 …… 89
ヘッドランプの切り替え …… 96
ヘッドランプマニュアル
レベリングスイッチ …… 97
ベルトの点検基準値 …… 234

ホ

ホイール（タイヤ）の交換 …… 221
ホイール（タイヤ）のデータ …… 237
方向指示スイッチ …… 100
方向指示表示灯 …… 88
ホーンスイッチ …… 99
補給口（フューエルキャップ） …… 73
ポジション表示
（シフトインジケーター） …… 90
ボトルホルダー …… 164

マ

窓ガラス
・手動式ウインド …… 65
・パワーウインド …… 61
マニュアルシフトレバー …… 117

ミ

ミラー
・ドアミラー …… 77
・ルームミラー …… 77

メ

メーター …… 92
メンテナンスデータ
（サービスデータ）…… 233

ユ

油圧警告灯 …… 81

ヨ

4 速オートマチックトランス
ミッション …… 102
4WD 車 …… 103

ラ

ライト消し忘れ警告ブザー …… 97
ライト自動消灯機能 …… 96
ライトスイッチ …… 95
ラジエーター液（冷却水）の
データ …… 236
ラジオ
・インテグレート CD・AM/FM 付
ステレオ・AUX 端子 …… 146
・AM/FM 付ラジオ …… 140
ラバー（ワイパー）の交換 …… 182

リ

リモコンスイッチ …… 58
リヤコンソール …… 162
リヤデファレンシャルオイルの
データ …… 236

ル

ルームミラー …… 77
ルームランプ …… 156

レ

冷却水のデータ …… 236
冷房（エアコン） …… 126
レバー式駐車ブレーキ …… 112
レベリングスイッチ …… 97

ロ

ローテーション …… 181

ワ

ワイパー・ウォッシャースイッチ …… 98
ワイパーの交換 …… 182
ワイヤレスドアロック
（キーレスエントリー）…… 56
W 数（電球） …… 189

3

3 点式シートベルト …… 35

4

4 速オートマチックトランス
ミッション …… 102
4WD インジケーター …… 91
4WD 切り替えスイッチ …… 119
4WD 車 …… 103

A

ABS …… 123
ABS 警告灯 …… 86
A/C（エアコン） …… 126
AM/FM 付ラジオ …… 137
AM ラジオ
・インテグレート CD・AM/FM 付
ステレオ・AUX 端子 …… 146
・AM/FM 付ラジオ …… 140
A/T（オートマチック）車 …… 102
AUX（外部入力接続）端子 …… 154

C

CD プレーヤー …… 150

E

EBD …… 123
EPS（電動パワーステアリング）
警告灯 …… 87

F

FM ラジオ
・インテグレート CD・AM/FM 付
ステレオ・AUX 端子 …… 146
・AM/FM 付ラジオ …… 140

H

Hi-Lo モード切替レバー …… 121

L

LLC（冷却水）のデータ …… 236

M

M/T（マニュアル）車…… 117

S

SRS エアバッグ …… 46
SRS エアバッグ警告灯 …… 87
SRS エアバッグコンピューター …… 52

V

V（ファン）ベルトの点検基準値 … 234

W

W 数（電球）…… 189

● “アミックス” “エコ・楽モード” はダイハツ工業株式会社の登録商標です。

MEMO

MEMO

MEMO

お問い合わせ、ご相談は
下記へお願いいたします。

トヨタ自動車株式会社　お客様相談センター

全国共通・フリーコール

0800-700-7700

オープン時間　365日　9:00～18:00

所在地　〒450－8711　名古屋市中村区名駅4丁目7番1号

ご愛用車のお問い合わせは、自動車検査証（車検証）をご用意頂くとスムーズな対応が可能です。

「個人情報保護方針」については、
http://www.toyota.co.jp にて掲載しております。

「リコール等情報」については、
http://toyota.jp/recall/index.html にて掲載しております。

トヨタ自動車株式会社
http://toyota.jp

M B5198
01999—B5198
KB-2018年 4 月 4 日
2017年11月14日 初版
2018年 4 月11日 2 版
ピクシス トラック